

2. 薬学部授業概要索引

1 学年

科 目 名		開講時期	単位数		対象 クラス	科目担当者	掲載 ページ	備考
			必修	選択				
一 般 教 養 科 目	薬学 周 辺	こどもの発達A		1	1P 全	鈴木 敏城	54・55	1～4年で4単位以上 を選択必修
		こどもの発達B		1	1P 全	鈴木 敏城	56・57	
		スポーツと健康A		1	1P 全	—	—	
		スポーツと健康B		1	1P 全	—	—	
		医薬の歴史A		1	1P 全	押尾 茂	58・59	
		医薬の歴史B		1	1P 全	押尾 茂	60・61	
		現代の社会福祉A		1	1P 全	—	—	
		現代の社会福祉B		1	1P 全	田中 治和	62・63	
		高齢者の健康A		1	1P 全	小池・河野・ 廣瀬・山崎・ 鈴木（史）	64・65	
		高齢者の健康B		1	1P 全	小池・河野・ 廣瀬・山崎・ 鈴木（史）	66・67	
		基礎薬学計算		1	1P 全	和田・木田	68・69	
	人文 科 学	言語学A		1	1P 全	伊藤 頼位	70・71	1～4年で4単位以上 を選択必修
		言語学B		1	1P 全	伊藤 頼位	72・73	
		哲学A		1	1P 全	鈴木 敏城	74・75	
		哲学B		1	1P 全	鈴木 敏城	76・77	
		文化学A		1	1P 全	劉 芳	78・79	
		文化学B		1	1P 全	—	—	
		文学A		1	1P 全	川崎美佐子	80・81	
		文学B		1	1P 全	川崎美佐子	82・83	
	社会 科 学	経済学A		1	1P 全	後藤 康夫	84・85	1～4年で4単位以上 を選択必修
		経済学B		1	1P 全	後藤 康夫	86・87	
		社会学A		1	1P 全	高橋 嘉代	88・89	
		社会学B		1	1P 全	高橋 嘉代	90・91	
		法学A		1	1P 全	—	—	
		法学B		1	1P 全	—	—	
		歴史学A		1	1P 全	柳田 春子	92・93	
		歴史学B		1	1P 全	柳田 春子	94・95	
	外国 語	薬学英语Ⅰ	1		1P1,2 1P3,4	川崎美佐子	96・97	1～4年で2単位以上 を選択必修
		薬学英语Ⅱ	1		1P1,2 1P3,4	川崎美佐子	98・99	
		基礎英語演習		0.5	1P 全	伊藤 頼位	100・101	
		英語検定Ⅰ		0.5	1P 全	福富 靖之	102・103	
		英語検定Ⅱ		0.5	1P 全	福富 靖之	104・105	
		英語検定Ⅲ		0.5	1P 全	福富 靖之	106・107	
		英会話Ⅰ		0.5	1P 全	伊藤 頼位	108・109	
		英会話Ⅱ		0.5	1P 全	伊藤 頼位	110・111	
		英会話Ⅲ		0.5	1P 全	伊藤 頼位	112・113	
		英語圏言語文化研修		0.5	1P 全	伊藤 頼位	114・115	
		中国語Ⅰ		0.5	1P 全	劉 芳	116・117	
		中国語Ⅱ		0.5	1P 全	劉 芳	118・119	
		中国語Ⅲ		0.5	1P 全	劉 芳	120・121	
		外国語単位認定科目A		0.5	1P 全	—	—	
		外国語単位認定科目B		0.5	1P 全	—	—	
		外国語単位認定科目C		0.5	1P 全	—	—	

一般教養科目	実技	体育A	前1		0.5	1P 全	中野 浩一	122・123	1～4年で1単位以上を選択必修
		体育B	前2		0.5	1P 全			
		美術A	前1		0.5	1P 全	内藤 良行	124・125	
		美術B	前2		0.5	1P 全			
		書写A	前1		0.5	1P 全	鈴木 蒼舟	126・127	
		書写B	前2		0.5	1P 全			
基礎教育科目	基礎科学	数学Ⅰ	前2	1		1P 全	和田・木田	128・129	
		数学Ⅱ	後1	1		1P 全	渡邊・中楯・吉田	130・131	
		化学Ⅰ	前1	1		1P 全	石山・和田	132・133	
		化学Ⅱ	前2	1		1P 全	山岸 丈洋	134・135	
		物理学Ⅰ	前1	1		1P 全	和田 重雄	136・137	
		物理学Ⅱ	前2	1		1P 全	柏木・和田・志村・小野	138・139	
		生物学Ⅰ	前1	1		1P 全	大島・堀江・山本	140・141	
		生物学Ⅱ	前2	1		1P 全	野島・山下・小谷・横田	142・143	
		化学熱力学入門	後2	1		1P 全	柏木・小野	144・145	
		基礎科学演習Ⅰ	前	1		1P 全	山岸・和田・石山・金原	146・147	
		基礎科学演習Ⅱ	前2	1.5		1P 全	柏木 他	148・149	
			後				大島 他		
		薬学基礎実習	後	1.5		1P 全	大島 他	150～153	
	準備教育	フレッシュマンウィーク	入学直後	0.5		1P 全	学年主任	154・155	
		フレッシュマンセミナー	前	0.5		1P 全	伊藤頼位他	156・157	
		情報科学講義	前1	1		1P 全	木田 雄一	158・159	
		IT 技能演習Ⅰ	前	1		1P1,2	木田 雄一	160・161	
						1P3,4			
		IT 技能演習Ⅱ	後	1		1P1,2	木田 雄一	162・163	
						1P3,4			
		日本語表現演習Ⅰ	前	1		1P 全	佐藤 亜実	164・165	
		日本語表現演習Ⅱ	後	1		1P1,2	佐藤 亜実	166・167	
						1P3,4			
		倫理学	前1	1		1P 全	高橋 恭寛	168・169	
		心理学の基礎	後1	1		1P 全	車田 文雄	170・171	
	薬学基礎	薬学入門	前2	1		1P 全	衛藤・伊藤(鍛)・島貫・井上・斉藤	172・173	
		チーム医療学演習Ⅰ	前	1		1P 全	早坂・衛藤・小池・伊藤(鍛)	174・175	
		チーム医療学演習Ⅱ	後	1		1P 全	早坂・衛藤・小池・伊藤(鍛)	176・177	
		健康科学入門	後2	1		1P 全	押尾 茂	178・179	
専門教育科目	基礎科目	生化学Ⅰ	後1	1		1P 全	大島 光宏	180・181	
		機能形態学Ⅰ	後2	1		1P 全	野島 浩史	182・183	
		有機化学Ⅰ	後1	1		1P 全	山岸・金原	184・185	
		基礎分析化学	後2	1		1P 全	鈴木・大樂	186・187	
		物理化学Ⅰ	後1	1		1P 全	柏木・小野	188・189	
		薬学と法	後1	1		1P 全	多根井重晴	190・191	
		薬学演習Ⅰ	後2	1		1P 全	学年主任	192・193	
配当単位計				34					

授業科目名	こどもの発達 A		1～3年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	講師（兼担）：鈴木敏城		

1. 科目の概要

人間は、各発達段階をとおして、発達課題を達成しながら心の定型発達（一般的な発達）を遂げていく。「こどもの発達 A」では、この定型発達に焦点を当てて、こどもの心の変化を特に胎児期から青年期に至るまでを中心にし、生涯発達という側面も重視しながら捉え、心の発達という側面から人間を考えていく。授業は、講義だけでなく学生同士の対話や課題文の作成等から成り、自ら考えることが求められる。従って、授業は授業の時間であると共に評価の時間でもある。

2. 一般目標

生涯発達の概念を念頭に置きながら、胎児期から青年期に至るまでのこどもの心の定型発達を段階的に捉えることにより、人間の心の発達について体系的に学ぶ。

学生が薬剤師となった時のこどもの患者への対応の基礎を学ぶ。

学生が親となった時にこどもの心の発達を意識した子育てを行うための基礎を学ぶ。

生涯発達という概念も重視し、人間の一生を発達という側面から考える。

3. 行動目標

- ① こどもの心の定型発達を発達段階ごとに理解することができる。
- ② 生涯発達（人間の心は一生を通じて発達すること）を理解することができる。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業テーマや内容に関する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関する事柄に対して、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業の理解度が上がり、授業中に対話を求められたときの材料となる。また、授業時に各自が書いて提出する課題文を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容：30%（学生同士の対話や発表）
- ② 課題文の論理性：70%（授業時に書いて提出する課題文）

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション胎児期「講義」	「こどもの発達A」についての説明 胎児期について	鈴木 敏城
2	乳児期「講義」	乳児期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
3	幼児期「講義」	幼児期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
4	学童期「講義」	学童期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
5	思春期「講義」	思春期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
6	青年期「講義」	青年期の発達課題の達成と問題	鈴木 敏城
7	生涯発達「講義」	生涯発達について	鈴木 敏城

授業科目名	こどもの発達B		1～3年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	講師（兼担）：鈴木敏城		

1. 科目の概要

人間は、各発達段階をととして、発達課題を達成しながら心の定型発達（一般的な発達）を遂げていくが、発達に伴う様々な困難や障害も現れることがある。

「こどもの発達B」では、この発達に伴う様々な困難や障害に焦点を当てて、人間の心の発達について考えていく。

授業は、講義だけでなく学生同士の対話や課題文の作成等から成り、自ら考えることが求められる。従って、授業は授業の時間であると共に評価の時間でもある。

2. 一般目標

発達障害や愛着障害、いじめや虐待、不登校、引きこもり、非行といった発達に伴う様々な困難について考え、学生が薬剤師になった時のこどもの患者への対応の基礎を学ぶ。

3. 行動目標

- ① 発達障害について理解することができる。
- ② 愛着障害について理解することができる。
- ③ いじめや虐待、不登校、引きこもり、非行といった発達に伴う様々な困難について理解することができる。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業テーマや内容に関する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関する事柄に対して、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業の理解度が上がり、授業中に対話を求められたときの材料となる。また、授業時に各自が書いて提出する課題文を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容：30%（学生同士の対話や発表）
- ② 課題文の論理性：70%（授業時に書いて提出する課題文）

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 心の発達の概要 知的障害 「講義」	「こどもの発達B」についての説明 心の発達の概要の説明と知的障害についての説明	鈴木 敏城
2	発達障害 「講義」	発達障害の分類と特徴, 対応	鈴木 敏城
3	愛着障害と虐待 「講義」	愛着障害の原因と特徴, 対応 虐待の分類と被虐待児の特徴と対応	鈴木 敏城
4	いじめ 「講義」	いじめの構造と対応	鈴木 敏城
5	不登校と引きこもり 「講義」	不登校児童生徒への対応 引きこもりへの対応	鈴木 敏城
6	非行 「講義」	非行の心理と対応	鈴木 敏城
7	学級集団の発達 「講義」	こどもたちの生活の場としての学級集団の構造と発達	鈴木 敏城

授業科目名	医薬の歴史A		1～3年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	教授：押尾 茂		

1. 科目の概要

医学とは、人体の構造や機能、病気について研究し、その病気を診断・治療・予防する学問です。我々の学ぶ薬学は医学の一分野を構成し、化学物質の人体活動への影響を調べ、必要な場合はそれらを合成し、それらの作用を薬物治療として人へ応用するあるいは悪影響を与える場合は人への影響をなくす方法を考える学問分野です。本講義では、薬物の歴史から医療制度の歴史までを学ぶことで、医療における薬剤師の役割を明らかにすることに目的があります。また、ここで得られる知識は、医療人が共通に持つべき基礎知識です。それを概観できることで、多職種の医療人と共通の話題を持つことができます。

2. 一般目標

医療人として必要な教養を身に付けるために、薬剤師として必要な医学の歴史を学ぶ。

3. 行動目標

1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史について説明できる。4) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。5) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。6) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。7) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。8) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。9) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。10) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。11) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。12) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。13) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解している。14) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。15) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。16) 医療保険制度について説明できる。17) 公費負担医療制度について概説できる。18) 薬価基準制度について概説できる。19) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。20) 介護保険制度について概説できる。

4. 準備学習

次回の予習内容について、毎回指示するのでそれに従うこと。

5. 評価

毎回の講義終了時（または終了後）に講義に関するレポート等の提出を求め、その内容をもとにして評価する（100％）。

6. 教科書・参考書

教科書：なし（資料を配付します）

参考書：「病気の社会史」立川祥二著 岩波現代文庫 岩波書店、「医学探偵の歴史事件簿」小長谷正明著 岩波新書 岩波書店、「Disease 人類を襲った30の病魔」Mary Dobson著 小林力訳 医学書院

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	薬の始まり「講義」	医薬の歴史を学ぶ意義を考える。紀元前に遡り、人類の発展と薬の進歩を学ぶ。	押尾 茂
2	薬の発明の歴史「講義」	近代における薬の発明の歴史を学ぶ。	押尾 茂
3	薬剤師の歴史「講義」	わが国における薬剤師制度の発展の歴史を学ぶ。	押尾 茂
4	医療倫理の歴史「講義」	「ヒポクラテスの誓い」から始まる医療倫理の流れを現代まで辿りながら、その歴史的意義を学ぶ。	押尾 茂
5	薬害の歴史「講義」	わが国で起きた薬害の歴史を学ぶ。	押尾 茂
6	医療保険の歴史「講義」	わが国の医療保険制度の成り立ちを学ぶ。	押尾 茂
7	介護保険制度の歴史「講義」	わが国の介護保険制度の成立について学ぶ。	押尾 茂

授業科目名	医薬の歴史 B		1～3年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	教授：押尾 茂		

1. 科目の概要

本講義では、人類の歴史を変えてきた病気の中から代表的な 30 の病気を選び、その成り立ち、歴史的影響、治療法に至るまでの足跡を薬剤師の立場からたどることを目的とします。もちろん、この中にはすでに病気としては影響がないレベルまで発生しなくなっているものも含まれています。しかし、病気の歴史は医療人が共通に持つべき基礎知識ですし、それを薬剤師の立場から知っておくことが大切です。医薬の歴史を概観できることは、多職種の医療人と共通の話題を持つことに結びつきます。

2. 一般目標

医療人として必要な教養を身に付けるために、薬剤師として必要な医学の歴史を学ぶ。

3. 行動目標

1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。

4. 準備学習

毎回指定された教科書の部分をよく読んで出席する。

5. 評価

毎回の講義終了時（または終了後）に講義に関するレポート等の提出を求め、その内容をもとにして評価する（100%）。

6. 教科書・参考書

教科書：「Disease 人類を襲った 30 の病魔」Mary Dobson 著 小林力訳 医学書院

参考書：「病気の社会史」立川祥二著 岩波現代文庫 岩波書店、「医学探偵の歴史事件簿」小長谷正明著 岩波新書 岩波書店、「Disease 人類を襲った 30 の病魔」Mary Dobson 著 小林力訳 医学書院

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	イントロダクション・細菌感染症(1)「講義」	医薬の歴史を学ぶ意義を考える。ペスト・ハンセン病・梅毒・発疹チフス（教科書 6 - 36 ページ）	押尾 茂
2	細菌感染症 (2)「講義」	コレラ・腸チフス・結核・産褥熱・嗜眠性脳炎（教科書 44 - 83 ページ）	押尾 茂
3	寄生虫病 (1)「講義」	マラリア・トリパノソーマ症・シャーガス病（教科書 84 - 107 ページ）	押尾 茂
4	寄生虫病 (2)「講義」	住血吸虫症・鉤虫症・オンコセルカ症（教科書 108 - 127 ページ）	押尾 茂
5	ウイルス性疾患 (1)「講義」	天然痘・麻しん・黄熱病・デング熱・狂犬病・ポリオ（教科書 128 - 171 ページ）	押尾 茂
6	ウイルス性疾患 (2)「講義」	インフルエンザ・エボラ出血熱・エイズ・SARS（教科書 172 - 207 ページ）	押尾 茂
7	生活習慣病「講義」	壊血病・クーラー病・クロイツフェルト・ヤコブ病・がん・心臓病（教科書 208 - 247 ページ）	押尾 茂

授業科目名	現代の社会福祉 B		1 ～ 3 年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	非常勤講師：田中治和		

1. 科目の概要

社会福祉全般に関わる基礎的知識—主に歴史と現況，及び思想について論じる。B では，社会福祉実践及び研究の課題について，先行の所説・言説を批判的に考察を行う。

2. 一般目標

①社会福祉への興味・関心が深まる。②貧困，“障害”等の多様な社会問題への捉え方を習得できる。③自らの人生観・人間観を吟味することができる。

3. 行動目標

- ①社会保障制度が必要とされる理由を説明できる。
- ②社会福祉実践が必要な理由を論理的に説明できる。
- ③社会福祉実践と諸制度の底流にある福祉思想を具体的言説を用いて説明できる。
- ④社会福祉実践における援助・支援について説明できる。
- ⑤「利用者（患者）本位」のあり方について説明できる。
- ⑥利用者（患者）理解の方法について説明できる。

4. 準備学習

集中講義のため，事前学習は難しと思われる。但し履修にあたって，なぜこの世の中に，社会問題と呼ばれるもの，また人生における不条理ともいえる事象があるのかを，事前に自らに問いかけておいてください。この科目を他人事として考えて履修するのは意味がありません。

5. 評価

レポート 80%，授業への参加態度 20%とする。レポートの書式，並びに評価基準について事前に説明する。（一定の水準に到達しないレポートは，単位認定が難しくなります。）

6. 教科書・参考書

教科書：使用しない。当日にレジメを配布する。

参考書：レジメに記載し，また授業時に適宜紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	社会福祉成立の論理「講義」	なぜ社会保障制度や社会福祉実践が必要なのかを論理的に説明します。この世の《繋がり》考察する。	田中 治和
2	社会福祉の思想（その１）「講義」	社会福祉実践と諸制度の底流にある福祉思想を，具体的言説を用いて考察する。	田中 治和
3	社会福祉の思想（その２）「講義」	同上	田中 治和
4	社会福祉実践の課題（その１）「講義」	社会福祉実践における援助。支援のあり方について考察する。	田中 治和
5	社会福祉実践の課題（その２）「講義」	同上	田中 治和
6	社会福祉実践及び研究の課題（その１）「講義」	「利用者（患者）本位」のあり方について考察する。	田中 治和
7	社会福祉実践及び研究の課題（その２）「講義」	利用者（患者）理解の方法について考察する。	田中 治和
8	まとめ	授業全般の整理とレポート作成の要点等を説明する。	田中 治和

授業科目名	高齢者の健康 A		1 年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	教授：小池勇一，河野晴一 教授（兼担）：廣瀬公治，山崎信也 准教授（兼担）：鈴木史彦		

1. 科目の概要

我が国は世界でも例を見ない速度で高齢社会に突入した。また，高齢者を取り巻く環境や社会状況は近年になって大きく変貌を遂げてきている。従来は家族と同居している高齢者が一般的であったが，家族環境の変化により一人暮らしの高齢者が年々増加している。また，人口構成が少子高齢化となり，扶養者数に対する被扶養者数が年々増加していることにより，若年層に対する年金負担が重くのしかかり，若年層が高齢者層を支える扶養体制の維持が困難となりつつある。このような背景を鑑みて，高齢者の生活習慣病をはじめとした疾病予防やヘルスプロモーションにより，高齢者の健康を維持することが何よりも重要な課題となりつつある。本科目では，高齢者を取り巻く様々な問題について基本的な理解を深めていく。

2. 一般目標

高齢者の特性，老化，疾患，予防，介護などについて理解を深める。

3. 行動目標

- 1) 人における老化について理解することができる。
- 2) 高齢者の健康指標について理解することができる。
- 3) 高齢者における身体疾患・精神疾患についての理解を深めることができる。
- 4) 在宅および入院や施設入所高齢者における問題点とその解決・支援方法について理解することができる。
- 5) 高齢者における口腔の健康，口腔機能向上，口腔ケアについて理解することができる。
- 6) 高齢者における災害・救急医療の特徴について理解することができる。
- 7) 高齢者の終末期医療およびターミナルケアについて理解することができる。

4. 準備学習

講義内容はシラバスに記載しているが，講義が中心となるので，講義内容を理解するためには配付資料に加え，講義ノートを作成することが望ましい。

5. 評価

定期試験の成績のみにより評価する（100％）。

6. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。毎週，講義プリントや教材を配布する。

参考書：「高齢者保健福祉マニュアル」 安村誠司，甲斐一郎（編集），南山堂，2013 年，「高齢者医療」中島澄夫，オーム社，2008 年

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	老化とは「講義」	老化の定義, 老化の種類, 老化のメカニズムなどについて	小池 勇一
2	高齢者における健康づくり「講義」	高齢者の健康の定義, 健康指標などについて	廣瀬 公治
3	高齢者の病気と疾病予防「講義」	高齢者によく見られる病気とその予防について	小池 勇一
4	高齢者の介護およびリハビリテーション「講義」	在宅, 入所高齢者の介護や医学的リハビリテーションなどについて	鈴木 史彦
5	高齢者と口腔の健康「講義」	高齢者における口腔疾患や口腔ケアなどについて	鈴木 史彦
6	高齢者の救急医療「講義」	救急時, 災害時における高齢者の医療や支援について	山崎 信也
7	終末期医療とケア「講義」	終末期の実態やターミナルケアなどについて	河野 晴一
8	定期試験		小池 勇一

授業科目名	高齢者の健康 B		1～3年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	教授：小池勇一，河野晴一 教授（兼担）：廣瀬公治，山崎信也 准教授（兼担）：鈴木史彦		

1. 科目の概要

我が国は世界でも例を見ない速度で高齢社会に突入した。また、高齢者を取り巻く環境や社会状況は近年になって大きく変貌を遂げてきている。従来は家族と同居している高齢者が一般的であったが、家族環境の変化により一人暮らしの高齢者が年々増加している。また、人口構成が少子高齢化となり、扶養者数に対する被扶養者数が年々増加していることにより、若年層に対する年金負担が重くのしかかり、若年層が高齢者層を支える扶養体制の維持が困難となりつつある。このような背景を鑑みて、高齢者の生活習慣病をはじめとした疾病予防やヘルスプロモーションにより、高齢者の健康を維持することが何よりも重要な課題となりつつある。「高齢者の健康B」では、「高齢者の健康A」での概論的な講義をさらに深め、各講義項目の内容をより深く解説することにより、専門的知識を習得する。

2. 一般目標

高齢者に多い疾患について症候と病態上の特徴を把握し、薬物療法、麻酔に関する留意点を学ぶ。また、老年医学と社会について理解を深める。

3. 行動目標

- 1) 高齢者におけるサルコペニアおよびフレイルについて説明できる。
- 2) 高齢者におけるロコモティブ・シンドロームの概念、診断、治療とその予防について説明できる。
- 3) 国民医療費と高齢者医療およびその問題点などについて説明できる。
- 4) 高齢者における薬物療法およびその問題点などについて説明できる。
- 5) 高齢者における精神、神経疾患、とくに認知症やParkinson 症候群について説明できる。
- 6) 高齢者における麻酔の特徴や留意点について説明できる。
- 7) 高齢者のがん緩和療法の実践および終末期医療について説明できる。

4. 準備学習

講義内容はシラバスに記載しているが、講義が中心となるので、講義内容を理解するためには配付資料に加え、講義ノートを作成することが望ましい。

5. 評価

定期試験の成績のみにより評価する（100%）。

6. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。毎週、講義プリントや教材を配布する。

参考書：「高齢者医療」 中島澄夫，オーム社，2008 年，カラー版「老年医学系統講義テキスト」 日本老年医学会 編集，西村書店，2013 年

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	サルコペニアおよびフレイルとは「講義」	サルコペニア，フレイルと老年症候群について	小池 勇一
2	ロコモティブ・シンドローム「講義」	ロコモティブ・シンドロームの基礎，評価，構成疾患について	小池 勇一
3	高齢者医療と国民医療費「講義」	高齢者医療が国民医療費に及ぼす影響について	廣瀬 公治
4	高齢者と薬剤「講義」	高齢者における薬物療法の原則や問題点について	鈴木 史彦
5	高齢者の精神・神経疾患について「講義」	高齢者における認知症，Parkinson 症候群などについて	河野 晴一
6	高齢者の麻酔「講義」	高齢者の麻酔時における特徴や留意点について	山崎 信也
7	終末期医療と緩和医療について「講義」	高齢者のがん緩和医療と終末期医療について	河野 晴一
8	定期試験		小池 勇一

授業科目名	基礎薬学計算		1 年
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄 講師：木田雄一		

1. 科目の概要

薬学を学んでいく上で最低限必要な数学・化学・物理等の基礎学力が不足している学生を対象とする（実力試験の成績により、受講対象者を決定する）。

高等学校レベルの内容も含む基本的な解説，演習を繰り返しながら，計算力増強・科学的知識の充実を図る。演習中は2名の教員が教室内を巡回し，適宜個人指導を行い，基礎力を確実に育む。

2. 一般目標

数学Ⅰ・Ⅱ，物理学Ⅰ・Ⅱや専門教育科目などの科目の学習をスムーズに行えるよう，最も基本的な計算力，基礎知識，学力を身につける。また，暗記に頼らない学習方法についても言及する。

3. 行動目標

1. 複雑な四則演算もスムーズに行うことができる。
2. べき数の扱い方を身につける。
3. 物質質量，濃度など，薬学で扱う基本的な量を求めることができる。
4. 基本的なグラフの読み書きができる。
5. 簡単な指数・対数計算ができる。
6. 原始関数の基本概念を理解し，代表的な関数の不定積分が求めることができる。

4. 準備学習

予習：繰り返しの学習が重要であり，前回解答した演習問題をもう一度復習することが予習。（15分程度）

復習：授業終了後，授業中に解いた演習問題をもう一度解答する。また，指定された復習問題を自分で解答する。さらに，時間が許す限り，スムーズに解答できるようになるまで繰り返し解答する。（45分程度以上）。どうしても解けない問題については，その週のうちに教員に質問に行き，そのままにしないこと。

5. 評価

授業時の提出物（小テスト等）50%，試験50%

6. 教科書・参考書

教科書：『わかりやすい薬学系の数学演習』（小林賢，熊倉隆二編，講談社），他に担当教員作成教材を利用

参考書：『わかりやすい薬学系の数学入門』（都築稔編，講談社）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	物理量と計算 「講義・演習」	量と数値，単位の関係，有効数字の扱いを学ぶ。量を求めるための計算を行う。	和田 重雄 木田 雄一
2	物質量・濃度と連分数 「講義・演習」	連分数の計算法を学ぶ。物質量，濃度など基本的な量を求める方法を学ぶ。	和田 重雄 木田 雄一
3	指数関数と対数関数とその活用「講義・演習」	指数，対数およびその計算の基本ルールを学ぶ。薬学での活用法を実践する。	和田 重雄 木田 雄一
4	種々の関数とグラフ，計算練習「講義・演習」	関数・グラフの意味を理解する，1～3回の演習。グラフの読み書きを行う。	和田 重雄 木田 雄一
5	化学量と指数対数 「講義・演習」	指数，対数で表す種々の化学量を求める方法を学ぶ。	和田 重雄 木田 雄一
6	微分と積分の基礎 「講義・演習」	微分，積分の基本的な考え方，計算法を学ぶ。	和田 重雄 木田 雄一
7	薬学計算の総まとめ 「講義・演習」	薬学で扱う種々の量の求め方を学び，習熟させる。	和田 重雄 木田 雄一
8	定期試験	授業で扱った内容の試験	和田 重雄 木田 雄一

授業科目名	言語学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

言語学は人間が使用する言語の発音・文法・意味・歴史などを扱う学問領域である。この授業では言語の特徴をさまざまな面から探る方法を知るとともに、言語学の主要な領域についての基礎的な事項を説明する。授業の目的は普段無意識に使っている言語を客観的に分析することで、言葉に対するより鋭敏な感覚を養うとともに、より良い言語コミュニケーションの基礎を作ることである。授業では日本語と英語を比較しながら説明を行うが、これらの言語の運用能力を高めることがこの授業の目的ではないことに注意されたい。

2. 一般目標

言葉に対するより鋭敏な感覚を養うために、言語を科学的に分析する言語学の中心的な研究対象とその研究成果を知り、自ら言語を客観的にとらえる態度を養成する。

3. 行動目標

- (1) 言語学が対象とする事項を列挙することができる。
- (2) すべての言語が共通して持つ特徴を列挙し、それらを概説できる。
- (3) ヒトの発音器官の名称と構造を説明できる。
- (4) 言語音の分類法を説明できる。
- (5) 語形成の規則および語義関係を説明できる。
- (6) 代表的な品詞の定義を説明できる。
- (7) 文の句構造とそれに基づく多義性を説明できる。
- (8) 含意とは何か説明できる。
- (9) 含意を導く推論と文脈依存解釈を説明できる。
- (10) 第一言語の習得過程を説明できる。
- (11) 生成文法理論における普遍文法仮説を説明できる。
- (12) 言語の構造と解釈および運用について科学的に考察することができる。

4. 準備学習

予習：授業時に使用するプリントを事前に配布するので一読してから授業に臨むこと。

自主学習：レポートの題材とするので、授業中に紹介した書籍を1冊以上読むこと。

5. 評価

20% リアクションペーパーの内容

80% レポート

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを使用

参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	言語学とは「講義」	言語学の対象と方法，言語を構成する要素	伊藤 頼位
2	人間のことばが持つ特徴「講義」	恣意性，二重分節性，転位性，創造性，構造依存性	伊藤 頼位
3	発音の仕組み「講義」	発音器官，調音点と調音法，母音と子音	伊藤 頼位
4	単語の成り立ちと意味「講義」	形態素，語形成規則	伊藤 頼位
5	文の構造「講義」	品詞，句構造，主部と述部	伊藤 頼位
6	ことばの意味「講義」	多義性，文脈，含意	伊藤 頼位
7	こどもの言語習得「講義」	第一言語の習得過程，プラトンの問題と普遍文法仮説	伊藤 頼位

授業科目名	言語学B		1～3年
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

言語学は人間が使用する言語の発音・文法・意味・歴史などを扱う学問領域である。この授業では言語の特徴をさまざまな面から探る方法を知るとともに、言語学の主要な領域についての基礎的な事項を説明する。授業の目的は普段無意識に使っている言語を客観的に分析することで、言葉に対するより鋭敏な感覚を養うとともに、より良い言語コミュニケーションの基礎を作ることである。この授業では興味深い言語現象の幾つかを取り上げ、実際の言語分析がどのように行われるかを解説する。

2. 一般目標

言葉に対するより鋭敏な感覚を養うために、言語を科学的に分析する言語学の中心的な研究対象とその研究成果を知り、自ら言語を客観的にとらえる態度を養成する。

3. 行動目標

- (1) 言語学が科学的方法を用いて言語を分析する学問であることを説明できる。
- (2) 古代文字の例を挙げ、その特徴を説明できる。
- (3) 表音文字と表意文字を説明できる。
- (4) 言語音の分類法を説明できる。
- (5) 英語および日本語の音の特徴を説明できる。
- (6) 連濁がどのような現象か説明し、連濁が生じる条件について考察する。
- (7) 会話の協調原則と会話の公理を説明できる。
- (8) 会話の公理からの逸脱によって生じる含意を説明できる。
- (9) 代名詞の束縛規則について説明できる。
- (10) 受動文形成における句の移動について説明できる。
- (11) 受動文形成規則に課される制約について説明できる。
- (12) 語族の概念について説明できる。
- (13) 英語の歴史的変化について説明できる。

4. 準備学習

予習：授業時に使用するプリントを事前に配布するので一読してから授業に臨むこと。

自主学習：レポートの題材とするので、授業中に紹介した書籍を1冊以上読むこと。

5. 評価

20% リアクションペーパーの内容

80% レポート

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを使用

参考書：授業中に紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	文字「講義」	記号と文字，世界の言語で使われる文字	伊藤 頼位
2	音声「講義」	再発見：英語の発音・日本語の発音	伊藤 頼位
3	音韻「講義」	日本語の連濁現象	伊藤 頼位
4	会話の公理「講義」	会話の協調原則と会話の公理	伊藤 頼位
5	意味解釈「講義」	代名詞の解釈規則	伊藤 頼位
6	変形「講義」	受動態に関する規則	伊藤 頼位
7	言語変化「講義」	英語の歴史	伊藤 頼位

授業科目名	哲学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	講師（兼担）：鈴木敏城		

1. 科目の概要

哲学は、人間が自分の自由な意志と責任において、自分をどのように創っていくのかを問う。哲学のテーマとなる人間存在は、自分の死を自覚した上で、人生の中で自分を創っていく存在である。

一方医療は、人間が得る疾病や外傷を治療し、生命の危機にある人間を快復させ、その個人の人生へと戻していく。医療は、患者としての他者の死を意識し、その他者を死から遠ざけ人生に戻していく関わりである。

哲学も医療も死と人生（生）という共通した視点を持つが、哲学の視点は自分の生と死を考える主体への視点であり、医療の視点は他者の生と死を考える客体への視点である。

医療者を目指す薬学部の学生が哲学を考えることは、学生が自分を捉え自身の人生を創造していく上でも、医療と哲学との関連を考え医療の中に患者としての個人の主体性を取り入れる意味でも重要である。そこで、「哲学A」では、次の3点に重点を置き授業を展開する。

① 「哲学する」とはどのような行為か、自分を創造するとはどのような行為かを考える。

② 哲学を現実問題の解決に応用する「公共哲学」と「臨床哲学」について考える。

授業は、講義、教師と学生との対話、学生同士の対話、学生個人の思考、その思考の文章化という各要素で構成される。学生には、読むこと、聴くこと、話すこと、考えること、書くことが要求される。講義も重視するが、学生が聴くだけの講義ではなく、受講生には自分の考えをまとめ、それを口頭で発表したり文章で表現することが要求される。

授業の中で学生が何をどのように考え発表したか。また、授業時に毎回学生が書いて提出する文章の内容を形成的評価の材料とする。従って、授業は授業の時間であると同時に評価の時間でもある。

2. 一般目標

人間存在の持つ自由と責任を自覚する。その自覚に根ざした自己決定と行動の重要性に気付く。自分自身を創造する哲学的自覚を持った医療者となることを目指し、患者の生と死を、単に客体としての生と死ではなく、患者が人間存在として自己決定し創造していく人生そのものと捉え、医療の中に患者としての人間存在の主体性を取り入れる態度が必要であることを理解する。

3. 行動目標

- ① 「哲学する」とはどのような行為か、自分を創造するとはどのような行為かについて理解することができる。
- ② 「弁証法」と「実存哲学」の概略を理解することができる。
- ③ 人間の「現存在」としてのあり方、「実存」としての生き方を考えることができる。
- ④ 哲学を現実問題の解決に応用する「公共哲学」と「臨床哲学」について理解することができる。
- ⑤ 市民社会と「新しい公共」について理解することができる。
- ⑥ 医療と哲学を繋ぐ「哲学の臨床分野」について理解することができる。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業のテーマや内容に関連する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
 - ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関連する事柄に対し、自分の立場や意見を考えておく。
 - ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業時の理解度が上がり、授業中に発表を求められた場合の材料になる。また、授業時に各自が書いて提出する文章を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容：30%（教師との対話及び学生同士の対話〈グループでの対話〉）
 ② 課題文の論理性：70%（毎回授業時に授業で取り上げた内容への各自の意見を書いて提出する）

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。
 参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 古代・中世の哲学 「講義」	オリエンテーション 「自分とは何か」「哲学とは何か」を考える。 古代・中世の哲学の特徴について考える。	鈴木 敏城
2	近代の哲学 (弁証法) 「講義」	近代の哲学の特徴について考える。 取り上げる主な哲学者：デカルト、カント、 ヘーゲル ヘーゲルの「弁証法」の概略を理解し、対立 と統合について考える。	鈴木 敏城
3	現代の哲学 (実存哲学) 「講義」	「実存哲学」「構造主義」「ポストモダン」の 考察。 取り上げる主な哲学者：キルケゴール、ニー チェ、ハイデガー、サルトル 「実存哲学」の概略を理解し、「現存在」とし ての人間のあり方、「実存」としての人間の 生き方を考える。	鈴木 敏城
4	哲学と宗教 「講義」	哲学と宗教の相違について考察する。 キリスト教、仏教、神道等の人間観を考える。	鈴木 敏城
5	死生学 「講義」	「死生学」についての考察。 取り上げる主な死生学者：キューブラ・ロス、 アルフォンス・デーケン 生老病死の受容と「スピリチュアルケア」に ついて考える。宗教との関連についても考える。	鈴木 敏城
6	公共哲学 (新しい公共とこれからの哲学) 「講義」	これからの哲学の可能性を考え、その1つと しての「公共哲学」を考察する。 取り上げる主な哲学者：ハンナ・アーレ ント、ハバーマス、マイケル・サンデル 「社会契約」「自由と平等」「権利と義務」に ついて整理し、市民社会と哲学の関係を考え、 「コミュニティ」や「新しい公共」を捉える。	鈴木 敏城
7	臨床哲学 (臨床に応用する哲学) 「講義」	これからの哲学としての「臨床哲学」を考察 する。 取り上げる主な哲学者：鷺田清一 「臨床」とは何かを考え、「医療」と「臨床哲 学」との関係を整理し、支援の方法としての 「臨床哲学」の可能性を考える。	鈴木 敏城

授業科目名	哲学B		1～3年
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	講師（兼担）：鈴木敏城		

1. 科目の概要

哲学は、人間が自分の自由な意志と責任において、自分をどのように創っていくのかを問う。哲学のテーマとなる人間存在は、自分の死を自覚した上で、人生の中で自分を創っていく存在である。

一方医療は、人間が得る疾病や外傷を治療し、生命の危機にある人間を快復させ、その個人の人生へと戻していく。医療は、患者としての他者の死を意識し、その他者を死から遠ざけ人生に戻していく関わりである。

哲学も医療も死と人生（生）という共通した視点を持つが、哲学の視点は自分の生と死を考える主体への視点であり、医療の視点は他者の生と死を考える客体への視点である。

「哲学B」では、医療と哲学の関連、医療への哲学の応用、医療哲学がテーマとする分野を考えていく。授業は、講義、教師と学生との対話、学生同士の対話、学生個人の思考、その思考の文章化という各要素で構成される。学生には、読むこと、聴くこと、話すこと、考えること、書くことが要求される。講義も重視するが、学生が聴くだけの講義ではなく、受講生には自分の考えをまとめ、それを口頭で発表したり文章で表現することが要求される。

授業の中で学生が何をどのように考え発表したか。また、授業時に毎回学生が書いて提出する文章の内容を形成的評価の材料とする。従って、授業は授業の時間であると同時に評価の時間でもある。

2. 一般目標

人間存在の持つ自由と責任を自覚する。その自覚に根ざした自己決定と行動の重要性に気付く。自分自身を創造する哲学的自覚を持った医療者となることを目指し、患者の生と死を、単に客体としての生と死ではなく、患者が人間存在として自己決定し創造していく人生そのものと捉え、医療の中に患者としての人間存在の主体性を取り入れる態度が必要であることを理解する。

3. 行動目標

- ① 医療と哲学を繋ぐ哲学の臨床分野「臨床哲学」について理解することができる。
- ② 「医療哲学」がテーマとする分野を理解することができる。
- ③ 患者の自己決定権、患者の権利について理解することができる。
- ④ 終末期医療と「スピリチュアルケア」について理解することができる。

4. 準備学習

- ① シラバスを読み、次の授業のテーマや内容に関連する事柄を図書館やインターネットで調べて読んでおく。
- ② 各自が調べた授業のテーマや内容に関連する事柄に対し、自分の立場や意見を考えておく。
- ③ ②で考えた内容を箇条書きにし、論理的な繋がりを考えておく。
- * ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。毎回この準備をしておくことで、授業時の理解度が上がり、授業中に発表を求められた場合の材料になる。また、授業時に各自が書いて提出する文章を構成することが容易になる。

5. 評価

- ① 発表等の内容：30%（教師との対話及び学生同士の対話〈グループでの対話〉）
- ② 課題文の論理性：70%（毎回授業時に授業で取り上げた内容への各自の意見を書いて提出する）

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配付する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 哲学Aの復習と哲学Bの概略 (実存哲学の整理) 「講義」	オリエンテーション 哲学Aの内容を振り返り、哲学Bの内容に繋げる。 「実存哲学」の概略を理解し、「現存在」としての人間のあり方、「実存」としての人間の生き方を再確認する。	鈴木 敏城
2	「臨床哲学」 (臨床問題への哲学の応用) 「講義」	これからの哲学として注目されている「臨床哲学」について再確認する。 臨床とは何かを整理し、臨床問題への哲学の応用の可能性を考える。	鈴木 敏城
3	患者の権利 (患者の自己決定権) 「講義」	医療哲学① 医療哲学の立場から、患者の権利と義務、医療者の義務について考察する。	鈴木 敏城
4	インフォームドコンセント (患者と医療者との関係) 「講義」	医療哲学② 医療哲学の立場から、患者と医療者との関係について考察する。 特にインフォームドコンセントとQOLについて考える。	鈴木 敏城
5	緩和医療とターミナルケア (疾病受容と死の受容) 「講義」	医療哲学③ 医療哲学の立場から、終末期医療について考察する。 特に緩和医療とターミナルケアについて考える。	鈴木 敏城
6	尊厳死 (尊厳死と安楽死) 「講義」	医療哲学④ 医療哲学の立場から、尊厳死と患者の自己決定権について考察する。	鈴木 敏城
7	薬剤師として哲学する 「講義」	薬剤師は自己の人生と患者の人生にどのように関わるのかを哲学的に考察する。	鈴木 敏城

授業科目名	文化学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		

1. 科目の概要

皆さんご存じですか？日本でハムスターや鳥に食べさせているひまわりの種は、中国では人が食べていますよ。中国の民族衣装はチャイナドレスだと思われがちですが、実は中国の中には56もの民族があり、民族衣装も56種類があります。中国でも漢方がありますが、日本で馴染みがある生薬は中国で全然知られていない物もあります。お隣の国だから、気候も食材も似ているはずなのに、文化や習慣などはだいぶ違うようです。この授業では、あなたが知っている中国と違う中国を理解することができます。

2. 一般目標

ワークショップや演習による参加型講義、中国の文化をミニ体験することによって、中国に関する理解を深める。

3. 行動目標

- (1)中国の伝統医学を理解する。
- (2)中国の飲食文化、カンフー文化、多民族文化を理解する。

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習した上で授業に臨むこと。
授業に積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

- 50% 授業活動の積極性
- 50% レポート課題とワークシート提出

6. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：授業中紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	中国の漢方 「ワークショップ」	中国の伝統医学と起源を紹介し、グループで中国と日本の同異を話し合う、ワークシート記入	劉 芳
2	中国の茶文化 「ワークショップ」	中国茶を体験、日中茶文化についてワークショップで話し合う、ワークシート記入	劉 芳
3	中国のカンフー「演習」	カンフーと健康の密接な関係を紹介し、映像資料にて理解を深める	劉 芳
4	中国の映画鑑賞 1 / 2 「演習」	映画中に出てくる中国語あるいは習慣を説明し、理解した上で中国の文化を感じ取る	劉 芳
5	中国の映画鑑賞 2 / 2 「ワークショップ」	残り半分の映画を鑑賞し、ワークショップにて気づいた点を学び合う、ワークシート記入	劉 芳
6	中国の多民族文化 「ワークショップ」	中国の民族衣装を体験、グループで多民族について発表、ワークシート記入	劉 芳
7	中国料理と名所古跡 「演習」	有名な料理の発祥の地と歴史にある名所古跡を紹介し、配布資料を記入	劉 芳
8	課題作成及び発表 「ワークショップ」	それぞれ講座で学んだことをレポートにまとめた後、グループになって発表する、課題提出	劉 芳

授業科目名	文学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		

1. 科目の概要

すべての学問は人間性を育てることに通じている。学問は知的好奇心を高め、知識を拡大し、私たちの人生を豊かにしてくれる。文学を学ぶ意義もそこにある。文学作品とは先人たちの英知の宝庫である。私たちが人生において悩んだ時にはなぐさめとなり、迷った時には進むべき道を示す指針となってくれる。

この授業では主に英詩を扱う。英詩の文の構造、表現、音などに注目しながら詩を読み味わう。時代背景など文学史的な説明も行いながら、英詩についての知識をより深めていく。詩とは、詩人の日常生活の感情の吐露から超現実的な想像力や思想などを、巧みな言葉を用いて表現した芸術作品である。この機会に是非英詩に触れ、自分自身の想像力や感性、人間性を磨くきっかけとしてもらいたい。授業は演習形式で行っていくので、30～40名の受講者を想定している。受講希望者がこの人数を超える場合は抽選を行う。毎回授業の後に、感想や自分の考え、疑問点などをワークシートに記入し提出してもらい、点数化して評価に加える。

2. 一般目標

さまざまな解釈をもとに英詩を読解することを通して、詩を味わい、感性を磨き、自己表現力を高めることを目標とする。

3. 行動目標

- (1) 英詩の構造を説明できる。
- (2) 英詩の内容を理解することができる。
- (3) 時代背景や詩人の生い立ちなど、文学史的な事項を概説できる。
- (4) 詩に対して感じたことや思ったことなどを自分の言葉で表現できる。

4. 準備学習

初回の授業において、取り扱う英詩や詩人について説明するので、自分でも詩人の生い立ちや生きた時代について図書館などで調べてみることを。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（授業参加態度、発表等）30%

ワークシート 20%

レポート 50%

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英和辞典

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Introduction 文学とは、英詩とは「講義」と「演習」	授業の説明 英詩の読み方の説明、現代詩の鑑賞	川崎美佐子
2	英詩を読む (1) 「講義」と「演習」	現代詩の読解と鑑賞	川崎美佐子
3	英詩を読む (2) 「講義」と「演習」	女性詩人の詩の読解と鑑賞	川崎美佐子
4	英詩を読む (3) 「講義」と「演習」	ロマン派詩人の詩の読解と鑑賞	川崎美佐子
5	英詩を読む (4) 「講義」と「演習」	さまざまな形式の詩の紹介 詩を作る	川崎美佐子
6	英詩を読む (5) 「講義」と「演習」	シェイクスピアのソネット シェイクスピアの作品鑑賞	川崎美佐子
7	英詩を読む (6) 「講義」と「演習」	シェイクスピアの作品鑑賞	川崎美佐子

授業科目名	文学B		1～3年
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		

1. 科目の概要

すべての学問は人間性を育てることに通じている。学問は知的好奇心を高め、知識を拡大し、私たちの人生を豊かにしてくれる。文学を学ぶ意義もそこにある。文学作品とは先人たちの英知の宝庫である。私たちが人生において悩んだ時にはなぐさめとなり、迷った時には進むべき道を示す指針となってくれる。

この授業では主に日本文学及び英米文学のさまざまな作品を扱う。有名な詩、劇、小説を原文で読み味わう。時代背景など文学史的な説明も行いながら、文学作品についての知識をより深めていく。この機会に是非有名な文学作品に触れ、自分自身の想像力や感性、人間性を磨くきっかけとしてもらいたい。授業は演習形式で行っていくので、30～40名の受講者を想定している。受講希望者がこの人数を超える場合は抽選を行う。

毎回授業の後に、感想や自分の考え、疑問点などをワークシートに記入し提出してもらい、点数化して評価に加える。

2. 一般目標

さまざまなジャンルの文学作品に触れることで感性を磨き、作品解釈や作者の意図を読み取ることで読解力を身につけ、作品に対して自分の考えをまとめることで自己表現力を高めることを目標とする。

3. 行動目標

- (1) 著名な英米文学作品数点について説明できる。
- (2) 原文精読を通して作者の意図を読み取ることができる。
- (3) 時代背景や作者の生い立ちなど、文学史的な事項を概説できる。
- (4) それぞれの文学作品に対して感じたことや思ったことなどを自分の言葉で表現できる。

4. 準備学習

初回の授業において、取り扱う英詩や詩人について説明するので、自分でも詩人の生い立ちや生きた時代について図書館などで調べてみることを。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（授業参加態度、発表等）30%

ワークシート 20%

レポート 50%

6. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英和辞典

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Introduction 文学とは「講義」と「演習」	授業の説明 文学についての説明	川崎美佐子
2	日本文学 (1) 「講義」と「演習」	短歌, 詩, 小説の鑑賞	川崎美佐子
3	イギリス文学 (2) 「講義」と「演習」	イギリスの文学作品鑑賞	川崎美佐子
4	イギリス文学 (3) 「講義」と「演習」	児童文学について	川崎美佐子
5	アメリカ文学 (1) 「講義」と「演習」	アメリカ文学の文学作品鑑賞	川崎美佐子
6	アメリカ文学 (2) 「講義」と「演習」	アメリカロストジェネレーション時代の作家とその作品 (1)	川崎美佐子
7	アメリカ文学 (3) 「講義」と「演習」	アメリカロストジェネレーション時代の作家とその作品 (1)	川崎美佐子

授業科目名	経済学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：後藤康夫		

1. 科目の概要

テーマ：世界経済入門 ―990円のジーンズから見えてくるグローバル化したつながり―

経済学というと、皆さんはどんなイメージを持っていますか。「カネもうけの実用学問」でしょうか。あるいは、「数学を駆使した専門学問」でしょうか。ここでは、みなさんが手にする990円のジーンズ（ファストファッション）から考えることにします。この洋服は、いったい、どこ国の、誰によって、どのように作られ、私たちの手元に届いたのでしょうか。なぜ、こんなにも安い価格で洋服を購入できているのでしょうか。安価な洋服を通じて、グローバル経済と私たちが、どのように関係しているのか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

2. 一般目標

① 地球市民としてスケール大きなものの見方、考え方を身につける。② 「世界の解剖学」としての経済学を身につける。

3. 行動目標

① 他者の意見に耳を傾け、理解する態度を身につけている。②自分の意見を、わかりやすく相手に伝えることができる。（講義は、学生参画型を採用し、学生の皆さん方との討論、学生自身のグループ・ディスカッションを行いながら、進めていく。したがって、コミュニケーション能力が求められる。）

4. 準備学習

世界はいま、大変な激動期にあります。新聞やテレビ、インターネットを通して、「世界の動き」を敏感にキャッチすることが望まれます。もちろん、テキストを事前に読んで予習することや、理解できなかったところを自分で復習したり、それでも理解できなかった場合は、担当教員に質問することは大前提です。そのためには、本屋さんや図書館に出向くなど、「自分の手と足で調べる」ことが求められます。

5. 評価

討論への参加は大前提で、レポートを作成（A4サイズで1枚程度：100%）してもらいます。

6. 教科書・参考書

教科書：長田華子『990円のジーンズがつくられるのはなぜ？―ファストファッションの工場で起きていること―』合同出版、2016年、1400円＋税

参考書：池田香代子『世界がもし100人の村だったら』。西川潤『新・世界経済入門』岩波新書。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	広がる世界的スケールでの格差と貧困（一日の収入1ドル以下の人が12億人） 「講義・SGD」	移民・難民，出稼ぎ労働，スラム	後藤 康夫
2	若い女性たちが縫製工場で働く理由 「講義・SGD」	農村の貧困，夫と家族からの自由	後藤 康夫
3	バングラデシュが「世界の縫製工場」となった理由「講義・SGD」	底辺への競争，児童労働	後藤 康夫
4	ファストファッションが日本に届くまで 「講義・SGD」	多国籍企業，ブランド，サプライチェーン	後藤 康夫
5	スウェットショップが喜べない現実 「講義・SGD」	働く人の人権と環境，グローバル・ジャスティス	後藤 康夫
6	私たちにできること 「講義・SGD」	フェアトレード，倫理的消費	後藤 康夫
7	総合討論 「講義・SGD」	経済学的考え方 レポートの書き方	後藤 康夫

授業科目名	経済学B		1～3年
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：後藤康夫		

1. 科目の概要

テーマ：日本経済入門 ―働き方を通して考える―

バイトの経験のある受講生のみなさん、その職場の環境はいかがですか。あるいは、受講生の家族の皆さん方の働き方はいかがでしょう。この講義では、身近な働き方を通して、日本経済、そして日本社会のあり方を考えていきます。とくに、次の3つに焦点をします。①派遣やパート、そして正社員などの雇用条件は、どこが違うのでしょうか。そしてこの雇用条件の違いは、一種の「身分」となっているのはどうしてでしょうか。②格差や貧困を通して、日本社会や政府の政策のあり方を考えていきます。③どうしたら、「まともな働き方」が実現されるのでしょうか。

2. 一般目標

①他国との比較などを通して、「世界のなかの日本」を考える。②日本経済を通して、経済学を具体的に考える。

3. 行動目標

①他者の意見に耳を傾け、理解する態度を身につけている。②自分の意見を、わかりやすく相手に伝えることができる。（講義は、学生参画型を採用し、学生の皆さん方との討論、学生自身のグループ・ディスカッションを行いながら、進めていく。したがって、コミュニケーション能力が求められる。）

4. 準備学習

世界も日本も、大変な激動期にあります。新聞やテレビ、インターネットを通して、「世界の動き」、「日本の動き」を敏感にキャッチすることが望まれます。もちろん、テキストを事前に読んで予習することや、理解できなかったところを自分で復習したり、それでも理解できなかった場合は、担当教員に質問することは大前提です。そのためには、本屋さんや図書館に出向くなど、「自分の手と足で調べる」ことが求められます。

5. 評価

討論への参加は大前提で、レポートを作成（A4サイズで1枚程度：100%）してもらいます。

6. 教科書・参考書

教科書：森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、800円＋税。

参考書：①森岡孝二『働きすぎの時代』岩波新書。② 森岡孝二『就職とは何か―まともな働き方の条件―』岩波新書。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	いま、若者たちの働き方は「講義・SGD」	ブラック・バイト 非正規雇用	後藤 康夫
2	派遣「講義・SGD」	女工哀史 規制緩和	後藤 康夫
3	パート「講義・SGD」	日本的性別分業 女性の M 字型雇用	後藤 康夫
4	正社員「講義・SGD」	過労死 ストレス・うつ	後藤 康夫
5	格差と貧困「講義・SGD」	ワーキング・プア 低所得	後藤 康夫
6	政府の雇用政策「講義・SGD」	官製ワーキング・プア 生活保護	後藤 康夫
7	まともな働き方「講義・SGD」	ディーセント・ワーク 最低賃金引き上げ	後藤 康夫

授業科目名	社会学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：高橋嘉代		

1. 科目の概要

社会学は近代社会の成立と相前後として生まれた、比較的「若い」学問分野である。近代社会において、産業革命や身分制度の崩壊を背景として科学的・合理的世界観が広まり、様々な社会現象をより客観的に把握・分析しようとする態度が現れた。これが「社会学」という学問分野のはじまりである。

社会学において分析の対象となるのは、複数の人間および社会集団が常時互いに関わり合うことを前提として成り立つ社会の仕組みそのものであり、社会学者たちもその仕組みの解説を様々な切り口から試み続けてきた。そこでこの授業においても、「役割」や「家族」、「集団・組織」など我々が日々の生活の中で比較的身近に接する事象や関係性に注目し、関連する議論を紹介したい。受講前に必要とされる知識は特にないが、日常生活において自明視しがちな社会の仕組みや人と人との関わりの枠組みに対する気付きの力を育むことをこの授業の目標とする。

2. 一般目標

社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながり・生活様式のあり方についての今日的な課題について理解できるようになることを目標とする。

これらの過程を通して、現代社会における様々な課題への感心と分析力を是非身につけて欲しい。

3. 行動目標

1. 社会学の基礎知識を身につけ、世の中で発生する様々な社会現象を分析的に把握できる。
2. 現代社会における様々な社会システムと、それぞれの連関について説明できる。
3. 「個人的なこと」と「社会的なこと」とのそれぞれのつながりを考えられる。

4. 準備学習

受講前に必要とされる知識および技能は特にはないが、授業でとりあげたトピックから日常生活に対する知的好奇心を持ち続ける態度を是非育くまれない。

5. 評価

定期試験（記述式：授業配布資料・ノート類に限り持ち込み可）100%

6. 教科書・参考書

教科書：特になし。教員作成の資料を使用する。

参考書：特になし。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	社会学ことはじめ：社会学誕生とその背景「講義」	西欧近代社会の成立過程と，最初期の社会学者の「世の中の見方」について紹介する。	高橋 嘉代
2	社会から人を見る・人から社会を見る・社会から社会を見る—デュルケム，ウェーバー，パーソンズの社会学「講義」	社会学の二大巨頭・デュルケムとウェーバーの議論とその特徴について紹介する。	高橋 嘉代
3	家族の仕組みとはたらき—知っていて知らないその姿「講義」	家族の類型とその機能について紹介する。	高橋 嘉代
4	集団と組織—目的があるときもないときも「講義」	様々な集団・組織の類型とその特徴・機能についての議論を紹介する。	高橋 嘉代
5	「生活」のとらえ方—今のこと，一生のこと「講義」	比較的短いタイムスパンにおけるライフスタイルの様態，および生涯におけるライフステージの変遷が社会から受ける影響について学ぶ。	高橋 嘉代
6	社会構造と社会階層—「階級」とは違います「講義」	「社会階層」の概念を学び，社会階層が社会の仕組みに及ぼす影響について考える。	高橋 嘉代
7	社会問題の捉え方—「逸脱」はなぜ起こる「講義」	社会問題をどのようなものとして把握するかについての様々な議論を学ぶ。	高橋 嘉代
8	定期試験		高橋 嘉代

授業科目名	社会学B		1～3年
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：高橋嘉代		

1. 科目の概要

社会学Bの授業では、社会学が対象としているトピックの中でも特に人々と「時間・空間」との関わりという側面に焦点を据える。我々は常に、自分が存在している時間・空間からの影響を受けながら、人々と関わり「社会」を形成している。その営みの中で、自らに与えられた時間や空間を如何に意味付け・活用し、人々との関わりを築き上げてゆくに至ったかについて、地域社会学および空間論の知見を踏まえながら解説する。そしてこれらの知見をもととして、近現代の東北地方がいかなる社会変動に見舞われつつ現在に至っているかについて概観する。

2. 一般目標

人々が自らを取り巻く環境を如何に意味付け、活用してゆくかについての様々な捉え方について学び、この知識を背景として近現代の東北地方の歩みについての知識・教養を深めることを目標とする。

3. 行動目標

1. 時間・空間に対する人々の様々な認識について説明できる。
2. 農地や工場、商店街や住宅地等々の「日常の風景」における規則性について説明できる。
3. 近現代の東北地方の社会変動について説明できる。

4. 準備学習

受講前に必要とされる知識および技能は特にはないが、授業でとりあげたトピックから日常生活に対する知的好奇心を持ち続ける態度を是非育くまれない。

5. 評価

定期試験（記述式：授業配布資料・ノート類に限り持ち込み可）100%

6. 教科書・参考書

教科書：特になし。教員作成の資料を使用する。

参考書：特になし。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	空間の認識と地図 「講義」	人間社会における空間の認識と表現の多様性について概説する。	高橋 嘉代
2	地域社会の基本的な構造 「講義」	地域社会の構造と変動についての基礎理論を紹介する。	高橋 嘉代
3	生活時間と生活空間 「講義」	近代化とそれに伴う時間規制・空間規制について概説する。	高橋 嘉代
4	農村空間と農業立地 「講義」	農村社会を規定し、農村社会から規定される空間と立地について概説する。	高橋 嘉代
5	工業と工場立地 「講義」	「ものづくり」とそのための立地がいかなる展開を見せているかについて概説する。	高橋 嘉代
6	都市社会の構造 「講義」	「住まうところ」としてみた都市とその特徴について論じる。	高橋 嘉代
7	近現代の東北地方 「講義」	これまでのまとめとして明治時代から現代に至るまでの東北地方の変化について紹介する。	高橋 嘉代
8	定期試験		高橋 嘉代

授業科目名	歴史学A		1～3年
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柳田春子		

1. 科目の概要

郡山は奥州街道の宿駅であり、各地への交通も開け、二本松藩安積三組の代官所および蔵場もあったことから、在郷町として発達した。文政7年（1824）閏8月には、「村」から「町」へ昇格をゆるされて「郡山町」が誕生した。郡山は、諸大名の参勤交代の休泊や人馬継ぎ立て、問屋場の整備・拡大により、旅籠屋商店の町並みも発達した。また、全国的な通信・通送を請負う京屋・島屋の進出もあり、ますます町場としての機能を拡大し、城下町の特権商人に劣らない資力をもつ商人も出現したのである。宝暦12年（1762）以降頃から、藩は幕府の御手伝普請やその他の公務、藩主の臨時的な支出を賄うため、領内の農商からの貸上金・才覚金などの徴収が不可欠となっていたが、郡山・本宮などの在郷商人の財力に頼らねば、藩体制は維持できなくなっていた。

受講者が、郡山の発展の基礎は江戸時代にすでに芽生えていたことを理解し、当時の「郡山宿の賑わい」の様子知り、農民の負担実態も理解できることを目的とする。

2. 一般目標

実際生活している現在の郡山市の歴史の理解を深め、郡山に残っている記録（資料）などから歴史を身近なものとして考えられるようになり、歴史のながれの中に生活していることに気付く。

3. 行動目標

- 1 郡山が奥州街道（仙台・松前道）の宿駅として発展してきたことについて説明できる。
- 2 当時の交通手段である伝馬制度と寄人馬（助郷）について説明できる。
- 3 問屋の整備と諸大名・幕府役人の休泊が宿にとって負担となっていたことについて説明できる。
- 4 郡山が宿場町であり旅籠屋が軒を並べ賑わっていたことや当時の社会の矛盾について説明できる。
- 5 軒並図から江戸時代の郡山宿の姿について説明できる。
- 6 文政7年の「村」から「町」への昇格を当時の史料を示し、行政側と民間側からの動きを説明できる。
- 7 貨幣経済の拡大と商品作物の流通により、物価高騰し、大名も献金が無くては藩運営ができなかったこと、格式という賞誉を与えて献金をうけていた社会状況を説明できる。

4. 準備学習

レポート提出を課すので、できるだけ通して出席をすること。毎回渡すプリントなどの資料を目を通しておくこと。

5. 評価

- ①授業時の態度：40% ②レポート：60%

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配布する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	郡山宿の歴史（1）「講義」	二本松藩の成り立ちと郡山宿について	柳田 春子
2	郡山宿の歴史（2）「講義」	奥州街道の宿駅・伝馬制度と寄人馬（助郷）	柳田 春子
3	郡山宿の歴史（3）「講義」	問屋の整備と諸大名・幕府役人の休泊	柳田 春子
4	郡山宿の歴史（4）「講義」	旅籠屋と飯盛女	柳田 春子
5	郡山宿の歴史（5）「講義」	軒並図からみた郡山宿の様子	柳田 春子
6	郡山宿の歴史（6）「講義」	文政七年の郡山宿昇格について	柳田 春子
7	郡山宿の歴史（7）「講義」	献金・賞誉と農民の負担	柳田 春子

授業科目名	歴史学B		1～3年
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柳田春子		

1. 科目の概要

安積疏水は、明治政府が大規模な東北地方開発政策を掲げるなかでこれをその中心に据え、国営事業第一号として総力をあげて完成させた一大土木遺産である。安積疏水の恵みは、農業用水のほか、発電、工業用水・飲料水など広範囲に及んでいる。

安積疏水が産業の近代化に果たした役割にスポットをあて、この時代の商工業の発達が、現在の郡山の町の姿の原型となっていることを理解できるようにする。

2. 一般目標

戊辰戦争の兵火により町が焼かれたにうえ、藩も消滅したなかでの村役人たちの行動と役割を知る。岩倉使節団に参加していた安場保一や大久保利通と郡山のかかわりを通して、明治初期の郡山の歴史が動いたことを理解する。郡山が江戸末期約4,500人弱の宿場町から現在は32万人の人口を持つ中核都市となっていることを資料を通して理解する。

3. 行動目標

- 1 安積疏水ができる前の郡山の農業用水事情と江戸末期にあった湖水東注を考えた人々について説明できる。
- 2 県令安場保和指揮の県の安積開拓のはじまりと桑野村の誕生について説明できる。
- 3 安積疏水の調査と設計と安積疏水の開削について説明できる。
- 4 明治政府による国営安積開墾について説明できる。
- 5 安積疏水の恩恵 ～製糸業～ の発達について説明できる。
- 6 安積疏水の恩恵 ～水力発電～ について説明できる。
- 7 安積疏水の恩恵 ～上水道～ について説明できる。
- 8 安積疏水の維持・管理と商業の町から工業の町へ変革した様子を説明できる。

4. 準備学習

レポート提出を課すので、できるだけ通して出席をすること。毎回渡すプリントなどの資料を目を通しておくこと。

5. 評価

- ①授業時の態度：40% ②レポート：60%

6. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配布する。

参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	安積疏水の歴史(1)「講義」	安積疏水前史と湖水東注	柳田 春子
2	安積疏水の歴史(2)「講義」	安積開拓のはじまりと桑野村の誕生	柳田 春子
3	安積疏水の歴史(3)「講義」	安積疏水の調査と設計と安積疏水の開削	柳田 春子
4	安積疏水の歴史(4)「講義」	明治政府による開墾	柳田 春子
5	安積疏水の恩恵(1)「講義」	製糸業	柳田 春子
6	安積疏水の恩恵(2)「講義」	水力発電	柳田 春子
7	安積疏水の恩恵(3)「講義」	上水道	柳田 春子

授業科目名	薬学英语Ⅰ		1 年
授業区分	一般教養科目（外国語）	必修	1 単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		

1. 科目の概要

国際化に伴い、医療現場の国際化も加速している現代、英語の習得は必須事項といえる。世界において、最新の研究情報や報告は英語で発信されている。薬剤師もまた、常に最新の医療研究や情報に対応するためには、英語で書かれた多くの論文や文献を読む必要がある。英語で書かれた文章を速く的確に読みこなすためには、基本的な文法的知識とそれなりの語彙力が求められる。本授業では、基礎的な英語力を養うことを目指す。リスニングやリーディングを通して、英語の基本的な文法事項や英文の構造を確認し、語彙を増やすことにより、英語の土台を築いていく。基本的に演習形式で授業を行うので、受講生には積極的な授業参加と発言を期待する。

2. 一般目標

専門的な文献や研究論文を正確に読むための前段階として、英語の基本的な文法事項を確認し、語彙を増やし、さらに英語で書かれた文章の正確な読解力を身につける。

3. 行動目標

- (1) 英文法の知識の習得。
- (2) 語彙力を高める。
- (3) リスニングにおいて、必要な情報を的確に聞き取ることができる。
- (4) 英文を正確に読み、内容を把握することができる
- (5) 英語の発音に関する知識を身につけ、活用できる。

4. 準備学習

毎回授業終了時に準備学習の範囲を指定するので、必ずやって授業に参加すること。語学は継続的な学習が不可欠なので、授業で扱う内容をもとにできる限り自主学習を行うこと。定期的に小テストを行い授業の定着を図る予定である。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（授業態度、授業参加度、準備学習の有無、小テストなど）40%
試験 60%

6. 教科書・参考書

教科書：Health & Environment Reports from VOA Volume 1, Seisuke Yasunami and Richard S. Lavin, SHOHAKUSHA

参考書：英和辞書

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Introduction Unit 1「演習」	授業についての説明 リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
2	Unit 2「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
3	Unit 3「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
4	Unit 4「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
5	Unit 5「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
6	Unit 6「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
7	Unit 7「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
8	Unit 8「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
9	Unit 9「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
10	Unit 10「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
11	Unit 11「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
12	Unit 12「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
13	Unit 13「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
14	Unit 14「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
15	Unit 15「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
16	定期試験		川崎美佐子

授業科目名	薬学英語Ⅱ		1 年
授業区分	一般教養科目（外国語）	必修	1 単位
担当教員	非常勤講師：川崎美佐子		

1. 科目の概要

本授業では、薬学英語Ⅰで学んだことをもとに、英語の文章により慣れ親しみ、より速く正確に内容を把握できるようになることを目指す。将来、英語で書かれた薬学の専門書や論文を読みこなせるようになるための準備段階として、さまざまな英語の文章に触れ、徹底的な英文法の知識の習得、語彙力の増大に重点を置く。また、リスニングやリーディングを通して、総合的に英語力を伸ばしていく。基本的に演習形式で授業を行うので、受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

さまざまな英文に触れることで、英語の基本的な文法事項を確認し、語彙力を高める。英語で話された事柄を的確に聞き取り、英語で書かれた文章の正確な読解力を身につける。

3. 行動目標

- (1) 英文法を習得し語彙力を高める。
- (2) 英文の構造を理解し、より速く正確に文章を読むことができる。
- (3) 英文の内容を把握することができる。
- (4) リスニングにおいて、必要な情報を的確に聞き取ることができる。
- (5) 英語の発音に関する知識を身につけ、活用できる。

4. 準備学習

毎回授業終了時に準備学習の範囲を指定するので、必ずやって授業に参加すること。語学は継続的な学習が不可欠なので、授業で扱う内容をもとにできる限り自主学習を行うこと。定期的に小テストを行い授業の定着を図る予定である。授業には英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

5. 評価

平常点（授業態度、授業参加度、準備学習の有無、小テストなど）40%
試験 60%

6. 教科書・参考書

教科書：The Hospital Team-English for Medical Specialists, Masahiro Takatsu, Seiko Hirai, Yoshihiro Wajimoto, Asami Kurosawa, Tomoko Kono, and James A. Goddard, NAN'UN-DO

参考書：英和辞書

その他必要があれば、授業時に紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Introduction Unit 1「演習」	授業についての説明 リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
2	Unit 2「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
3	Unit 3「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
4	Unit 4「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
5	Unit 5「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
6	Unit 6「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
7	Unit 7「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
8	Unit 8「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
9	Unit 9「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
10	Unit 10「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
11	Unit 11「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
12	Unit 12「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
13	Unit 13「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
14	Unit 14「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
15	Unit 15「演習」	リスニング，英文読解，問題演習	川崎美佐子
16	定期試験		川崎美佐子

授業科目名	基礎英語演習		1 年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

英語は薬学において重要な科目であり、本学でも4年次まで必修の英語科目が設けられている。しかしながら、これまでの英語学習で十分な成果が得られず、英語が苦手あるいは嫌いだという意識を持つ者がいるのも事実である。この授業では、高等学校までの英語学習とは異なるアプローチを取り入れ、英語に対する抵抗感をなくすことを第一の目標として学習を進める。特に音声活動を豊富に取り入れ、英語で伝える楽しさを実感できる授業を目指す。原則として、プレイスメントテストに基づいて受講者を指定する。

2. 一般目標

音声活動を中心とし、並行して文法学習と語彙学習を進めることで、薬学部での英語学習に対応できる心構えと学習スキルを身につける。

3. 行動目標

- (1) 人前で抵抗なく英語を話すことができる。
- (2) 効果的な方略と技能を用いて語彙を増加させることができる。
- (3) 英文を流暢に音読できる。
- (4) 基礎的な文法規則を踏まえて正しい文を作ることができる。
- (5) 英和辞典を適切かつ効率的に活用できる。

4. 準備学習

予習：教科書の基礎問題を解く。辞書で調べた単語は必ず単語ノートに記録する。(20 分)

復習：文法のドリル問題に取り組み、翌週の授業で提出する。(30 分)

5. 評価

30% 授業時の活動（観察による評価）

20% 提出課題

50% 定期試験

6. 教科書・参考書

教科書：Essential Grammar for Communication : for False Beginners, 角岡 賢一, 松柏社

参考書：旺文社オーレックス英和辞典第2版

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」	文法:平叙文, スキル:e-mail の書き方(カジュアルな例), 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」	文法:否定文, スキル:電話での対応, 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」	文法:疑問文, スキル:道の説明, 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」	文法:5W1H, スキル:e-mail の書き方(フォーマルな例), 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」	文法:過去形, スキル:電車の乗り方, 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」	文法:過去形・疑問文, スキル:メニューの説明, 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」	文法:現在進行形, スキル:具合の悪そうな人を見かけたら, 音声活動:チャンツ・音読・会話	伊藤 頼位
8	定期試験		伊藤 頼位

授業科目名	英語検定 I		1 ～ 3 年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	1 単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之		

1. 科目の概要

この授業は、初めて TOEIC を受験する学生を対象とした、TOEIC 受験準備のための科目である。テストの出題様式に準拠した練習問題を解くことにより、問題への対処の仕方を身につけるとともに、PART ごとの具体的な目標を設定できるようにする。

2. 一般目標

TOEIC を始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的に英語を学習する姿勢を身につける。

3. 行動目標

(1) 基本的な文法・語法を活用できる。(2) TOEIC で出題される様々なジャンルに関する基本的な語彙を習得している。(3) TOEIC で用いられる様々な英語のアクセント、特にアメリカ英語とイギリス英語の違いについて説明できる。

4. 準備学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。また、語彙力増強のための小テストを毎回実施するので、必ず準備して臨むこと。

5. 評価

小テスト（60%）と定期試験（40%）に基づいて評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Listening PART 1「演習」	写真描写問題	福富 靖之
2	Listening PART 2「演習」	応答問題	福富 靖之
3	Listening PART 3「演習」	会話問題	福富 靖之
4	Listening PART 4「演習」	説明文問題	福富 靖之
5	Reading PART 5「演習」	短文穴埋め問題	福富 靖之
6	Reading PART 6「演習」	長文穴埋め問題	福富 靖之
7	Reading PART 7「演習」	読解問題	福富 靖之
8	定期試験		福富 靖之

授業科目名	英語検定Ⅱ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之		

1. 科目の概要

この授業は、TOEIC 受験準備のための科目である。原則として「英語検定Ⅰ」を履修した学生を対象とする。テストの出題様式に準拠した練習問題を解くことにより、問題形式にさらに慣れるとともに、PARTごとの具体的な目標を明確にする。通常会話で最低限のコミュニケーションができるレベルとされる 460 点を目標スコアとする。

2. 一般目標

TOEIC を始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的に英語を学習する姿勢を身につける。

3. 行動目標

(1) 基本的な文法・語法を活用できる。(2) TOEIC で出題される様々なジャンルに関する基本的な語彙を習得している。(3) TOEIC で用いられる様々な英語のアクセント、特にアメリカ英語とイギリス英語の違いについて説明できる。

4. 準備学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。また、語彙力増強のための小テストを毎回実施するので、必ず準備して臨むこと。

5. 評価

小テスト（40%）と定期試験（60%）に基づいて評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Listening PART 1「演習」	写真描写問題	福富 靖之
2	Listening PART 2「演習」	応答問題	福富 靖之
3	Listening PART 3「演習」	会話問題	福富 靖之
4	Listening PART 4「演習」	説明文問題	福富 靖之
5	Reading PART 5「演習」	短文穴埋め問題	福富 靖之
6	Reading PART 6「演習」	長文穴埋め問題	福富 靖之
7	Reading PART 7「演習」	読解問題	福富 靖之
8	定期試験		福富 靖之

授業科目名	英語検定Ⅲ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之		

1. 科目の概要

この授業は、TOEIC 受験準備のための科目である。原則として「英語検定Ⅱ」を履修した学生を対象とする。テストの出題様式に準拠した練習問題を解くことにより、問題形式にさらに慣れるとともに、PARTごとの具体的な目標を明確にする。日常会話であれば要点を理解できるレベルとされる 530 点を目標スコアとする。

2. 一般目標

TOEIC を始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的に英語を学習する姿勢を身につける。

3. 行動目標

(1) 基本的な文法・語法を活用できる。(2) TOEIC で出題される様々なジャンルに関する基本的な語彙を習得している。(3) TOEIC で用いられる様々な英語のアクセント、特にアメリカ英語とイギリス英語の違いについて説明できる。

4. 準備学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。また、語彙力増強のための小テストを毎回実施するので、必ず準備して臨むこと。

5. 評価

小テスト（30%）と定期試験（70%）に基づいて評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Listening PART 1「演習」	写真描写問題	福富 靖之
2	Listening PART 2「演習」	応答問題	福富 靖之
3	Listening PART 3「演習」	会話問題	福富 靖之
4	Listening PART 4「演習」	説明文問題	福富 靖之
5	Reading PART 5「演習」	短文穴埋め問題	福富 靖之
6	Reading PART 6「演習」	長文穴埋め問題	福富 靖之
7	Reading PART 7「演習」	読解問題	福富 靖之
8	定期試験		福富 靖之

授業科目名	英会話 I		1 ～ 3 年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

This course is targeted to false-beginners and designed to improve their fluency in spoken English in simple everyday situations. Through conversation practices and games in pairs and small groups, students learn useful expressions and grammatical structures of spoken English. They are then encouraged to use the English language to exchange their opinions and feelings with each other in English. All the lessons of this course are conducted in English. This course limits the number of students to 30.

2. 一般目標

Students are engaged in essential conversational exchanges such as greetings, self-introduction, and talk about people, things, and places so that they can improve their fluency in spoken English.

3. 行動目標

Students will be able to carry on the following conversations in English fluently.

- (1) Greeting people
- (2) Introducing themselves
- (3) Talking about likes, dislikes and favorites
- (4) Asking about locations and giving directions
- (5) Describing someone's personality
- (6) Talking about past events
- (7) Describing future plans
- (8) Describing objects

4. 準備学習

No preparation is required. However, attendance and participation are critically important. Students are always expected to come to class with a positive attitude and play an active role there. They are also required to hand in homework assignments.

5. 評価

20% Attitude

50% Classwork (pair work, group work)

30% Homework

6. 教科書・参考書

教科書：None

参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」	Greeting people / Introducing myself / Requesting repetitions	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」	Expressing likes and dislikes / Asking about favorites	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」	Asking about locations / Giving directions	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」	Describing someone's personality	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」	Talking about past events	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」	Describing future plans	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」	Describing objects	伊藤 頼位

授業科目名	英会話Ⅱ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

This course is targeted to lower-intermediate learners and designed to improve their fluency in spoken English in simple everyday situations. Through conversation practices and games in pairs and small groups, students learn useful expressions and grammatical structures of spoken English. They are then encouraged to use the English language to exchange their opinions and feelings with each other in English. All the lessons of this course are conducted in English. This course limits the number of students to 30.

2. 一般目標

Students are engaged in essential conversational exchanges such as greetings, self-introduction, and talk about people, things, and places so that they can improve their fluency in spoken English.

3. 行動目標

Students will be able to carry on the following conversations in English fluently.

- (1) Talking about and asking for personal information
- (2) Talking about family
- (3) Describing routines and schedules
- (4) Describing frequency
- (5) Talking about entertainment and music
- (6) Talking about past events
- (7) Talking about food
- (8) Ordering food
- (9) Talking about neighborhood
- (10) Shopping

4. 準備学習

No preparation is required. However, attendance and participation are critically important. Students are always expected to come to class with a positive attitude and play an active role there. They are also required to hand in homework assignments.

5. 評価

20% Attitude

50% Classwork (pair work, group work)

30% Homework

6. 教科書・参考書

教科書：None

参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」	"Talking about yourself Talking about family"	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」	Talking about entertainment	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」	"Describing routines Describing frequency"	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」	"Talking about food Ordering food"	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」	"Talking about neighborhood Going shopping"	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」	Preparing for speech	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」	Speech contest	伊藤 頼位

授業科目名	英会話Ⅲ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

This course is targeted to upper-intermediate and designed to improve their fluency in spoken English in simple everyday situations. Through conversation practices and games in pairs and small groups, students learn useful expressions and grammatical structures of spoken English. They are then encouraged to use the English language to exchange their opinions and feelings with each other in English. All the lessons of this course are conducted in English. This course limits the number of students to 30.

2. 一般目標

Students are engaged in essential conversational exchanges such as greetings, self-introduction, and talk about people, things, and places so that they can improve their fluency in spoken English.

3. 行動目標

Students will be able to carry on the following conversations in English fluently.

- (1) Inviting someone
- (2) Responding to an invitation
- (3) Talking about ongoing activities
- (4) Making comparisons
- (5) Expressing obligations, prohibitions, and necessity
- (6) Describing health problems
- (7) Making suggestions and recommendations
- (8) Describing pros and cons
- (9) Giving opinions
- (10) Agreeing or disagreeing with opinions
- (11) Discussing an imaginary situation

4. 準備学習

No preparation is required. However, attendance and participation are critically important. Students are always expected to come to class with a positive attitude and play an active role there. They are also required to hand in homework assignments.

5. 評価

20% Attitude

50% Classwork (pair work, group work)

30% Homework

6. 教科書・参考書

教科書：None

参考書：None

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習」	Talking about habitual and ongoing activities / Reporting past activities	伊藤 頼位
2	Unit 2「演習」	Describing future activities / Expressing time and duration	伊藤 頼位
3	Unit 3「演習」	Making comparisons	伊藤 頼位
4	Unit 4「演習」	Describing ongoing past activities / Describing actions that have occurred	伊藤 頼位
5	Unit 5「演習」	Expressing ability and obligation	伊藤 頼位
6	Unit 6「演習」	Using connectors	伊藤 頼位
7	Unit 7「演習」	Final interview session	伊藤 頼位

授業科目名	英語圏言語文化研修		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	講師：伊藤頼位		

1. 科目の概要

海外の言語文化に接することは、国際化社会で生活する上での必須の条件であるばかりでなく、豊かな人間性を育む素地ともなる。この授業では学外の英語・英国文化研修施設を利用した2泊3日の合宿を通じて、日本で紹介される機会の比較的少ない英国の歴史文化に関する造詣を深め、英会話力の強化を図る。利用施設：ブリティッシュヒルズ（福島県岩瀬郡天栄村）。なお、食費・宿泊費・研修費は受講者の負担となる（予定額：¥48,020）。

2. 一般目標

ネイティブスピーカーによる指導下で英会話と各種文化活動を行い、英語運用能力を高め英国の歴史文化への理解を深める。

3. 行動目標

- (1) 英国の食文化を理解する。
- (2) 英国の娯楽文化を理解する。
- (3) 率先して英語を使ったコミュニケーションを行おうとする。(態度)

4. 準備学習

研修期間内は授業以外の時間も目標達成のために費やすよう努力すること。予習は不要だが、復習として学習した表現を用い、参加者同士や現地スタッフとの間で英語を使ったコミュニケーションを図ること。

5. 評価

- 40% 授業への取り組み姿勢（担当教員による観察）
- 20% 英語の流暢性
- 40% 研修報告書

6. 教科書・参考書

- 教科書：なし
- 参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	英会話講習 1「演習」	Survival English（滞在中に役立つフレーズを学ぶ）	伊藤 頼位 研修先教員
2	英会話講習 2「演習」	Fun with Language（英語に対する緊張感を取り除く）	伊藤 頼位 研修先教員
3	英会話講習 3「演習」	Listening Skills（英語を聞き取る能力を伸ばす）	伊藤 頼位 研修先教員
4	英会話講習 4「演習」	Talk about Yourself（自己紹介の表現や相手を知るための質問を学ぶ）	伊藤 頼位 研修先教員
5	英国文化講習 1「演習」	Snooker（ビリヤードの原型となったスヌーカーを楽しむ）	伊藤 頼位 研修先教員
6	英国文化講習 2「演習」	Cooking（英国の伝統的なお菓子であるスコーンを作る）	伊藤 頼位 研修先教員
7	英国文化講習 3「演習」	Table Manners（テーブルマナーについて学び、ディナーで実践する）	伊藤 頼位 研修先教員

授業科目名	中国語Ⅰ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		

1. 科目の概要

近年、日本を訪れる中国人の観光客が年々増す一方で、ドラッグストアで日本製の薬を爆買いしたり、医療観光ツアーで来日したりするなど、中国語の需要がますます多くなってきた。本授業では、中国語によるコミュニケーション能力と異文化理解に重点をおき、実現的な会話を身につけると同時に、中国の歴史、文化、社会など幅広い知識を得られるようにする。また薬学に役立つ漢方薬の中国名やその由来、語源などを紹介し、理解して覚えるというスタイルで授業を進む。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

中国語の勉強をきっかけに、異文化に触れ合ってそれを理解しようとする姿勢を養い、両国の言語や文化を比較することによって新たな発見を得られた時の喜びを味わう。

3. 行動目標

1. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。
2. 中国語の基本的な文法を習得する。
3. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。
4. 中国に関する知識を増やし、物事に対して多角度で考える習慣を養う。（態度）

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習復習した上で授業を臨むこと。

授業を積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

50% 授業活動の積極性

50% レポート課題とワークシート提出

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：授業中紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	講座概要，発音①四声「演習」	授業の説明，中国語について 自己紹介を演習	劉 芳
2	発音②単母音 7 種類③二重母音 9 種類 「演習」	発音を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，中国各地の名物を紹介	劉 芳
3	発音④三重母音 4 種類⑤鼻母音 1 6 種類 「演習」	発音を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，中国語の音楽を鑑賞	劉 芳
4	発音⑥子音 I 「演習」	発音を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，漢方薬の漢字を紹介	劉 芳
5	発音⑦子音 II 「演習」	発音を説明，リスニング，問題演習 自己紹介演習，5 6 個の民族を紹介	劉 芳
6	発音のまとめ練習 I 「演習」	発音練習，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，中国の四字熟語を紹介	劉 芳
7	発音のまとめ練習 II 「演習」	発音練習，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，中国の祭りを紹介	劉 芳
8	課題作成及び発表「演習」	それぞれ講座で学んだことをレポートにまと めた後，グループになって発表する，レポー ト提出	劉 芳

授業科目名	中国語Ⅱ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		

1. 科目の概要

近年、日本を訪れる中国人の観光客が年々増す一方で、ドラッグストアで日本製の薬を爆買いしたり、医療観光ツアーで来日したりするなど、中国語の需要がますます多くなってきた。本授業では、中国語によるコミュニケーション能力と異文化理解に重点をおき、実現的な会話を身につけると同時に、中国の歴史、文化、社会など幅広い知識を得られるようにする。また薬学に役立つ漢方薬の中国名やその由来、語源などを紹介し、理解して覚えるというスタイルで授業を進む。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

中国語の勉強をきっかけに、異文化に触れ合ってそれを理解しようとする姿勢を養い、両国の言語や文化を比較することによって新たな発見を得られた時の喜びを味わう。

3. 行動目標

1. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。
2. 中国語の基本的な文法を習得する。
3. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。
4. 中国に関する知識を増やし、物事に対して多角度で考える習慣を養う。（態度）

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習復習した上で授業を臨むこと。

授業を積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

50% 授業活動の積極性

50% レポート課題とワークシート提出

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：授業中紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	動詞述語文(1)「是」を使う分「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 慣用会話演習，歴代皇帝を紹介	劉 芳
2	動詞述語文(2)「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 慣用会話演習，三国志を紹介	劉 芳
3	中国の映画鑑賞 1 / 2 「演習」	映画中に出てくる中国語あるいは習慣を説明 し，理解した上で中国の文化を感じ取る	劉 芳
4	中国の映画鑑賞 2 / 2 「ワークショップ」	残り半分の映画を鑑賞し，ワークショップに て気づいた点を学び合う，ワークシート記入	劉 芳
5	形容詞述語文「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 慣用会話演習，中国の伝統医学を紹介	劉 芳
6	名詞述語文 年月日の表現「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 慣用会話演習，漢方薬を紹介	劉 芳
7	数詞と量詞「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，発表課題準備	劉 芳
8	課題作成及び発表「ワークショップ」	それぞれ講座で学んだことをレポートにまと めた後，グループになって発表する，レポー ト提出	劉 芳

授業科目名	中国語Ⅲ		1～3年
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		

1. 科目の概要

近年、日本を訪れる中国人の観光客が年々増す一方で、ドラッグストアで日本製の薬を爆買いしたり、医療観光ツアーで来日したりするなど、中国語の需要がますます多くなってきた。本授業では、中国語によるコミュニケーション能力と異文化理解に重点をおき、実現的な会話を身につけると同時に、中国の歴史、文化、社会など幅広い知識を得られるようにする。また薬学に役立つ漢方薬の中国名やその由来、語源などを紹介し、理解して覚えるというスタイルで授業を進む。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 一般目標

中国語の勉強をきっかけに、異文化に触れ合ってそれを理解しようとする姿勢を養い、両国の言語や文化を比較することによって新たな発見を得られた時の喜びを味わう。

3. 行動目標

1. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。
2. 中国語の基本的な文法を習得する。
3. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。
4. 中国に関する知識を増やし、物事に対して多角度で考える習慣を養う。（態度）

4. 準備学習

指定された学習範囲を予習復習した上で授業を臨むこと。

授業を積極的に参加するために、質問などを準備しておくこと。

5. 評価

50% 授業活動の積極性

50% レポート課題とワークシート提出

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：授業中紹介する

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	疑問代詞を使った疑問文(1)「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 発音を復習，中国の漢方薬を紹介	劉 芳
2	疑問代詞を使った疑問文(2)「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，一人っ子政策を紹介	劉 芳
3	現代の中国を知る 1 / 3 「ワークショップ」	ワークショップ「貿易ゲーム」を通じて 経済のグローバル化した中国の現状を見る	劉 芳
4	助動詞（能願動詞Ⅰ），現代の中国を知る 2 / 3 「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 資料映像「長い電話」	劉 芳
5	助動詞（能願動詞Ⅱ），現代の中国を知る 3 / 3 「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 資料映像「希望と現実」	劉 芳
6	動詞述語文(3)「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，中国の四字熟語を紹介	劉 芳
7	存在と場所を表す「有，在」「演習」	文法を説明，リスニング，問題演習 自己紹介を演習，中国版西遊記を紹介	劉 芳
8	課題作成及び発表「ワークショップ」	それぞれ講座で学んだことをレポートにまとめた後，グループになって発表する，レポート提出	劉 芳

授業科目名	体育 A・体育 B		1～3年
授業区分	一般教養科目（実技）	選択	各0.5単位
担当教員	非常勤講師：中野浩一		

1. 科目の概要

体育科目は単にスポーツ技術を習得するために設置されているのではなく、学生生活や卒業後において必要となる資質の育成を目的としている。学力や専門性は他者との差異を示す上で必要ではあるが、それを実社会で生かして行くためには「健康・体力」や「自己形成」や「他者との関係づくり」が欠かせない。これらを欠いた場合、学力や専門性を生かす前に病死したり、伸ばす努力を欠いたり、他者の理解を得られなかったりする。また、機械が発達した今日、重い物を持ち上げたり、細かい作業をする必要が無くなってきている。この社会的な構造の変化より、本人の意志とは関係なく、体力や技術が軽視されていたり、不足する事態が生じることとなる。この不足を補うため、今日、注目されているのがスポーツである。スポーツには大筋活動（だいきんかつどう）、すなわち胸・腹・背中・臀部・太腿など、体幹を使った活動となるものが多く、この場合、細かな調整を行う小筋群も使用されている。このように、体全体を使った活動となるスポーツには、生活習慣病の予防など、一生涯を通じて「豊かなライフスタイルを確立」することが期待されている。

2. 一般目標

身体活動の楽しさを体験するなかで、健康の保持増進と体力の向上、身体活動を通しての自己形成、他者との関係づくりなどを行う。また、豊かなライフスタイルを確立するため、生涯スポーツに対する知識と運動文化の意義について理解することを目的として授業（実技・理論）を展開する。

3. 行動目標

- (1) チームやグループの一員としての役割や協調性を理解する。
- (2) スポーツや運動の身体的スキルを獲得できるようになる。
- (3) スポーツの特性と基礎理論について理解する。
- (4) スポーツと健康との相互関係を理解する。

4. 準備学習

授業内容に関するスポーツ種目を予習し、授業に臨むこと。

運動用の靴とジャージは高校で使用したものでもかまわないので、必ず準備すること。

スポーツ用具は準備してあるが、自前のものを用意してもかまわない。

5. 評価

実技授業のため、積極的な取り組みを評価する（45%）

コミュニケーションや協調性など、態度を評価する（10%）

スポーツ技術の習得状況を評価する（45%）

100点満点で65点以上を合格とする。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
「体育A」			
1	バドミントン「実技」	ラケットの握り方，基本ルール，試合	中野 浩一
2	バドミントン「実技」	サービス，試合	中野 浩一
3	バドミントン「実技」	各種ストローク，試合	中野 浩一
4	テニス「実技」	ラケットの握り方，基本ルール，試合	中野 浩一
5	テニス「実技」	サービス，各種ストローク，試合	中野 浩一
6	バレーボール「実技」	パス，基本ルール，試合	中野 浩一
7	バレーボール「実技」	サーブとレシーブ，試合	中野 浩一
「体育B」			
1	インドア・ソフトボール「実技」	キャッチボール，基本ルール，試合	中野 浩一
2	インドア・ソフトボール「実技」	バッティング，試合	中野 浩一
3	アルティメット (フリスビー競技)「実技」	投げ方，基本ルール，試合	中野 浩一
4	アルティメット (フリスビー競技)「実技」	「ゲームの精神」の学習，試合	中野 浩一
5	卓球「実技」	打ち方，基本ルール，試合	中野 浩一
6	卓球「実技」	試合（含，スリッパ卓球）	中野 浩一
7	卓球「実技」	試合（含，サウンド・テーブルテニス）	中野 浩一

授業科目名	美術 A・美術 B		1～3 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	選択	各0.5単位
担当教員	非常勤講師：内藤良行		

1. 科目の概要

「文化や芸術」を人類はいつ頃の時代に発見し、21 世紀までそれを進化／発展させて来たのかを考える。特に「美術」は、私たちの身の回りに溢れるように存在している。それを各自が自らの趣味・センスで鑑賞し、好き嫌いの感情を抱くのである。造形的な表現によって、人は何を表し、伝達しようとするのか。美術の全てのジャンルについて学習する時間はないが、芸術と言われる絵画と彫刻、そして、デザインとは何かについて考えるために、多くの表現体験を行う。また、視覚的学習として、多くの画像を鑑賞する。

表現体験では以下のような【表現材料】が必要となる。

- スケッチブック
- 鉛 筆（B、2 B 程度）
- 水彩絵の具（12 色の絵の具。ポスターカラー、アクリル絵具可）

2. 一般目標

美術への興味・関心・理解は、表されるものの価値や表現方法、表す技術を学ぶことによって高まる。文化的、精神的に豊かな生き方を考えるために、造形的表現体験と鑑賞を通して、文化に対する一般的な教養を身に付ける。

3. 行動目標

美術史と作品鑑賞の学習では、人類の造形的な文化史について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について説明できる。表現体験学習では、準備・計画・実施・意欲などについて、多面的に自らの在り方を振り返るとともに、配色感覚、空間認識力、描画センスを高める。表現体験では積極性が求められる。

4. 準備学習

- ① 美術や自然、市街、日用品等に関心をもち、美術館等に足を運ぶとともに、自然の美しさや季節感、表示や街のデザイン、機能と利便性などについて、視線を向け、よく観察する。
- ② 文化史、美術史に関する文献や美術全集などから、興味あるものを選んで読む。

5. 評価

提出作品と筆記試験及び授業時の態度により評価する（作品等授業内容 40％、筆記試験 30％、授業時の態度 30％）。

作品評価のため、作品は定められた期間内に提出する。筆記試験は講義や配付資料、表現体験の理解等に関する授業内容が中心である。提出作品については、主題のとらえ方、表現技術などの作品の質以外に、独創性や丁寧さなど、授業への積極性が感じられる点も加味した評価を行う。

6. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。必要な資料は授業で配布する。

参考書：授業の中で紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
「美術 A」			
1	オリエンテーション 鑑賞体験 (1)「実技」	「美術」の内容と持ち物及び評価についての説明 「人類と文化／美術史」について	内藤 良行
2	鑑賞体験 (2)「実技」	“認識力の発達” を美術作品から読み解く	内藤 良行
3	鑑賞体験 (3)「実技」	“色の科学” の学習と、混色体験 絵の具	内藤 良行
4	表現体験 (1)「実技」	四季のイメージを配色で表す① 〃	内藤 良行
5	〃	四季のイメージを配色で表す② 〃	内藤 良行
6	表現体験 (2)「実技」	四季のイメージを配色で表す③ 〃	内藤 良行
7	〃	四季のイメージを配色で表す④ 〃	内藤 良行
8	定期試験		内藤 良行
「美術 B」			
1	表現体験 (3)「実技」	「線と表現」①簡単な図形を描く スケッチ帳	内藤 良行
2	〃	「線と表現」②奥行きを感じる図形 〃	内藤 良行
3	〃	「線と表現」③表現と“空間認識力” 〃	内藤 良行
4	表現体験 (4)「実技」	観察画①（人物；鉛筆デッサン） 〃	内藤 良行
5	〃	観察画①（人物；鉛筆デッサン） 〃	内藤 良行
6	〃	観察画①（人物；鉛筆デッサン） 〃	内藤 良行
7	鑑賞体験 (4)「実技」	「世界各地の文化を見る」 感想文と評価の説明	内藤 良行
8	定期試験		内藤 良行

授業科目名	書写A・書写B		1～3年
授業区分	一般教養科目（実技）	選択	各0.5単位
担当教員	非常勤講師：鈴木蒼舟		

1. 科目の概要

最近ではコンピューターが定着し、また携帯電話でもメールやラインが頻繁に用いられるようになりました。文字離れの時代などとも言われていますが、文字が「言葉を視覚的に表現する」ことだけであれば情報機器の方が適切な場合も多いことでしょう。

しかし、社会生活においては、まだまだ手書きで文字を書く場面が多々あります。

手書き文字の良いところは、お礼状、お祝状、お悔やみ状、喜び、悲しみなどの気持ちを伝える際、手書きで書くことによって、文字の表情から、書者の心情などを、読む人に伝えることが出来るからです。

ここでは、毛筆と硬筆を合わせて、楷書、行書、草書、隸書、ひらがな、ペン字、調和体、実用書などを、基本から学び、手書き文字を、正しく、調和良く、丁寧を書くことを意識し、書くことを学びます。

「書写A」と「書写B」は両方を履修可能です。

2. 一般目標

文字を正しく、調和良く整えて、丁寧に書く。

3. 行動目標

- 1) 正しい姿勢で書く。
- 2) 執筆法（筆記用具の持ち方）の習得。
- 3) 正しく書く。
- 4) 丁寧に書く。
- 5) 調和良く書く。

4. 準備学習

前回学習した課題を練習し、持参し出席する。

5. 評価

授業時に課す課題による提出物による評価（100%）。

6. 教科書・参考書

教材：道具セット（和筆墨んぼ [ナイロン製]、和筆つらゆき、下敷樹脂美濃半野入 名杓無、墨液墨 美人携帯用 150cc、優美半紙 100 枚）

参考書：適時プリントや教材を配布する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
「書写A」			
1	執筆法「実技」	姿勢・筆の持ち方・腕の構え方 楷書・基本点画（1）	鈴木 蒼舟
2	毛筆楷書「実技」	楷書・基本点画（2）	鈴木 蒼舟
3	毛筆楷書「実技」	楷書・基本点画（3）	鈴木 蒼舟
4	毛筆行書「実技」	行書（1）	鈴木 蒼舟
5	毛筆行書「実技」	行書（2）	鈴木 蒼舟
6	毛筆草書「実技」	草書	鈴木 蒼舟
7	毛筆まとめ	楷書・行書・草書各一枚提出	鈴木 蒼舟
「書写B」			
1	実用毛筆楷書「実技」	実用毛筆楷書	鈴木 蒼舟
2	実用毛筆行書「実技」	実用毛筆行書	鈴木 蒼舟
3	硬筆ペン字「実技」	調和体（漢字ひらがな交じり文）	鈴木 蒼舟
4	硬筆ペン字「実技」	調和体（漢字ひらがな交じり文）	鈴木 蒼舟
5	実用書毛筆「実技」	御祝・御礼等の書式（のし袋）	鈴木 蒼舟
6	実用書毛筆「実技」	封筒、はがき（宛名）	鈴木 蒼舟
7	実用書毛筆硬筆まとめ 「実技」	実用書 3 ペン字 1 提出	鈴木 蒼舟

授業科目名	数学Ⅰ		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄 講師：木田雄一		

1. 科目の概要

薬学は自然科学を根底にもつ学問であり、その自然科学を理解する必須の手法の一つとして数学が挙げられる。例えば、反応速度の計算においては微分の知識が必要であり、体内薬物動態における AUC（血漿薬物濃度曲線下面積）の計算には積分の知識が必要である。

また、薬学分野では物理現象、生命現象、自然現象もしくは社会現象を解析する場面に多く遭遇する。しかし、これらの現象には、その原理が完全には解明されていなかったり、解析に必要な全てのデータを集める事が現実的に不可能である等の理由によって、確定できない要素が多く含まれる。これらの確定できない現象を定式化し解析するための数学として、確率論および統計学が用いられる。

本講義では、薬剤師にとって必要な、あるいは、効率よく薬学を学んでいく上で有効な数学的な知識・技能を身につけていく。具体的には、実践的な薬学数学である指数関数・対数関数・微分と積分の計算、やや学問的かつ数学的に薬学を考えていく上でヒントとなる数列と行列、および、統計学の基礎理論としての確率論の基礎知識について学習する。

なお、一部の授業では、クラス分け試験の成績を参考にしてクラス分けを行い、効果的に授業を進める。

2. 一般目標

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。

3. 行動目標

1. 等差数列と等比数列の基本概念を理解し、それぞれの和を計算できる。
2. 行列の基本概念と演算を理解し、それをを用いて連立一次方程式の解を求められる。
3. 場合の数、順列、組合せの基本概念を理解し、それをを用いた計算ができる。
4. 確率の定義と性質を理解し、計算ができる。
5. 平均値、分散、標準偏差などの基本的な統計量について説明し、求めることができる。
6. 二項分布および正規分布について概説できる。
7. 指数と対数の計算ができる。
8. 指数関数と対数関数を式およびグラフを用いて説明できる。
9. 極限と導関数の基本概念を理解し、指数関数と対数関数の微分ができる。
10. 原始関数の基本概念を理解し、指数関数と対数関数の不定積分および定積分ができる。

4. 準備学習

予習：基本的に、指定の教科書に沿って講義を進行する。授業の終わりに次回の学習項目等を発表するので、その項目を1時間以上かけて予習しておくこと。

復習：教科の特性上、演習問題を多く出題するので、前回の授業内容を復習し、次回講義前には必ず解けるようにすること。どうしても解けない場合は、その週の内に教員に質問に行き、そのままにしないことが重要である。

5. 評価

定期試験の結果を 80%、小テストの内容を 20% として評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：安西和記，高木徳子，田中栄一，豊田実司 著，都築稔 編，わかりやすい薬学系の数学入門，講談社 石村園子 著「すぐわかる確率・統計」東京図書株式会社

参考書：岩崎祐一，上田晴久，佐古兼一 著，小林賢，熊倉隆二 編，わかりやすい薬学系の数学演習，講談社 中川弘一，松林哲夫 著，薬学系学生のための微分積分，共立出版

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	等比数列と等差数列 「講義」「演習」	等差数列の定義と和の公式，等比数列の定義と和の公式，無限等比級数の極限	木田 雄一
2	行列と連立方程式 「講義」「演習」	行列とベクトルの定義と演算，行列式，逆行列，連立方程式	木田 雄一
3	試行と事象，順列・組み合わせ 「講義」「演習」	試行と事象，場合の数，順列と組合せ，標本空間	木田 雄一
4	確率の定義と公理 「講義」「演習」	確率の定義と公理	木田 雄一
5	確率分布と期待値 「講義」「演習」	確率変数と確率分布，平均・分散・標準偏差	木田 雄一
6	二項分布と正規分布 「講義」「演習」	二項分布の性質，正規分布の性質，確率変数の標準化	木田 雄一
7	中間試験	1回～6回の範囲の試験	木田 雄一
8	指数関数・対数関数 基本 講義「講義」「演習」	指数計算と半減期，対数とその性質，対数計算	和田 重雄 木田 雄一
9	指数関数・対数関数の習熟 「講義」「演習」	指数・対数の計算への習熟。pH 等，化学的・物理的な物理量に対する数学的な考察	和田 重雄 木田 雄一
10	微分 基本講義 「講義」「演習」	極限の概念，極限値の求め方，導関数の求め方	和田 重雄 木田 雄一
11	積分 基本講義 「講義」「演習」	各種関数の不定積分，定積分の求め方	和田 重雄 木田 雄一
12	微分と積分 基本演習 「講義」「演習」	導関数，各種関数の不定積分，定積分の求め方の基本演習。応用例の紹介	和田 重雄 木田 雄一
13	定期試験	8回～12回の範囲の試験	和田 重雄 木田 雄一

授業科目名	数学Ⅱ		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	講師：渡邊哲也，中楯 奨 助教：吉田健太郎		

1. 科目の概要

薬学は自然科学を根底にもつ学問であり，その自然科学を理解する必須の手法の一つとして数学があげられる。例えば，薬物の反応速度に関しては微分と微分方程式さらには積分の知識が必要であり，薬物動態解析や酸・塩基の pH や解離定数の算出には指数，対数の知識が必要である。そのため，薬学を学ぶ上で，指数・対数・微分（微分方程式）・積分の知識（考え方），解法やその応用方法を身につけることが重要である。これは，薬学の現場で起こる科学的な現象を数学的な思考で考えていくための基礎となる。

また，薬剤師として調剤業務を行う上で，単位の換算や濃度の理解も必要となる。

本講義は，指数・対数・微分・積分の分野を中心に高等学校の内容を復習しながら，より専門性の高い薬学分野の内容を理解できるよう，薬学で必要な内容を例題にして進め，科学的な現象を筋道をたて，総合的に理解する力を養う。

2. 一般目標

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的な知識を習得し，それらを薬学領域で応用するための，基本的技術を身につける。また，物事を論理的に考える力を身につける。

3. 行動目標

1. 有効数字を含む値の計算ができる。
2. 連分数の扱いができる。
3. 指数関数および対数関数を，式およびグラフを用いて説明できる。
4. 極限の基本概念を概説できる。
5. 導関数の基本概念を理解し，代表的な関数の微分ができる。
6. 原始関数の基本概念を理解し，代表的な関数の不定積分および定積分ができる。
7. 微分法式の成り立ちを理解し，基本的な微分方程式（変数分離型）の一般解と特殊解を求めることができる。

4. 準備学習

数学Ⅱでは，数学Ⅰで学んだ内容を含んだ応用数学となるため，必ず数学Ⅰおよび基礎薬学計算を復習すること。また，講義後の内容は必ず復習し次回の講義までには講義で扱った例題や提示された類題を解けるように理解しておくこと。

5. 評価

定期試験：100%

6. 教科書・参考書

教科書：わかりやすい薬学系の数学演習（講談社）

プリントを配布

参考書：わかりやすい薬学系の数学入門（講談社）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	有効数字と連分数，割合・比例 (1)「講義」	有効数字の取り扱い。単位と単位換算。濃度の算出と利用。	中楯 奨
2	連分数，割合・比例 (2)「講義」	薬剤に関する計算。製剤量，成分量，調剤量の算出。	中楯 奨
3	指数関数・対数関数の薬学への応用 (1)「講義」	ヘンダーソン・ヘッセルバルヒの式を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
4	指数関数・対数関数の薬学への応用 (2)「講義」	アレニウスの式を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
5	微分・積分の薬学への応用 (1)「講義」	速度論における物質収支式の作り方，その解法。	渡邊 哲也
6	微分・積分の薬学への応用 (2)「講義」	反応式 (0 次，1 次，2 次) を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
7	微分・積分の薬学への応用 (3)「講義」	反応式 (併発，逐次，可逆) を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
8	微分・積分の薬学への応用 (4)「講義」	血中薬物濃度式 (静注，経口，点滴) を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
9	微分・積分の薬学への応用 (5)「講義」	Higuchi 式，ノイエスホイットニーの式を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
10	微分・積分の薬学への応用 (6)「講義」	ヒクソン・クロウエルの式を，式およびグラフを用いて説明。式の解法。	渡邊 哲也
11	連分数，割合・比例の薬学への応用「演習」	連分数，割合・比例計算の演習。	吉田健太郎
12	微分・積分の薬学への応用「演習」	指数，対数，微分，積分の演習。	吉田健太郎
13	定期試験		渡邊 哲也 中楯 奨 吉田健太郎

授業科目名	化学Ⅰ		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	准教授：和田重雄，石山玄明		

1. 科目の概要

- ・第1学年後期以降に開講される専門科目をギャップを感じることなく学習開始できるように，高等学校での化学の概念・基本事項を確認しつつ，ワンランク上の基礎学力，科学的思考力，論理力を身につける。
- ・入学直後実施の学力試験結果を考慮し習熟度に応じたクラスを設置して，それぞれのクラスで，高等学校で化学を修得した学生あるいは修得していない学生に対応した指導を行い，薬学における化学系の基礎力を着実に身につける。

2. 一般目標

- ・高等学校における化学基礎の単元と有機化学の範囲において，専門科目を無理なく履修できるような知識を修得する。
- ・酸・塩基の反応，酸化還元反応，また，物質の量と溶液の濃度計算法などを修得することにより，化学物質（医薬品を含む）を分析できるようになるための基礎を養う。
- ・代表的な有機化合物の性質，基本的な有機化学の反応を修得することで，有機化合物（医薬品を含む）を化学的な視点から理解する基礎力を身につけ，さらに後期以降に開講される有機化学ⅠⅢをスムーズに履修できるような一歩踏み込んだレベルの知識を修得する。

3. 行動目標

1. 化学反応の特徴を理解し，種類別に分類できる。
2. 気体，液体，固体のそれぞれの状態での物質量および濃度を的確に求めることができる。
3. 化学反応式に関連づけて物質量を的確に求めることができる。
4. 酸・塩基の特徴，反応性について説明できる。
5. 水溶液の pH を的確に求めることができる。
6. 酸化還元の定義および酸化還元滴定について説明できる。
7. 有機化合物が持つ特性を構造と関連づけて概説できる。
8. 有機化合物の異性体について説明できる。
9. 基本的な有機化学反応機構を，電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。
10. 反応が起こる基本的な原理について概説できる。
11. 基本的な有機反応の仕組みについて説明できる。

4. 準備学習

春休み中に学習した課題などをもとにして，簡単でも良いので必ず予習してくる。基本事項の上に，毎回積み重ねていく科目なので，その日のうちに理解が不足している部分を教科書，ノート，配布プリントなどを利用して毎回復習すること。また，1週間後，1ヶ月後に練習問題が解けるか，自らチェックすることも重要である。

5. 評価

定期試験および中間試験：80%，授業時の課題の取り組み：20%

6. 教科書・参考書

教科書：「基礎化学1 2講」左巻健男 編 化学同人, 「『有機化学』ワークブック」奥山格 著 丸善出版

参考書：「プライマリー薬学シリーズ3 薬学の基礎としての化学 II. 有機化学」日本薬学会編, 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	化学の基本1 「講義・演習」		化学反応の分類と化学反応の予想	和田 重雄 石山 玄明
2	化学の基本2 「講義・演習」		化学反応とエネルギーの出入り(熱化学)	和田 重雄 石山 玄明
3	化学の基本3 「講義・演習」		化学反応の計算	和田 重雄 石山 玄明
4	化学反応とその性質1 「講義・演習」		酸・塩基の理論・反応	和田 重雄 石山 玄明
5	化学反応とその性質2 「講義・演習」		酸化還元の理論・反応	和田 重雄 石山 玄明
6	化学反応とその性質3 「講義・演習」		平衡と物質の変化	和田 重雄 石山 玄明
7	中間試験		第1回～第6回の範囲の小テスト	和田 重雄 石山 玄明
8	有機化学入門1 「講義・演習」	C3-(1)-①-3,6, -②-1	有機化合物, 有機反応の分類 有機分子の構造と異性体	和田 重雄 石山 玄明
9	有機化学入門2 「講義・演習」	C3-(3)-①-1	有機分子の極性と特性	和田 重雄 石山 玄明
10	有機反応論1 「講義・演習」	C3-(3)-②2,3	σ 結合の反応性	和田 重雄 石山 玄明
11	有機反応論2 「講義・演習」	C3-(2)-②-1,2	π 結合の反応性	和田 重雄 石山 玄明
12	有機反応論3 「講義・演習」	C3-(2)-③ C3-(1)-①-9	芳香族性と求電子置換反応	和田 重雄 石山 玄明
13	定期試験			和田 重雄 石山 玄明

授業科目名	化学Ⅱ		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	単位
担当教員	教授：山岸丈洋		

1. 科目の概要

薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるため、物質を構成する基本単位である原子および分子の性質について説明する。無機化学、金属のまわりを小分子あるいはイオンが取り囲んだ構造をもつ錯体について学ぶ。

2. 一般目標

代表的な元素（典型元素、遷移元素）とその化合物及び錯体の性質を理解するために、名称、構造、性状などに関する知識を習得する。

3. 行動目標

1) 原子の構造及び電子配置を説明できる。2) 分子の構造及び極性を説明できる。3) 典型元素および遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。4) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、基本的性質を説明できる。5) 代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質を説明できる。6) 無機医薬品を列挙できる。

4. 準備学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと。

5. 評価

学期末試験により評価する（100%）。

6. 教科書・参考書

教科書：「ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学」化学同人

参考書：「ソロモンの新有機化学（上）（第9版）」廣川書店、「理系のためのはじめて学ぶ化学[無機化学]」ナツメ社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	原子の構造「講義」		原子の構造・原子軌道・電子配置	山岸 丈洋
2	化学結合 1「講義」	C1-(1)-①-1	化学結合の分類	山岸 丈洋
3	化学結合 2「講義」	C1-(1)-①-2	混成軌道	山岸 丈洋
4	分子の構造「講義」	C3-(1)-③-1	ルイス構造, 形式電荷, 極性	山岸 丈洋
5	元素と周期律「講義」	C3-(5)-①-1	代表的な典型元素と遷移元素とその特徴	山岸 丈洋
6	無機化合物 1「講義」	C3-(5)-①-2	窒素酸化物の名称, 構造, 性質	山岸 丈洋
7	無機化合物 2「講義」	C3-(5)-①-2	イオウ, リン, ハロゲンの酸化物, オキシ化合物の名称, 構造, 性質	山岸 丈洋
8	無機化合物 3「講義」	C3-(5)-①-3	活性酸素の名称, 構造, 性質	山岸 丈洋
9	錯体 1「講義」	C3-(5)-①-4	代表的な錯体の名称, 構造, 基本的性質	山岸 丈洋
10	錯体 2「講義」	C3-(5)-①-4	代表的な錯体の名称, 構造, 基本的性質	山岸 丈洋
11	錯体 3「講義」	C3-(5)-①-4	代表的なドナー原子, 配位基, キレート試薬, 錯体の安定度定数	山岸 丈洋
12	無機医薬品「講義」	C3-(5)-①-5	医薬品として用いられる代表的な無機化合物, 錯体	山岸 丈洋
13	定期試験			山岸 丈洋

授業科目名	物理学Ⅰ		1年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	単位
担当教員	准教授：和田重雄		

1. 科目の概要

・薬学を学習していく上で把握しておいてもらいたい物理現象に関連する項目の概念をしっかりとらえるために、物体の運動、波動、エネルギー、電磁気の分野を学習する。

2. 一般目標

- ・薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識、問題解決の手法等を身につける。
- ・物体の量や運動などに関して、記述できるようにする。を的確に表すことができる。物体間の相互作用などに関する基本的事項を修得する。波動やエネルギーについて。
- ・能動的な学習態度の育成。すなわち、公式の暗記、代入に頼るのではなく、自ら公式を導いたり、公式の活用方法を検討するなど、科学的思考力を育む。
- ・物理的、化学的なものの考え方、概念をしっかりと身につけることを最大の目標とする。
- ・物理化学という科目は、化学現象を物理的に学習していく分野と考えられる。専門化学をより発展的に学習する科目である。本科目では、量子化学（原子の中の挙動と考えてよい）、物質の三態を中心に、専門科目で基礎固めを行っていく。
- ・量子化学分野：原子の中の構造、原子同士の結びつき等を扱っていく。プラスとマイナスの電気が引き合い、プラス同士、あるいはマイナス同士が反発しあう。これを元に、原子の内部構造をとらえたり、原子同士の結びつきを考察することにより、物質の様々な特徴が予想できるようになる。そのような、何を考えれば何がわかるのかという流れ（考え方）を、しっかりと身につけることが一般目標の一つである。
- ・物質の状態：物質の三態の特徴を学び、特に気体について、高校レベルの基本事項の確認から専門科目の導入レベルまで、一步一步、着実に物事捉え方を解説していく。基礎学力に自身のない学生には、基本問題演習などを活用して丁寧に対応していく。
- ・熱とエネルギー：エネルギーとその変換、エネルギーの基本的な法則について、問題演習を多く取り入れ基本的な考え方がしっかりと定着させる。
- ・放射化学入門：実生活でも専門科目でも役立つ基本的な正しい知識を身につける。

3. 行動目標

1. S I 基本単位の定義、組立単位を説明できる。
2. 種々の量に対して、S I 接頭語を的確に利用できる。
3. 運動の法則を理解し、力、質量、加速度、仕事などの相互関係を説明できる。
4. 直線運動、円運動などの運動を数式を用いて説明できる。
5. 力学的エネルギー、仕事、運動量について説明できる。
6. 波動の基本的性質を説明できる。
7. 音波・電磁波・光波・レーザー光の特徴を説明できる。

4. 準備学習

積み重ねが重要となる科目であるので、講義は休まずに出席をする。

予習：前回の授業終了時に、次週の予告をするので、その内容を教科書でノートまとめなどをしてくる。（30～45分程度）

復習：授業時間中に理解不足があったら、必ずその日のうちに復習をする。配布する演習問題などをその日のうちに解答しておく。（30～45分程度）

5. 評価

定期試験：80%，授業時の小テスト，提出物等20%

6. 教科書・参考書

教科書：「わかりやすい薬学系の物理学入門」小林賢他著，講談社，担当教員編集教材

参考書：高等学校の物理基礎・物理の教科書・問題集等，「フォトサイエンス 物理図録」数研出版編集部編，数研出版

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	自然科学と物理学 「講義・演習」	自然現象の解説法，物体の運動の見方 基本物理量，基本単位	和田 重雄
2	力学1 「講義・演習」	自由落下運動	和田 重雄
3	力学2 「講義・演習」	運動の3法則の理解	和田 重雄
4	力学3 「講義・演習」	運動方程式と物体の運動	和田 重雄
5	力学4 「講義・演習」	仕事，エネルギー，運動量	和田 重雄
6	力学5 「講義・演習」	力学総論1 種々の物体の運動を調べる	和田 重雄
7	波動1 「講義・演習」	波動とは，波動の基本的性質	和田 重雄
8	波動2 「講義・演習」	音波の特徴	和田 重雄
9	波動3 「講義・演習」	光波，光，色	和田 重雄
10	波動4 「講義・演習」	電磁波，レーザー光，波動総復習	和田 重雄
11	電磁気学1 「講義・演習」	電場と磁場	和田 重雄
12	電磁気学2 「講義・演習」	電気回路	和田 重雄
13	定期試験		和田 重雄

授業科目名	物理学Ⅱ（物理化学入門）		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	単位
担当教員	教授：柏木良友 准教授：和田重雄，志村紀子 講師：小野哲也		

1. 科目の概要

- ・1 学年後期以降の専門科目をスムーズに学習開始ができるよう，高等学校で学習した化学・物理の概念・基本事項を確認しつつ，ワンランク上の基礎知識，科学的思考力，論理力を身につける。
- ・物理学はそもそも，自然現象には普遍的な法則があると考え，微視的な立場と巨視的な立場から理論を構築していく学問である。物理化学という科目は，化学現象を物理的に学習していく分野である。そこで，微視的な立場から原子の構造から，巨視的な立場として気体の状態方程式まで扱う。また，熱力学について基本の基本から解説を進めていく。
- ・授業偶数回（金曜日）は，4 月実施の学力試験の成績等を参考にして必要に応じてクラス分けを行い，学生の学力に対応した指導を実施し，効果的に学士力を身につける。

2. 一般目標

- ・物理的，化学的なものの考え方，概念をしっかりと身につけることを最大の目標とする。
- ・物理化学という科目は，化学現象を物理的に学習していく分野と考えられる。専門化学をより発展的に学習する科目である。本科目では，量子化学（原子の中の挙動と考えてよい），物質の三態を中心に，専門科目で基礎固めを行っていく。
- ・量子化学分野：原子の中の構造，原子同士の結びつき等を扱っていく。プラスとマイナスの電気が引き合い，プラス同士，あるいはマイナス同士が反発しあう。これを元に，原子の内部構造をとらえたり，原子同士の結びつきを考察することにより，物質の様々な特徴が予想できるようになる。そのような，何を考えれば何がわかるのかという流れ（考え方）を，しっかりと身につけることが一般目標の一つである。
- ・物質の状態：物質の三態の特徴を学び，特に気体について，高校レベルの基本事項の確認から専門科目の導入レベルまで，一步ずつ，着実に物事捉え方を解説していく。基礎学力に自身のない学生には，基本問題演習などを活用して丁寧に対応していく。
- ・熱とエネルギー：エネルギーとその変換，エネルギーの基本的な法則について，問題演習を多く取り入れ基本的な考え方がしっかりと定着させる。
- ・放射化学入門：実生活でも専門科目でも役立つ基本的な正しい知識を身につける。

3. 行動目標

1. 原子の構造を説明できる
2. ボーアモデルの構造を定量的に説明できる
3. 原子の構造と放射壊変について説明できる
4. 気体の法則（ボイルシャルルの法則）理想気体の状態方程式を説明できる
5. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる
6. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる
7. 相変化に伴う熱の移動について説明できる
8. 物質の状態図について説明できる
9. エネルギー，熱について説明できる
10. 熱力学第一法則と第二法則を概説できる
11. 放射線の特徴と生体への影響を概説できる

4. 準備学習

積み重ねが重要となる科目であるので、講義は休まずに出席をする。

予習：前回の授業終了時に、次週の予告をするので、その内容を教科書でノートまとめなどをしてくる。(30～45分程度)

復習：授業時間中に理解不足があったら、必ずその日のうちに復習をする。配布する演習問題などをその日のうちに解答しておく。(30～45分程度)

5. 評価

定期試験：90%，授業時の小テスト，提出物等 10%

6. 教科書・参考書

教科書：「物理化学テキスト」葛谷昌之編 廣川書店，「わかりやすい薬学系の物理学入門」小林賢他著，講談社，担当教員編集教材

参考書：授業時に指示する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	量子化学Ⅰ 「講義・演習」	C1-(1)-③	原子の構造，ボーアモデル	和田 重雄
2	物質の状態Ⅰ 「講義・演習」	C1-(2)-⑤	三態変化とエネルギー，相平衡	小野 哲也 和田 重雄
3	量子化学Ⅱ 「講義・演習」	C1-(1)-③	電子殻（電子雲），粒子性・波動性	和田 重雄
4	物質の状態Ⅱ 「講義・演習」	C1-(2)-⑤	気体の法則，理想気体の状態方程式	柏木 良友 和田 重雄
5	量子化学Ⅲ 「講義・演習」	C1-(1)-③	波動方程式，原子軌道	和田 重雄
6	物質の状態Ⅲ 「講義・演習」	C1-(2)-⑤	混合気体と蒸気	小野 哲也 和田 重雄
7	エネルギー・熱力学Ⅰ 「講義・演習」	C1-(2)-⑤	エネルギーと熱	和田 重雄
8	物質の状態Ⅲ 「講義・演習」	C1-(2)-⑤	実在気体と実在気体の状態方程式	柏木 良友 和田 重雄
9	エネルギー・熱力学Ⅱ 「講義・演習」	C1-(2)-⑥	熱力学第一法則・第二法則	和田 重雄
10	物質の状態Ⅳ 「講義・演習」	C1-(2)-⑤	気体の分子運動論	柏木 良友 和田 重雄
11	放射化学入門 「講義・演習」	C1-(1)-④ D2-(1)-④	放射線の特徴 放射線の生体への影響	志村 紀子
12	総合演習 「講義・演習」		物理学Ⅱ学習範囲の総合演習	和田 重雄
13	定期試験			

授業科目名	生物学 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	教授：大島光宏，堀江 均，山本雅正		

1. 科目の概要

薬剤師として薬剤を投与する対象はおもにヒトである。しかし、ヒトも生物の一種であり、生物に共通する生命システムの理解は不可欠である。リンネは生物を分類したが、ダーウィンはすべての生物をつなげてしまった。なぜ共通の祖先があるはずと考えたのか？

生物学 I と II では、生命の起源から多細胞生物に進化し、かつ多様化した過程をたどりながら、細胞とは何か、細胞は何でできていてどうやって生きているのか、多細胞化によりどのような利点が生まれたのか、どのように生命をつないでいくのか、などを系統立てて学べるように工夫されている。この流れのなかで、生物学の大きなパラダイムシフトであった、細胞の発見、進化の提唱、遺伝子の示唆、DNA の構造決定、セントラルドグマの否定、リボザイムの発見、ゲノムプロジェクトなどが理解できるはずである。

生命システムを広い視野から眺めるためにも、本講義で多くの疑問を抱き、考え、そして多くの担当教員と意見を交わして欲しい。

2. 一般目標

生物の進化の過程をたどるとともに、生命システムの共通項を学ぶことにより、生物という概念を構築する。

3. 行動目標

- 1) 生物学の基本について概説できる。
- 2) 細胞のプロフィールについて概説できる。
- 3) 細胞の形や機能について概説できる。
- 4) 細胞の維持について概説できる。
- 5) タンパク質による細胞の活動について概説できる。
- 6) 細胞間の情報伝達について概説できる。

4. 準備学習

予習： 毎回の講義ごとに、教科書の該当する章を予め読んでから授業に臨む（30 分）。

復習： 毎回の講義のあとで講義ノートを見直し、不完全な部分を教科書や参考書を使って補う（30 分）。

5. 評価

定期試験の成績のみで評価し、判定する。

6. 教科書・参考書

教科書：基礎から学ぶ一生物学・細胞生物学 第3版 和田勝著 羊土社

参考書：分子生物学講義中継 番外編 生物の多様性と進化の驚異 第1版 井出利憲著 羊土社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	はじめに「講義」		科学とは何か？ 生物学とは、生物学の方法	大島 光宏
2	生物学の基本「講義」		生物の多様性と進化 生物の共通性と階層性	大島 光宏
3	細胞のプロフィール「講義」		顕微鏡，細胞の横顔 細胞を構成している物質	堀江 均
4	細胞のプロフィール「講義」	C7-(1)-①-2	細胞小器官 細胞膜の構造と機能	堀江 均
5	何が細胞の形や機能を決めているか「講義」		形質を決めるもの 遺伝子としての DNA	堀江 均
6	何が細胞の形や機能を決めているか「講義」		転写と翻訳 タンパク質の構造と機能	堀江 均
7	細胞が生きて活動していくために「講義」		ATP 産生，葉緑体	大島 光宏
8	細胞が生きて活動していくために「講義」		代謝経路のネットワーク	大島 光宏
9	タンパク質が細胞の様々な活動を行う「講義」	C7-(3)-①	タンパク質の機能，細胞は動く	山本 雅正
10	タンパク質が細胞の様々な活動を行う「講義」		オペロン説，膜タンパク質	山本 雅正
11	多細胞生物への道①「講義」		細胞は集まって情報交換する	山本 雅正
12	多細胞生物への道①「講義」		情報伝達	大島・堀江 山本
13	定期試験			

授業科目名	生物学Ⅱ		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	教授：野島浩史，山下俊之，小谷政晴 助教：横田 理		

1. 科目の概要

薬剤師として薬剤を投与する対象はおもにヒトである。しかし、ヒトも生物の一種であり、生物に共通する生命システムの理解は不可欠である。リンネは生物を分類したが、ダーウィンはすべての生物をつなげてしまった。なぜ共通の祖先があるはずと考えたのか？

生物学ⅠとⅡでは、生命の起源から多細胞生物に進化し、かつ多様化した過程をたどりながら、細胞とは何か、細胞は何でできていてどうやって生きているのか、多細胞化によりどのような利点が生まれたのか、どのように生命をつないでいくのか、などを系統立てて学べるように工夫されている。この流れのなかで、生物学の大きなパラダイムシフトであった、細胞の発見、進化の提唱、遺伝子の示唆、DNA の構造決定、セントラルドグマの否定、リボザイムの発見、ゲノムプロジェクトなどが理解できるはずである。

生命システムを広い視野から眺めるためにも、本講義で多くの疑問を抱き、考え、そして多くの担当教員と意見を交わして欲しい。

2. 一般目標

生物の進化の過程をたどるとともに、生命システムの共通項を学ぶことにより、生物という概念を構築する。

3. 行動目標

- 1) 細胞の増殖（DNA の複製，細胞周期，突然変異，DNA 修復機構）について概説できる。
- 2) 生殖細胞の形成，受精，初期発生について概説できる。
- 3) 細胞の再生と死，個体の死について概説できる。
- 4) 生体の情報伝達機構（神経系，内分泌系）と防御機構（免疫系）について概説できる。
- 5) 感覚を受容するしくみについて概説できる。
- 6) 生体の持つホメオスタシス（恒常性）について，からだの水分量と体温を調節するしくみを例にして概説できる。

4. 準備学習

予習：前期Ⅰに開講された生物学Ⅰの復習をしっかりと行い，教科書の該当する章を予め読んでから授業に臨む（30 分）。

復習：毎回の講義のあとで講義ノートを見直し，不完全な部分を教科書や参考書を使って補う（30 分）。

5. 評価

定期試験の成績のみで評価し，判定する。

6. 教科書・参考書

教科書：基礎から学ぶ一生物学・細胞生物学 第3版 和田勝著 羊土社

参考書：トートラ人体解剖生理学 原書10版 佐伯由香ほか編訳 丸善

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」		授業内容	担当者
1	多細胞生物への道②「講義」		細胞の数を増やす－その1	横田 理
2	多細胞生物への道②「講義」		細胞を正常な状態に保つ	横田 理
3	多細胞生物への道③「講義」		細胞の数を増やす－その2	横田 理
4	多細胞生物への道③「講義」		次世代の誕生に必要なこと	横田 理
5	個体を守る免疫のシステム－1「講義」		免疫系の概説，自然免疫	山下 俊之
6	個体を守る免疫のシステム－2「講義」		体液性免疫と細胞性免疫	山下 俊之
7	生きること，死ぬこと－1「講義」		細胞の再生	小谷 政晴
8	生きること，死ぬこと－2「講義」		細胞の死	小谷 政晴
9	個体としてのまとめ－1「講義」	C(7)-③-1	人体を構成する器官と器官系	野島 浩史
10	個体としてのまとめ－2「講義」		感覚器官と感覚を受容するしくみ	野島 浩史
11	個体としてのまとめ－3「講義」		恒常性－からだの水分量と体温を調節するしくみ	野島 浩史
12	生物の進化と多様性「講義」		生物の多様性	野島 浩史
13	定期試験			野島・山下 小谷・横田

授業科目名	化学熱力学入門		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	教授：柏木良友 講師：小野哲也		

1. 科目の概要

物理化学はエネルギーと物質に関する自然現象を理解する上で重要な学問であり、薬学領域で学ぶあらゆる教科の基本となっている。この科目では、物理学で学んだ基本をもとに、まず化学熱力学の基礎となる熱力学第一、第二、第三法則、自由エネルギーなどを理解し、さらにこれを応用して化学平衡などの自然現象について学ぶ。特に、理想的思考力を身につけ、客観的に実験事実と理論を対比して考えられるような姿勢を養う。

2. 一般目標

物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標

1. 熱力学における系，外界，境界について説明できる。
2. 熱力学第一法則を説明できる。
3. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。
4. 定圧過程，定容過程，等温過程，断熱過程を説明できる。
5. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。
6. エンタルピーについて説明できる。
7. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。
8. エントロピーについて説明できる。
9. 熱力学第二法則について説明できる。
10. 熱力学第三法則について説明できる。
11. ギブズエネルギーについて説明できる。
12. 熱力学関数を使い，自発的な変化の方向と程度を予測できる。
13. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
14. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
15. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。
16. 共役反応の原理について説明できる。

4. 準備学習

予習：講義終了の際に次回の内容を案内するので，その範囲の教科書を熟読して臨むこと（その際に高校時代に使用した物理，化学の教科書・参考書等を見直すとよい）。（30 分）

復習：毎回の講義終了後に，自分のノートを読み直し，不完全と思われる部分があれば教科書等で補って整理する。（60 分）

5. 評価

学期末試験 100%

6. 教科書・参考書

教科書：「物理化学テキスト」葛谷 編 廣川書店

参考書：「薬学物理化学（第4版）」小野 編 廣川書店, 「薬学物理化学演習（第2版）」小野 編 廣川書店, 「アトキンス物理化学（第8版）上・下巻」P. W. Atkins 著 / 千原・稲葉 訳 東京化学同人, 「スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学Ⅰ. 物質の物理的性質」日本薬学会 編 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	エネルギーⅠ 「講義」	C1-(2)-②-1,3	系, 外界, 境界, 状態関数, 経路関数	小野 哲也
2	エネルギーⅡ 「講義」	C1-(2)-②-2	仕事, 熱, 熱力学第一法則	小野 哲也
3	エネルギーⅢ 「講義」	C1-(2)-②-5	定容熱容量, 定圧熱容量	小野 哲也
4	エネルギーⅣ 「講義」	C1-(2)-②-4,6	エンタルピー, 定圧過程, 定容過程	小野 哲也
5	エネルギーⅤ 「講義」	C1-(2)-②-7	化学変化に伴うエンタルピー変化	小野 哲也
6	エネルギーⅥ 「講義」	C1-(2)-②-7	化学変化に伴うエンタルピー変化	小野 哲也
7	自発的な変化Ⅰ 「講義」	C1-(2)-②-4 C1-(2)-③-1,2	可逆過程, 不可逆過程, エントロピー 熱力学第二法則, カルノーサイクル	柏木 良友
8	自発的な変化Ⅱ 「講義」	C1-(2)-③-3	物理変化, 化学変化に伴う標準エントロピー 変化, 熱力学第三法則	柏木 良友
9	自発的な変化Ⅲ 「講義」	C1-(2)-③-4,5	ギブズ自由エネルギー, 自発的な変化の方向	柏木 良友
10	化学平衡の原理Ⅰ 「講義」	C1-(2)-④-1	化学ポテンシャル	柏木 良友
11	化学平衡の原理Ⅱ 「講義」	C1-(2)-④-2,3	平衡定数, ルシャトリエの法則	柏木 良友
12	化学平衡の原理Ⅲ 「講義」	C1-(2)-④-4	ファントホッフ式, 共役反応	柏木 良友
13	定期試験			柏木 良友 小野 哲也

授業科目名	基礎科学演習 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1 単位
担当教員	教授：山岸丈洋 准教授：石山玄明, 和田重雄 助教：金原 淳		

1. 科目の概要

高校までの化学および化学 I の内容について演習形式で復習し，薬剤師になるために必要な化学の基礎学力を習得する。物質と溶液濃度の計算，有機化学の基礎を中心に学ぶ。

2. 一般目標

化学系薬学の学習に必要な基礎知識・技能を定着させる。

3. 行動目標

1. 気体，液体，固体のそれぞれの状態での物質を求められることができる。
2. 化学反応式に関連付けて物質を求められることができる。
3. 溶液の濃度を求められることができる。
4. 水溶液の pH を求められることができる。
5. 化学結合の性質を理解し，分類できる。
6. 有機化合物の構造式を正しく書くことができる。
7. 代表的な有機化合物を慣用名で記述することができる。
8. 基本的な有機反応の特徴を理解し，分類できる。
9. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。
10. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。

4. 準備学習

授業終了時に，次回の予告，予習の一例を説明するので，実施すること。演習終了後，演習問題を再度解き，自分のノートを読み直すと共に，化学の基礎的な原理を確認して復習すること。

5. 評価

授業終了時提出のプリント：40%， レポート：50% 授業態度：10%

6. 教科書・参考書

教科書：授業時間時にプリントを配布する。

参考書：授業時間中に随時紹介する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	化学の基本 1 「講義・演習」		物質量の計算, 単位の換算など	和田 重雄
2	化学の基本 2 「講義・演習」		化学反応計算 1	和田 重雄
3	化学の基本 3 「講義・演習」		化学反応計算 2	和田 重雄
4	化学の基本 4 「講義・演習」		化学反応計算 3	和田 重雄
5	化学の基本 5 「講義・演習」		化学反応計算 4	和田 重雄
6	化学の基本 6 「講義・演習」		計算問題を中心とした総合演習	和田 石山 金原 山岸
7	有機化合物の構造 「講義・演習」	C3-(1)-①-3	化学結合, ルイス構造, オクテット則	山岸 丈洋
8	有機化合物の構造 「講義・演習」	C3-(1)-①-4	有機化合物の性質と共鳴の関係	山岸 丈洋
9	有機化合物の構造 「講義・演習」		構造式の表示法	山岸 丈洋
10	有機化合物の構造 「講義・演習」	C3-(3)-①-1	極性共有結合, 官能基	石山 玄明
11	有機反応 「講義・演習」	C3-(1)-①-6	有機反応の基本的なとらえ方	石山 玄明
12	有機反応 「講義・演習」	C3-(1)-①-6,7,8	σ 結合の反応性, π 結合の反応性	石山 玄明
13	有機反応 「講義・演習」	C3-(2)-③-1,2,3	芳香族性と求電子置換反応	金原 淳
14	有機化合物の立体化学 「講義・演習」	C3-(1)-②-1	構造異性体と立体異性体	金原 淳
15	有機化合物の立体化学 「講義・演習」	C3-(1)-②-1,3	有機化合物分子模型の組み立て	金原 淳

授業科目名	基礎科学演習Ⅱ		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1.5 単位
担当教員	教授：大島光宏，野島浩史，小谷政晴，堀江 均，山下俊之，山本正雅， 柏木良友 准教授：和田重雄，鈴木康裕 講師：小野哲也 助教：大樂武範，横田 理		

1. 科目の概要

本演習（物理）では，数学，物理学で学んだ内容のうち，特に薬学を学ぶものにとって最も基本的な物理学系に関連する計算を中心に演習を行い，以後の講義の基礎として理解を深める。

本演習（生物）では，生命体の成り立ち，生命をミクロに理解する，および生体防御といった，薬学を学習する上での基本事項を演習を通じて身に付ける。

2. 一般目標

本演習（物理）では，薬学に必要な物理化学的現象を解析し，理論的に考察し計算が行えるようになることを目標とする。さらに日本薬局方に定められた各種医薬品を含む化学物質の品質管理ができるようになるために，計算により得られる測定値の取り扱いに関する基本事項を学ぶ。

本演習（生物）では，薬の生体への作用を理解するうえで必要不可欠な幅広い知識を得ることを目標とする。

3. 行動目標

1. 物理量の基本単位を説明できる。
2. 物理量にはスカラー量とベクトル量があることが説明できる。
4. 原子の構造とボーアモデルについて説明できる。
4. 化学結合と分子同士の相互作用を説明できる。
5. 酸・塩基の定義について説明でき，酸・塩基平衡に基づいてpHの計算ができる。
6. 光，音などが波であることを理解し，波の性質を表す物理量について説明できる。
7. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
8. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
9. 熱と仕事について説明できる。（以上物理）
10. ヒトの成り立ちについて説明できる。
11. 細胞について説明できる。
12. 生体の機能調節について説明できる。
13. 細胞を構成する分子について説明できる。
14. 遺伝子について説明できる。
15. タンパク質について説明できる。
16. 生体エネルギーについて説明できる。
17. 生理活性分子やシグナル分子について説明できる。
18. 遺伝子操作について説明できる。
19. 生体防御について説明できる。

4. 準備学習

予習：教科書の該当箇所をよく読んで予習して来ること。（30 分）

復習：毎回の講義終了後に，自分のノートを読み直し，不完全と思われる部分があれば教科書等で補って整理する。（30 分）

5. 評価

学期末試験 100%

6. 教科書・参考書

教科書：「パートナー分析化学Ⅰ改訂第 3 版」萩中 淳・山口政俊・千熊正彦編，南江堂，坂本正徳著「ポイント薬学計算 考え方から解き方まで（第 3 版）」廣川書店，「物理化学テキスト」葛谷 編 廣川書店，「トートラ人体解剖生理学」原書第 10 版，佐伯由香ほか編訳，丸善，「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」和田勝著，羊土社，「マッキー生化学」第 4 版，化学同人

参考書：楠 文代，洪澤庸一編，なるほど分析化学—数字となかよくする本，廣川書店，「薬学物理化学（第 4 版）」小野 編 廣川書店，「薬学物理化学演習（第 2 版）」小野 編 廣川書店，「アトキンス物理化学（第 8 版）上・下巻」P. W. Atkins 著 / 千原・稲葉 訳 東京化学同人，「スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学Ⅰ・物質の物理的性質」日本薬学会 編 東京化学同人，はじめての生化学，平澤栄次著，化学同人，コアカリマスター改訂第 5 版 3 生物系薬学，薬学ゼミナール

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	有効数字, 量と単位の変換 「講義・演習」	単位と量の表し方, 量の求め方について	和田 重雄
2	原子の構造・ボーアモデル 「講義・演習」	原子の構造とボーアモデルについて	和田 重雄
3	化学結合, 分子間相互作用 「演習」	C2-(2)-①, ② 化学結合と分子同士の相互作用	小野 哲也
4	pH計算 (1)「演習」	C2-(2)-①-1 酸・塩基平衡の基礎概念	鈴木 康裕 大樂 武範
5	pH計算 (2)「演習」	C2-(2)-①-2 酸・塩基水溶液のpH	鈴木 康裕 大樂 武範
6	波動「講義・演習」	波動について 波, 光, 視覚について	和田 重雄
7	気体の状態方程式 1「演習」	C1-(2)-⑤ 気体の法則, 理想気体について	柏木 良友
8	気体の状態方程式 2「演習」	C1-(2)-⑤ 実在気体の性質, 実在気体の状態方程式について	柏木 良友
9	気体の分子運動論「演習」	C1-(2)-①-2 気体の分子運動とエネルギーについて	柏木 良友
10	熱力学の基礎「演習」	C1-(2)-②-2 仕事と熱について	小野 哲也
11	物理系計算総合演習 「演習」	演習問題	物理担当 教員全員
12	定期試験		
13	ヒトの成り立ち「講義・演習」	C7-(1)-③～⑧ 神経系, 筋・骨格系, 皮膚, 循環器系, 呼吸器系	野島 浩史
14	ヒトの成り立ち「講義・演習」	C7-(1)-⑨～⑭ 消化器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系, 感覚器系, 血液・造血器系	野島 浩史
15	生命の基本単位としての細胞 「講義・演習」	C6-(1)-①～③ C6-(7)-①② 細胞と組織, 細胞膜, 細胞内小器官, 細胞の分裂と死, 細胞間コミュニケーション	堀江 均
16	生体の機能調節「講義・演習」	C7-(2)-①～⑨ 神経・筋, ホルモン, 循環・呼吸系, 体液, 消化吸收, 体温, の調節機構	山本 正雅
17	細胞を構成する分子 「講義・演習」	C6-(2)-①② 脂質, 糖質	大島 光宏
18	細胞を構成する分子 「講義・演習」	C6-(2)-③⑥ アミノ酸, ビタミン	大島 光宏
19	生命情報を担う遺伝子 「講義・演習」	C6-(2)-⑤ C6-(4)-①② ヌクレオチドと核酸, 遺伝情報を担う分子	横田 理
20	生命情報を担う遺伝子, 生命活動を担うタンパク質 「講義・演習」	C6-(4)-③～⑤ C6-(3)-① 転写と翻訳のメカニズム, 遺伝子の複製・変異・修復, 遺伝子多型 タンパク質の構造と機能	堀江 均
21	生命活動を担うタンパク質 生体エネルギー「講義・演習」	C6-(3)-②③ C6-(5)-①～⑤ 酵素, 酵素以外のタンパク質, タンパク質の取扱い, 栄養素の利用, ATPの産生, 飢餓状態と飽食状態	山本 正雅
22	生理活性分子とシグナル分子 「講義・演習」	C6-(6)-①～③ ホルモン, オータコイド, 神経伝達物質, サイトカイン・増殖因子・ケモカイン, 細胞内情報伝達	山本 正雅
23	遺伝子を操作する「講義・演習」	C6-(4)-⑥ 遺伝子操作の基本, 遺伝子のクローニング技術, 遺伝子機能の解析技術	小谷 政晴
24	身体を守る, 免疫系の破綻, 免疫系の応用「講義・演習」	C8-(1)-①～③ C8-(2)-①② 生体防御反応, 免疫を担当する組織・細胞, 分子レベルで見た免疫の仕組み, 免疫が関係する疾患, 免疫応答のコントロール, 予防接種	山下 俊之
25	定期試験		

授業科目名	薬学基礎実習		1 年
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	1.5 単位
担当教員	教授：柏木良友，野島浩史，堀江 均，山岸丈洋，大島光宏 准教授：石山玄明，鈴木康裕，和田重雄 講師：小野哲也 助教：吉田健太郎，大樂武範，金原 淳，横田 理		

1. 科目の概要

『物理系』 学問に好奇心を持つには、単に座学による知識の詰め込みだけでなく、その現象を自分の手で確かめることは有用な手段である。また、あらかじめ予測することが可能な結果もあり（pH 変化など）、自分自身の手で実験を行い確かめることにより知識の定着を図る。もし仮に予測と異なった結果が得られた場合には、知識を総動員して問題の解決を図る。本実習では、上級学年から行われる専門教育科目の各実習が円滑に行えるよう、実験の基本的なマナー、実験器具の使い方、試薬の調製法等の技術の修得ならびに簡単な実験を行う。

『化学系』『化学の実験』と『化学の理論（教科書で学んでいること）』は、車でいうなら両輪に相当するものです。そのうち、『化学の実験』は化学の本質を理解するために行うものであり、専門教育科目の化学系実習に留まらず研究室で実験をする時にも必要な手段となります。

この薬学基礎実習（化学系）では、大学の実習室において専門教育科目の化学系実習を安全かつスムーズに開始できるように、『化学の実験』をする上での安全面、ガラス器具の使い方、実習室機器の操作方法などの基本事項について、呈色反応や分液操作による有機化合物の分離を通して学びます。実習は実習時間内にただ操作を行うだけでなく、その日に行う実習についてあらかじめ調べ、目的を正しく理解し、実習の結果だけでなく途中経過もノートにしっかりと記載し、最終的にレポートを作成するということが一連の流れとなります。実習の予習をしてくることで、実習途中の段階で順調に進んでいるのか、あるいはうまく行っていないのかわかります。また、『失敗したかな?』と思ったときに、教員と相談して原因を考えることはとても大切です。教科書で学ぶ『化学の理論』を、実体験を通してレポートにまとめることで、確実に知識を深めることができます。

『生物系』 科学の歴史は可視化の歴史です。生命とは何か? を探るために、顕微鏡をはじめとした様々なものが発明され、生命科学の進歩に貢献してきました。この実習では、ニワトリの解剖を通して脊椎動物の基本的な構造を知り、GFP 遺伝子導入実験を通して知りたいものに目印を付ける方法を学び、イムノクロマト法を通して試料中にある目に見えない物質の検出原理を学びます。出来てしまったものを利用するのは簡単ですが、その陰には想像を超える物語が広がっています。「可視化」をキーワードにして、共に未知の世界に旅立つ準備をしましょう。

2. 一般目標

- ・本実習では、上級学年で行われる専門教育科目の各実習が円滑に行えるよう、実験マナー、実験器具の使い方、器具の洗浄法、有害廃液の処理法、試薬調製等の基本的な技術を修得する。
- ・実験データを効率よく整理し、グラフ等を作製することが重要であるため、本実習では薬学に必要な物理化学的現象を解析し、理論的に考察することで明快なレポートを書けることを目標とする。
- ・安全に『化学の実験』を行うために、実習室内での危険性を予測・認知する能力を修得する。
- ・化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。
- ・環境への影響を配慮し、実習の片付けを適切に行う能力を身につける。
- ・化学物質の定性分析に関する基本的事項を修得する。
- ・官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。

生物

- ・解剖によってわかることとその限界を知る。
- ・GFP 発見の物語と多岐に亘る応用例を知る。
- ・抗体発見の物語と抗原抗体反応の有用性を知る。

3. 行動目標

物理系

1. 実験に用いる器具を正しく使用できる。
2. pH 変化が理解できる。
3. 緩衝作用の原理を理解し、緩衝液の限界が判断できる。
4. 中和滴定が理解できる。

化学系

1. 化学系の研究室で発生件数が多いまたは重大な事故について説明できる。
2. 実習室内での危険性を察知することができる。
3. 実習で使う試薬の危険性や処理方法について (MSDS を) 調べることができる。
4. 揮発性の高い、臭いのきつい、あるいは毒性の強い溶媒や試薬については、ドラフト内で取り扱うことができる。
5. 実習室のガラス器具類を安全かつ適切に使用することができる。
6. 実習室内の機器類 (ロータリーエバポレーターなど) を安全に使用することができる。
7. 実習の後片付けの際、実験ゴミや廃液を適切に処理することができる。
8. 実験で使用したガラス器具類を、それぞれ適切に洗浄、乾燥、後片付けできる。
9. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。
10. 有機溶媒の物性の理解し適切に取り扱うことができる。
11. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。
12. 化合物の秤量、溶解、抽出、乾燥、ろ過、濃縮を実施できる。

生物系

1. 用具の適切な使用ができる。
2. スケッチができる。
3. 生体内に目印を付する方法が説明できる。
4. 無菌操作ができる。
5. 抗原と抗体が説明できる。

4. 準備学習

『物理系』 実習開始前に実習書 (プリント) を熟読し、実習内容を十分理解しておくこと。また、実習を通じて、理解度を確認するため、実習終了時にディスカッションを行う。

予習: 実習書を熟読し、参考書の該当箇所をよく読んで予習して来ること。(30 分)

復習: 毎回、実習にて得たデータとディスカッションを振り返り、その日のうちにレポートを作成する。(60 分)

『化学系』 実習で使用する試薬や反応について各自があらかじめ調べ、実習の目的をよく理解した上で自らが実験操作を行うことによって、理解が深まります。さらに、実験結果だけでなく実験経過のメモ、あるいは失敗したことも含めてレポートを作成することで、より理解が深まり記憶に定着させることができます。

『生物系』 実習書 (プリント) を予め読む。レポート執筆により、実習の目的から考察までを明確化する。

5. 評価

『物理系』 実習態度 (30%), 実習レポート (70%) により評価する。必要に応じて補講を行う。

『化学系』実習試験：８０％，実習態度，実習レポート２０％

『生物系』実習試験：５０％，実習態度，実習レポート５０％

最終成績は３系の合計を１００％に換算する

6. 教科書・参考書

教科書：実習書（プリント）『物理・生物系』

安全化学実験ガイド，NPO 法人 研究実験施設・環境安全教育研究会（REHSE）編，講談社『化学系』

参考書：「パートナー分析化学Ⅰ改訂第３版」萩中 淳・山口政俊・千熊正彦編，南江堂『物理系』

基礎科学実験 安全オリエンテーション，山口和也・山本仁 著，東京化学同人『化学系』

7. 授業内容と日程

	時限	項目「授業方法」（記号）	授業内容	担当者
1 日目	3～5	ガイダンス 「講義・実習」 C2-(1)-①	実習の進め方，レポートの作成方法，実験器具の使い方，器具の洗浄法，有害廃液の処理法，試薬調製	柏木・鈴木 小野・吉田 大樂
2 日目	3～5	pH 変化の観察 緩衝液 「実習」 C2-(3)-②-1 C2-(2)-①-2,3	塩酸と水酸化ナトリウムの混合による pH 変化の観察 水，酢酸およびリン酸二水素カリウム水溶液の緩衝作用	柏木・鈴木 小野・吉田 大樂
3 日目	3～5	中和滴定 「実習」 C2-(2)-①-2,3	酸塩基滴定	柏木・鈴木 小野・吉田 大樂
4 日目	3,4	実習ガイダンス 「講義」 安全講習 「演習」 D2-(1)-②-1	化学系実習の注意事項と全体説明 事故例の紹介と危険認知の確認	山岸・石山 金原 山岸・石山 金原
5 日目	3～5	定性反応 1 「実習」 C2-(3)-①-2 準備教育(5)-④ 定性反応 2 「実習」 C2-(3)-①-2 準備教育(5)-④ 定性反応 3 「実習」 C2-(3)-①-2 準備教育(5)-④	日本薬局方収載医薬品の呈色反応（１） （銀鏡反応など） 日本薬局方収載医薬品の呈色反応（２） （ヨードホルム反応など） 日本薬局方収載医薬品の呈色反応（３） （ニンヒドリン反応など）	山岸・石山 金原 山岸・石山 金原 山岸・石山 金原
6 日目	3～5	官能基の性質 1 「実習」 C3-(3)-①-2 準備教育(5)-④ 官能基の性質 2 「実習」 C3-(3)-①-2 準備教育(5)-④ 官能基の性質 3 「実習」 C3-(3)-①-2 準備教育(5)-④	有機溶媒の物性について （水と混和する溶媒，混和しない溶媒） 分液操作による有機化合物の分離 （水層の pH 変化による異なる物質の抽出） pH の変化による有機化合物の結晶化 （有機化合物が溶解した水層の pH 変化による析出）	山岸・石山 金原 山岸・石山 金原 山岸・石山 金原
7 日目	3～5	動物の解剖 「実習」 C7-(1)-③-3 C7-(1)-⑤-1	食用ニワトリの解剖	大島・堀江 野島・和田 横田
8 日目	3～5	組み換え DNA 「実習」 C6-(4)-①-1,2 C6-(4)-⑥-1	GFP 遺伝子導入実験	大島・堀江 野島・和田 横田

9 日目	3,4	免疫反応の利用 「実習」	C8-(2)-②-4	イムノクロマト法	大島・堀江 野島・和田 横田
------	-----	-----------------	------------	----------	----------------------

授業科目名	フレッシュマンウィーク		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	0.5 単位
担当教員	学年主任 他		

1. 科目の概要

入学式直後の一週間、大学生として生活していくために必要なことを多角的に学習する。大学などの高等教育と高校までの初等・中等教育との大きな違いの一つが、自主的かつ能動的に学習その他の活動に取り組む態度が求められることである。授業やサークル活動など学内での活動はもとより、地域での活動等においても自律的・活動的に行動する姿勢が成功につながる。この授業では、多様な活動を通じて自分が集団の中でどのような役割を果たすことができるかを考え、その役割を積極的に担おうとする態度の大切さを学ぶ。また、学生生活ではさまざまな不法行為や社会問題に遭遇する可能性も高まる。自らがそうした事案の加害者・被害者にならないために必要な知識を学ぶ。

2. 一般目標

大学生として安全かつ有意義な生活を送るために必要な知識・技能・態度がどのようなものかを知り、それらを習得しようとする意識を持つ。

3. 行動目標

- (1) 消費者問題、酒、煙草、ドラッグの危険性とそれらが原因となって生じる社会問題の現状と、危険を回避する対処法を説明できる。
- (2) 大学で学生生活を快適に送るために必要な見識や態度について説明できる。
- (3) 薬剤師の職能と社会的使命について説明できる。
- (4) 円滑な人間関係を構築するために自分が果たすべき役割を述べることができる。
- (5) 協同学習の有効性を理解し、他人と協力し合って学習を進めることができる。

4. 準備学習

予習は特に必要としない。復習として、講義で取り上げられた内容をノートに整理し、追加情報を検索・収集しておく。

5. 評価

活動への取り組み姿勢（教員の観察による評価）40%

講義の内容に関するレポート 60%

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	喫煙の有害性「講義」	喫煙が人体に及ぼす影響	学年主任 他
2	飲酒の影響「講義」	飲酒が人体に及ぼす影響と飲酒の関する社会問題	学年主任 他
3	薬物乱用の防止「講義」	薬物乱用の実態と危険に近づかない方策	学年主任 他
4	薬剤師の使命「講義」	薬剤師の職能と社会的使命	学年主任 他
5	オリエンテーションキャンプ (1) 「演習」	構成的グループエンカウンター	学年主任 他
6	オリエンテーションキャンプ (2) 「演習」	グループワーク (1)	学年主任 他
7	オリエンテーションキャンプ (3) 「演習」	グループワーク (2)	学年主任 他

授業科目名	フレッシュマンセミナー		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	0.5 単位
担当教員	講師：伊藤頼位 アドバイザー教員他		

1. 科目の概要

大学へ入学して間もない時期は、以前とは大きく異なる生活環境や学習環境に戸惑い、日々の生活や学習をどのように進めればよいか不安を感じることが少なくない。この授業ではそうした不安を早期に解消し、大学生としての生活と学習を円滑に開始できるよう、様々な活動を通して大学の規則や6年間の学習の内容、卒業後の進路の選択肢を知るとともに、効果的な学習の進め方、適切な学習計画と生活環境の作り方、教員や友人とのコミュニケーションの取り方についてクラスメートと協同して学ぶ。

2. 一般目標

大学生活を円滑に開始するため、大学の規則や6年間の学習の内容、卒業後の進路の選択肢を知る。また、効果的な学習の進め方、適切な学習計画と生活環境の作り方、教員や友人とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。

3. 行動目標

- (1) 薬学部のカリキュラムの概要を説明できる。
- (2) 整理された授業ノートを作成できる。
- (3) 適切に構成されたレポートを作成できる。
- (4) アドバイザー教員の研究領域について概要を説明できる。
- (5) 協同学習・ディスカッションにおいて自分が貢献できる事柄を理解する。
- (6) 協同学習・ディスカッションにおいて活動に積極的に参加しようとする。(態度)

4. 準備学習

特になし

5. 評価

80% 授業時の活動（リアクションフォームへの記入・ディスカッションでの発言や質問）

20% 提出課題

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	薬学部教員紹介（1） 「演習」	各教員の専門分野紹介と質疑応答	薬学部教員
2	薬学部教員紹介（2） 「演習」	各教員の専門分野紹介と質疑応答	薬学部教員
3	大学の6年間を知ろう 「講義」	薬学共用試験・薬剤師国家試験の概要 / 薬剤師の就職先 / 履修科目を整理する	佐藤 栄作 伊藤 頼位
4	アドバイザーゼミ 「演習」	アドバイザー教員とのゼミナール	伊藤 頼位 アドバイザー
5	アドバイザーゼミレポート 「講義」	アドバイザーゼミの報告書を作成し発表する	伊藤 頼位
6	効果的な学習方法 「演習」	講義の聞き方 / メモの取り方 / ノートの作り方 / 復習の方法	伊藤 頼位
7	フィッシュボウル 「SGD」	ディスカッションでの自分の役割を知る	伊藤 頼位
8	定期試験に備える 「SGD」	協同学習で試験準備をする	伊藤 頼位
9	時間管理を考える 「演習」	第1四半期（前1）の時間の使い方を振り返る / これからの時間管理計画を作成する	伊藤 頼位

授業科目名	情報科学講義		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	講師：木田雄一		

1. 科目の概要

社会の情報化が進展し、産業・経済・生活の構造が変化するのに伴って、コンピュータやインターネット、携帯情報端末を支える情報通信技術は、薬学領域を含めた、あらゆる分野における基盤技術として、ますます発展を続けている。このような情勢のなかで、情報システムの利用は、実務の効率的な遂行において不可欠となった。

情報システムは、その中心的な役割を担うコンピュータを構成するハードウェア技術とソフトウェア技術、互いに接続し連携するためのネットワーク技術など多岐に渡る技術の上に成り立っている。

また、誰もがスマートホンに代表されるインターネットに接続された情報端末を持ち、気軽に情報発信ができる現代は、逆に考えると、例えば学生であっても実社会と直結しており、その目を向けられる事をも意味する。従って、情報システムやインターネットの利用においては、情報倫理と情報セキュリティの知識が必須となる。

本講義では、情報システム、特にコンピュータと携帯情報端末を今後の学習や就職後の実務に効率的に利用できるようになるため、上述した技術と知識の基礎を学ぶ。

2. 一般目標

本講義では、情報システム、特にコンピュータと携帯情報端末を今後の学習や就職後の実務に効率的に利用できるようになるため、電子データの特徴、コンピュータの仕組みとハードウェア関連技術、ソフトウェア関連技術、ネットワーク関連技術の基礎知識、および、情報倫理と情報セキュリティの基礎知識の修得を目標とする。

3. 行動目標

- ・コンピュータを構成する基本的装置について概説できる。
- ・電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。
- ・無線 LAN を利用するための注意点について概説できる。
- ・インターネットの仕組みを概説できる。
- ・ソーシャルネットワークサービスの利用における留意点を説明できる。
- ・ネットワークセキュリティについて概説できる。
- ・情報倫理、情報セキュリティに関する情報を収集できる。
- ・著作権、肖像権、引用と転載の違いを説明できる。
- ・ソフトウェア使用上のルールとマナーを概説できる。
- ・コンピュータウイルスとその予防について概説できる。

4. 準備学習

予習：シラバスに従って講義を進めるので、その範囲の教科書を 30 分以上かけて熟読して臨むこと。

基本的な四則演算（加減乗除）ができる前提で講義を進める。数字や筆算に対するアレルギーを克服しておくこと。

復習：前回の授業内容を復習し、出された問題を解けるようにすること。

どうしても解けない場合は、その週の内に教員に質問に行き、そのままにしないことが重要である。

5. 評価

定期試験の成績（90%）、授業毎に行う小テスト（10%）で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：伊東俊彦 著「情報科学入門」ムイスリ出版株式会社

参考書：IT 技能演習の教科書を、参考書として利用する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	データと情報の表現 「講義」	データと情報の基礎、電子データの特徴	木田 雄一
2	コンピュータの仕組みと ハードウェア (1)「講義」	コンピュータの構成要素（演算装置、制御装置）	木田 雄一
3	コンピュータの仕組みと ハードウェア (2)「講義」	コンピュータの構成要素（主記憶装置、補助記憶装置、入力装置、出力装置）	木田 雄一
4	ソフトウェア 「講義」	ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの役割、プログラムとは、データベースの基礎	木田 雄一
5	ネットワーク 「講義」	ネットワークの種類、無線 LAN の種類と注意点、インターネットの仕組み	木田 雄一
6	情報セキュリティと情報倫理 (1)「講義」	情報システムのセキュリティ	木田 雄一
7	情報セキュリティと情報倫理 (2)「講義」	情報倫理、著作権・肖像権・引用	木田 雄一
8	定期試験		木田 雄一

授業科目名	IT 技能演習 I		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	講師：木田雄一		

1. 科目の概要

社会の情報化が高度に発展した現代において、情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うためには、情報機器の利用が必須となった。スマートホンに代表される携帯情報端末の利用が普及した現代においても、文書の作成や表計算など、多くの情報を入力する場面や高度な計算処理を行う場面では、大きな画面とキーボードそして高い計算能力のあるコンピュータの重要性は変わっていない。

これを受けて本授業では、オペレーティングシステムの基本操作、アカウントの管理、データファイルの管理、ワードプロセッサによる文書作成、化学構造式の描画を実際に行い、コンピュータの基本的な利用技術を身につける。

2. 一般目標

情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うための技能として、コンピュータの基本的な利用技術を習得する。

3. 行動目標

- ・オペレーティングシステムの基本的な操作ができる。
- ・アカウントとパスワードを適切に管理できる。
- ・電子データの特徴を知り、データファイルを適切に管理できる。
- ・学生用ポータルサイトと学習用ソフトウェアを活用できる。
- ・ワードプロセッサによる文書作成と印刷ができる。
- ・画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。
- ・化学構造式描画ソフトによる化学構造式の描画ができる。

4. 準備学習

予習：演習課題の範囲と補足資料を <http://stl.student-ohu.ac.jp/> に随時掲載するので、毎週、必ず見ておくこと。

演習終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を 30 分程度かけて読んでから臨むこと。

復習：キーボードでの入力の実験レポートや卒業論文の作成で必要となるので、練習ソフトで習熟しておくこと。

教科書の課題のうち演習で指定されなかったものも、後々役立つので完成させておくとよい。

5. 評価

演習課題の完成度（80%）、演習中の態度（20%）で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：佐藤憲一・川上準子 著「コ・メディカルのための情報リテラシー」（MS-Office2010 版）共立出版

参考書：情報科学講義の教科書を、参考書として利用する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オペレーティングシステムの基本操作「演習」	ログインと電源を切る方法, アカウントの管理, キーボードの練習	木田 雄一
2	学生用ポータルサイトと学習用ソフトの利用「演習」	学生用ポータルサイトの紹介, 学習用ソフトウェアの利用方法	木田 雄一
3	データファイルの管理「演習」	フォルダと階層構造, データファイルの管理	木田 雄一
4	ワープロソフトによる文書作成 (1)「演習」	日本語入力の方法, MS-Word によるファイルの開き方と保存方法, 簡単な文書の作成	木田 雄一
5	ワープロソフトによる文書作成 (2)「演習」	特殊文字の入力, さまざまな文字飾りの適用, 文のコピー・移動・削除	木田 雄一
6	ワープロソフトによる文書作成 (3)「演習」	表のある文書の作成	木田 雄一
7	ワープロソフトによる文書作成 (4)「演習」	既定の書式に基づいた文書の作成, 印刷プレビューと実際の印刷	木田 雄一
8	ワープロソフトによる文書作成 (5)「演習」	ワードアートとイラストのある文書の作成	木田 雄一
9	ワープロソフトによる文書作成 (6)「演習」	数式のある文書の作成	木田 雄一
10	ワープロソフトによる文書作成 (7)「演習」	段組みのある文書の作成	木田 雄一
11	ワープロソフトによる文書作成 (8)「演習」	複雑な文書の作成	木田 雄一
12	ワープロソフトによる文書作成 (9)「演習」	複雑な文書の作成	木田 雄一
13	ワープロソフトによる文書作成 (10)「演習」	複雑な文書の作成と印刷	木田 雄一
14	化学構造式の描画 (1)「演習」	画像ファイルの形式とその特徴 化学構造式描画ソフト ChemDraw の基本操作	木田 雄一
15	化学構造式の描画 (2)「演習」	各種の化学構造式の描画	木田 雄一

授業科目名	IT 技能演習Ⅱ		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	講師：木田雄一		

1. 科目の概要

社会の情報化が高度に発展した現代において、情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うためには、情報機器の利用が必須となった。スマートホンに代表される携帯情報端末の利用が普及した現代においても、文書の作成や表計算など、多くの情報を入力する場面や高度な計算処理を行う場面では、大きな画面とキーボードそして高い計算能力のあるコンピュータの重要性は変わっていない。

これを受けて本授業では、表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成、インターネットを利用した情報検索の課題を実際に行い、コンピュータの基本的な利用技術を身につける。

2. 一般目標

情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うための技能として、コンピュータの基本的な利用技術を習得する。

3. 行動目標

- ・表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成ができる。
- ・インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。
- ・検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。
- ・情報倫理、セキュリティーに関する情報を収集できる。
- ・マナーを守り電子メールを利用できる。

4. 準備学習

予習：演習課題の範囲と補足資料を <http://stl.student-ohu.ac.jp/> に随時掲載するので、毎週、必ず見ておくこと。

演習終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を30分程度かけて読んでから臨むこと。

復習：キーボードでの入力の実験レポートや卒業論文の作成で必要となるので、練習ソフトで習熟しておくこと。

教科書の課題のうち演習で指定されなかったものも、後々役立つので完成させておくといよい。

5. 評価

演習課題の完成度（80%）、演習中の態度（20%）で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：佐藤憲一・川上準子 著「コ・メディカルのための情報リテラシー」（MS-Office2010版）共立出版
参考書：情報科学講義の教科書を参考書として利用する。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	表計算の基本操作 (1) 「演習」	表計算の基本操作, 簡単な計算表の作成	木田 雄一
2	表計算の基本操作 (2) 「演習」	関数計算の利用	木田 雄一
3	表計算の基本操作 (3) 「演習」	表の編集, 書式の設定	木田 雄一
4	表計算の基本操作 (4) 「演習」	複雑な計算表の作成	木田 雄一
5	表計算ソフトでのグラフ作成 (1) 「演習」	グラフ作成の基本操作	木田 雄一
6	表計算ソフトでのグラフ作成 (2) 「演習」	グラフの編集	木田 雄一
7	表計算ソフトでのグラフ作成 (3) 「演習」	数式のグラフ化	木田 雄一
8	表計算ソフトでのグラフ作成 (4) 「演習」	様々な種類のグラフの作成	木田 雄一
9	表計算ソフトのデータベース機能 (1) 「演習」	Excel のデータベース機能の概要, 簡単なデータベースの作成	木田 雄一
10	表計算ソフトのデータベース機能 (2) 「演習」	各種の条件によるソート, フィルタによるデータの抽出	木田 雄一
11	表計算ソフトのデータベース機能 (3) 「演習」	クロス集計とピボットテーブル	木田 雄一
12	表計算ソフトのデータベース機能 (4) 「演習」	ゴールシークとソルバー	木田 雄一
13	インターネットを利用した情報検索 「演習」	インターネットの利用とセキュリティ インターネットを利用した文献検索	木田 雄一
14	オンラインでの医薬品情報検索 「演習」	インターネットでの医薬品情報検索 添付文書情報の検索	木田 雄一
15	電子メールの利用 「演習」	電子メールの送信, 受信, 転送	木田 雄一

授業科目名	日本語表現演習Ⅰ		1年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：佐藤亜実		

1. 科目の概要

日常生活では、他人に自分の意見や気持ちを伝えるために、メールやSNSなどのコミュニケーションツールが多く用いられている。一方で、大学生や社会人になると、自分の身近な人に対して手軽に文章を書くだけでなく、普段かかわりのない人や目上の方に対して丁寧に文章を書くことも必要になる。特に医療従事者には、相手の立場に合わせたわかりやすい文章を書き、情報や意見を正確に伝える能力が求められる。

本講義では、大学生や社会人に要請される文章表現能力を培うことを目指す。授業では、「書く」ための基礎的な知識を習得する講義と、その知識をもとに実践する演習を織り交ぜて行う。また、他の人が書いた文章を添削することを通じて、「読む」力を身に付けると同時に、読み手にとってわかりやすい文章とは何かということについても理解を深める。文章を書く際には正しい表記や言葉遣いも必要となるため、漢字や敬語などの基礎的な知識もあわせて確認する。

2. 一般目標

大学生・社会人に要請される文章表現能力とはどのようなものであるかを理解し、他者と良好な関係を持ちながら、自律的に円滑に課題をこなしていけるように、それぞれの目的に応じた文章表現能力を体得することを目標とする。

3. 行動目標

①手紙やEメール、論説文について、その文章作法を説明できる。②漢字や敬語を正しく書ける。③様々な問題のある文章例を素材にして、その中の不適切な表現、問題点を発見し、それを書き直すことができる。

4. 準備学習

授業者が配布するプリントを使用して講義を行う。講義前、あるいは講義後の課題として、講義のテーマに即した文章を作成し、次の授業までに提出してもらうことがある。また、漢字や語句等の小テストのための自習も必要である。

5. 評価

課題としての文章（レポート）や小テストを主たる評価の対象とし、授業中に行う作業（文章作成など）の平常点も加味して、最終的な評価とする。授業時の態度・小テスト（20%）、課題やグループ活動への取り組み、提出物（50%）、最終課題（30%）で評価する。筆記試験は行わない。レポートなどの未提出者は、履修を放棄したものとみなす。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（慶応義塾大学出版会）

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』（ひつじ書房）

橋本修・安部朋世・福島健伸編『大学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂）

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）

米田明美・蔵中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート』（風間書房）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	イントロダクション「演習」	なぜ文章作成が必要か 自己紹介をする	佐藤 亜実
2	大学でのノートの取り方 連絡メモの取り方「演習」	授業を再現できるノートをとる 内容を端的に述べるメモをとる	佐藤 亜実
3	レポートの書き方（1） 「演習」	レポートの種類を知る	佐藤 亜実
4	レポートの書き方（2） 「演習」	レポートの注意事項を知る	佐藤 亜実
5	レポートの書き方（3） 「演習」	レポートのテーマと構成を考える	佐藤 亜実
6	敬語の基礎 「演習」	敬語や語句の基本ルールをマスターする	佐藤 亜実
7	メールの書き方 「演習」	お知らせのメール，問い合わせのメール，お 願いのメールを書く	佐藤 亜実
8	手紙の書き方 「演習」	書式やマナーの基本をマスターする 手紙を書く	佐藤 亜実
9	様々な書類の書き方 「演習」	履歴書などの書き方を知る	佐藤 亜実
10	プレゼンテーションをする （1）「演習」	発表資料の作り方（1）	佐藤 亜実
11	プレゼンテーションをする （2）「演習」	発表資料の作り方（2）	佐藤 亜実
12	プレゼンテーションをする （3）「演習」	効果的なプレゼンテーションを行う（1）	佐藤 亜実
13	プレゼンテーションをする （4）「演習」	効果的なプレゼンテーションを行う（2）	佐藤 亜実
14	プレゼンテーションをする （5）「演習」	効果的なプレゼンテーションを行う（3）	佐藤 亜実
15	まとめ	講義の総括	佐藤 亜実

授業科目名	日本語表現演習Ⅱ		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	非常勤講師：佐藤亜実		

1. 科目の概要

大学生や社会人になると、自分の身近な人だけでなく、面識のない人にも自分の考えを伝える機会が増える。その際には、普段と同じ言葉遣いや態度で話すのではなく、相手に合わせた話し方を心がけることが大切である。特に医療関係の仕事では、情報や意見を相手に正確に伝えと同時に、相手の希望や要望を聞き出す能力も必要とされる。

本講義では、大学生や社会人に要請される日本語の表現能力を培うことを目指す。授業では、「書く」力を土台として「話す」ための基礎的な知識を習得し、それをもとに挨拶や自己紹介、発表、電話などの実践練習を行う。また、他の人の発表を聞き、それについての意見や質問を考えることで、「聞く」ために必要な能力も身に付ける。

2. 一般目標

大学生・社会人に要請される日本語表現能力とはどのようなものであるかを理解し、実践練習を通して、他者と良好な関係を持ちながらコミュニケーションを行うことができる能力を体得することを目標とする。

3. 行動目標

①言葉遣いやマナーに関する知識を説明できる。②テーマ発表や電話などの様々な題材について、資料の作成、プレゼンテーション、コミュニケーションを適切に行うことができる。③他人の発表を聴き、その内容に関して疑問や意見を持って質疑応答をする機会を設けることで、人と人との会話において不可欠な発想力を身につける。

4. 準備学習

授業者が配布するプリントを使用して講義を行う。講義のテーマに即した資料を作成し、各グループあるいは個人で発表をしてもらうことがあるため、授業前の準備が必要である。

5. 評価

課題である資料作成やプレゼンテーションを主たる評価の対象とし、授業中に行う作業（発表準備など）や質疑への参加などの平常点も加味して、最終的な評価とする。授業時の態度（20%）、課題やグループ活動への取り組み、提出物（40%）、発表・討議・最終課題（40%）で評価する。筆記試験は行わない。発表や発表準備への未参加者は、履修を放棄したものとみなす。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：齋藤孝『質問力』（ちくま文庫）

真田治子・野呂佳代子・長谷川守種編『大学生のための社会人入門トレーニング』（三省堂）

野呂幾久子・渡辺弥生・味木由佳編『看護系学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂）

橋本修・安部朋世・福島健伸編『大学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂）

御厨貴『「質問力」の教科書』（講談社）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	イントロダクション「演習」	なぜ「話す」「聞く」力が必要か 挨拶をする	佐藤 亜実
2	文献の調べ方「演習」	必要な文献を入手する	佐藤 亜実
3	図書館の使い方「演習」	図書館の使い方を知る	佐藤 亜実
4	電話の応対をする「演習」	電話をかける・受ける・アポをとる	佐藤 亜実
5	文章の読解「演習」	文章読解のポイントを学ぶ	佐藤 亜実
6	資料の読み取り「演習」	表・図・グラフから情報を抽出する	佐藤 亜実
7	口頭発表（１）「演習」	発表資料を作成する（１）	佐藤 亜実
8	口頭発表（２）「演習」	発表資料を作成する（２）	佐藤 亜実
9	口頭発表（３）「演習」	発表資料を作成する（３）	佐藤 亜実
10	討議（１）「SGD」	発表をもとにディスカッションをする（１）	佐藤 亜実
11	討議（２）「SGD」	発表をもとにディスカッションをする（２）	佐藤 亜実
12	討議（３）「SGD」	発表をもとにディスカッションをする（３）	佐藤 亜実
13	討議（４）「SGD」	発表をもとにディスカッションをする（４）	佐藤 亜実
14	討議（５）「SGD」	発表をもとにディスカッションをする（５）	佐藤 亜実
15	まとめ「演習」	講義の総括	佐藤 亜実

授業科目名	倫理学		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	非常勤講師：高橋恭寛		

1. 科目の概要

現代の社会を見渡せば、「企業倫理」、「政治倫理」、「企業倫理」など、あらゆる場面で「倫理」という言葉が登場する。医療従事者にとっても「医療倫理」のように、他人事ではない。しかし、この「〇〇倫理」という形で応用されるもととなる「倫理」とは、そもそも何なのかを理解する必要があるだろう。

倫理学とは、「正しいこと」や「良いこと」の「基準」について考える学問であるとされている。自らを振り返って考えたとき、自分の感情や行動は、何かの「基準」に拠っていることもあるのではないだろうか。集団や組織などの「個人」を超えた次元で浮かび出てくることもある。そして「他者」もまた同様に基準を持っているはずである。

この善し悪しの「基準」は一面的なものではない。時代や地域、集団などによって様々な理論がこれまでも生み出されてきた。当然、日本においても歴史的に「倫理」を巡る議論が交わされてきた。この講義では、古くから議論されてきた倫理学の基礎理論を学び、医療従事者として身に付けるべき生命、医療に関する「倫理」の基礎的知識を習得する。

2. 一般目標

医療に関わる倫理問題を考えるために必要な倫理学の基礎理論と、日本における展開について学ぶ。

3. 行動目標

- ①倫理学とはどのような学問なのか、その成立過程と課題について説明することができる。
- ②倫理学の基本的な理論（義務論、功利主義、自由主義、正義論、共同体主義）について説明することができる。
- ③古典的な倫理問題から応用倫理の問題まで自分で考えられるようになる。

4. 準備学習

授業は、講義形式であるが、本講義や次講義に関するトピックについて、簡単なコメント・次回までのミニレポートを課すことがある。この時に自分なりに考え、意見を書くように努めること。また日常生活やニュースなどから倫理的に問題となっている課題に対し関心を持つようにすること。

5. 評価

定期試験 50%，平常点 50%

6. 教科書・参考書

教科書：なし。随時プリントを配布する。

参考書：加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫，1997 年），中山元『正義論の名著』（ちくま新書，2011 年）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	はじめに 「講義」	ガイダンス。倫理学とは何か。「倫理」と「道徳」。	高橋 恭寛
2	倫理学概説 (1) 「講義」	日本における倫理学の成立	高橋 恭寛
3	倫理学概説 (2) 「講義」	日本における倫理学研究	高橋 恭寛
4	倫理学の理論 (1) 「講義」	義務論について	高橋 恭寛
5	倫理学の理論 (2) 「講義」	功利主義について	高橋 恭寛
6	倫理学の理論 (3) 「講義」	自由主義について	高橋 恭寛
7	倫理学の理論 (4) 「講義」	共同体主義・正義論について	高橋 恭寛
8	定期試験		高橋 恭寛

授業科目名	心理学の基礎		1 年
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	准教授（兼担）：車田 文雄		

1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ、多様性をそのまま引き受けざるを得ず、一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して、人間理解の特性を学習する。また薬学との摺り合わせを鑑み、臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し、自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

2. 一般目標

まず、心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために、心の探究の歴史を理解する。続いて、病む人の心理ならびにその援助法にあたり、医療従事者として配慮すべきことを考えるために臨床心理学を習得する。

3. 行動目標

- 1) 現代における心の問題を述べられる。
- 2) 心理学の基本的な立場を説明できる。
- 3) 臨床心理学および精神医学を述べられる。
- 4) 性格を分類できる。
- 5) 心の援助（事例読解）を実施できる。
- 6) 心の援助法を配慮できる。

4. 準備学習

予 習：新聞等から心理学に関わる情報を取得しておく。(30分)

復 習：講義内容の板書のカラー文字およびスライドにて強調された部分を復習しておくこと。(30分)

5. 評価

定期試験および追再試験結果で評価し、65点以上を合格とする。

6. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	学ぶ・覚えるところ 「講義」	学習のプロセス	車田 文雄
2	喜怒哀楽のころ 「講義」	感情, 葛藤ストレス	車田 文雄
3	その人らしさの心理 「講義」	パーソナリティ	車田 文雄
4	人と関わる心理 「講義」	対人認知	車田 文雄
5	人と集うころ 「講義」	集団の心理	車田 文雄
6	健康なころ 「講義」	メンタルヘルス	車田 文雄
7	カウンセリングのころ 「講義」	カウンセリングマインド	車田 文雄

授業科目名	薬学入門		1 年
授業区分	基礎教育科目（薬学基礎）	必修	1 単位
担当教員	教授：衛藤雅昭，井上忠夫 准教授：伊藤 鍛 非常勤講師：島貫英二， 斉藤美恵子		

1. 科目の概要

入門では、薬学について学ぶ意義と概要について解説する。薬剤師資格取得を目指して6年間にわたって学習を続ける学生諸君の勉学の動機付けを図る。

2. 一般目標

薬学生としてのモチベーションを高めるために、薬の専門家として身につけるべき基本的知識、技能、態度を修得する。

3. 行動目標

1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。3) 「薬とは何か」を概説できる。4) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。5) 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。6) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。7) 病院・開局薬剤師の業務を見聞し、その保健、福祉の重要性を知る。8) 生活習慣病の基礎を学び、その予防・健康管理について概説できる。9) 栄養学の基礎知識を説明できる。10) 医療と薬剤師の関わりや地域医療における薬剤師の役割を説明できる。11) 悪性腫瘍の現況と抗ガン剤について知る。

4. 準備学習

レポート課題を出すのでよく復習してほしい。なお、講義日程は担当者の都合により変更になることがあるので掲示に注意すること。

5. 評価

レポート 100% で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：配布資料を用いる。

参考書：鎌滝哲也 著「薬学へのいざない」東京化学同人

「これから薬学をはじめるあなたに」日本薬学会編

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	薬学への招待 「講義」	A-(1)-① ②	薬学の歴史的な流れと医療におけるその役割、薬とは何かを学ぶ。	衛藤 雅昭
2	薬学の歴史 薬の発見の歴史 (1) 「講義」	A-(1)-④	薬学の歴史および代表的な薬（インスリン、ペニシリン、アドレナリンなど）の発見の歴史を学ぶ。	衛藤 雅昭
3	薬学の歴史 薬の発見の歴史 (2) 「講義」	A-(1)-④	薬学の歴史および代表的な薬（インスリン、ペニシリン、アドレナリンなど）の発見の歴史を学ぶ。	衛藤 雅昭
4	病院薬剤師は何をしているのか 「講義」	A-(1)-② -2	病院薬剤師の業務を知る。	伊藤 鍛
5	保険薬局の今 「講義」	A-(1)-② -2	保険薬局薬剤師の業務内容を知る。	島貫 英二
6	悪性腫瘍と抗ガン剤 「講義」	E2-(7)-⑦ ⑧	我が国における悪性腫瘍の現況と抗ガン剤について学ぶ。	井上 忠夫
7	糖尿病とは 糖尿病と栄養学を学ぼう 「講義」	E1-(3)-1 E2-(5)-① -1 A-(4)	糖尿病を学習し、チーム医療の重要性、基礎的な栄養学を学ぶ。	斉藤美恵子

授業科目名	チーム医療学演習Ⅰ		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：早坂正孝，衛藤雅昭，小池勇一 准教授：伊藤 鍛 臨床系教員，基礎系教員（准教授以下）		

1. 科目の概要

薬剤師の任務は、薬剤師法第1条において「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と規定されている。この「国民の健康な生活の確保」を達成するためには、医師、歯科医師、看護師などの他の医療職との連携が重要であることは論をまたない。「チーム医療」とは、医療従事者が互いに対等に連携して治療やケアに当たることで患者中心の医療を実現しようとするものであり、近年、医療現場において、高い専門性を有する多職種の医療スタッフが、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完しあい、患者の状況に的確に対応したチーム医療を実践しており、医療における重要な要素の一つとなっている。

平成25年に改訂された薬学教育モデルカリキュラムにおいても、チーム医療が教育目標（GIO：general instructional objective）に取り入れられ、さらに、平成31年度から開始される薬学実務実習に関するガイドライン（平成27年：薬学実務実習に関する連絡協議会）に「チーム医療への参画」としてその修得が明記されている。

そこで、初めに、学生が公平に幅広く参加・実習体験できる教育を受けるために、薬物療法に関して「代表的な8疾患」について、本学の医師2名による講義および演習を行う。薬学臨床における代表的な8疾患とは、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経障害、免疫・アレルギー疾患、感染症である。次に、早期体験学習を通じて、患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、薬剤師業務の重要性について討議する。

なお、外部機関との調整を要する内容があるために、一部の項目について講義順の変更あるいは実施時期が前期、後期で交換される可能性があることを付記する。

2. 一般目標

将来、薬剤師として活躍するために必要な多職種連携を容易とするために、医療職としての基本的な知識や技能を学ぶ。

3. 行動目標

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。また、薬学臨床における代表的な疾患、すなわち、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経障害、免疫・アレルギー疾患、感染症についても、基礎的事柄を修得する。

【早期臨床体験】

1. 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づき、その重要性や課題を討議する。
3. 一次救急処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し シミュレータを用いて実施できる。

【臨床における心構え】

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。
2. 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。
3. 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。

【臨床実習の基礎】

1. 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。
2. 病院・薬局の薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。
3. 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列举し、その内容と関連を概説できる。
4. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列举し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。

4. 準備学習

前週までに必要な事前学習項目を掲示する。

5. 評価

授業に関するレポートと小テストの成績（80％）および授業に対する取り組み態度（20％）から総合的に評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：配付資料を用いる。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」（記号）		授業内容	担当者
1	ガイダンス	F(4)	本演習の意義と概要を説明する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
2	チーム医療とは「講義」	F(4)	チーム医療の意義と概要を説明する。	伊藤 鍛
3	医療と地域をつなぐこれからの薬剤師像「講義」	F(4)	チーム医療に関する薬剤師の DVD を聴講する。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
4	医療と地域をつなぐこれからの薬剤師像「SGD」	F(4)	チーム医療に関する薬剤師の DVD から演習を行う。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
5	代表的な 8 疾患を理解する (1)「講義」	F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
6	代表的な 8 疾患を理解する (1)「SGD」	F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を演習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
7	代表的な 8 疾患を理解する (2)「講義」	F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
8	代表的な 8 疾患を理解する (2)「SGD」	F(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を演習する。	衛藤 雅昭 小池 勇一
9	体験学習・病院 (1)「体験」	F(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
10	体験学習・病院 (2)「体験」	F(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
11	体験学習・病院 (3)「体験」	F(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
12	体験学習・薬局 (1)「体験」	F(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
13	体験学習・薬局 (2)「体験」	F(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
14	体験学習・薬局 (3)「体験」	F(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
15	病院・保険薬局体験学習まとめ「SGD」	F(1)	病院・保険薬局で得たものをまとめて発表する。	早坂 正孝 伊藤 鍛

授業科目名	チーム医療学演習Ⅱ		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：早坂正孝，衛藤雅昭，小池勇一，押尾茂，瀬川洋（兼任） 准教授：伊藤 鍛，臨床系教員，基礎系教員（准教授以下）， 非常勤講師：斉藤美恵子		

1. 科目の概要

チーム医療学演習Ⅰに引き続き，チーム医療学演習Ⅱを開講する。科目の概要についてはチーム医療学演習Ⅰを参照されたい。

奥羽大学では，歯学部と薬学部という2業種の医療従事者を養成する大学であるため，一部の授業に，2学部連携した講義・演習・SGD等を取り入れ，医療人としての心構えや態度を習得する機会を設けている。その一環として，本演習の初めに，両学部生に薬害被害者の話を聞く機会を設け，医療の基本理念を学ぶと共に，薬害の原因や社会的影響について考える。次に，チーム医療に直結している内容（例えばNSTや感染対策チーム）の各論ごとに，講義・演習を行い，チーム医療を取り巻く医療環境についても学ぶ。さらに，不自由体験を通じて，患者の心理を思い図れる動機づけを行う。

なお，外部機関との調整を要する内容があるために，一部の項目について講義順の変更あるいは実施時期が前期，後期で交換される可能性があることを付記する。

2. 一般目標

将来，薬剤師として活躍するために必要な多職種連携を容易とするために，医療職としての基本的な知識や技能を学ぶ。

3. 行動目標

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。2. 常に患者・生活者の視点に立ち，医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。3. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。4. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。5. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について，自らの考えを述べる。6. 生と死を通して，生きる意味や役割について，自らの考えを述べる。7. 一人の人間として，自分が生きている意味や役割を問い直し，自らの考えを述べる。8. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について，自らの言葉で説明する。9. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して，薬剤師が果たすべき役割を提案する。10. 健康管理・疾病予防，セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。11. 薬物乱用防止，自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。12. 保健，医療，福祉，介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。13. 多職種連携協働に関わる薬剤師，各職種及び行政の役割について説明できる。14. チーム医療に関わる薬剤師，各職種，患者・家族の役割について説明できる。

4. 準備学習

前週までに必要な事前学習項目を掲示する。

5. 評価

授業に関するレポートと小テストの成績（80％）および授業に対する取り組み態度（20％）から総合的に評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：配付資料を用いる。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	ガイダンス	F(4)	本演習の意義と概要を説明する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
2	栄養サポートチーム (NST)「講義・演習」	F(4)	NST に関する講義と演習を行う。	早坂 正孝
3	薬害と社会「講義」	F(5)	薬害被害者の話を聞き、薬害の原因・健康被害・社会的影響を考える。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
4	薬害と社会「SGD」	F(5)	薬害被害者の話から薬害の原因・健康被害・社会的影響について演習を行う。	衛藤 雅昭 早坂 正孝 伊藤 鍛
5	認知症介護補助者講習 「講義」	F(5)	高齢化社会の中での認知症について、講義を聞き今後の認知症を支える介護や補助方法を考える。	押尾 茂
6	認知症介護補助者講習 「演習」	F(5)	認知症・介護における様々な問題点についてその解決方法について演習を行う。	押尾 茂
7	原発被害と社会「講義」	F(5)	福島第一原発事故に被災したいわき市の現実を考える。	瀬川 洋
8	原発被害と社会「SGD」	F(5)	福島第一原発事故から放射能被害被害・社会的影響について演習を行う。	瀬川 洋
9	糖尿病におけるチーム医療 の実際「講義・演習」	F(4)	糖尿病におけるチーム医療の講義と演習を行う。	齋藤美恵子 衛藤 雅昭
10	感染制御チーム (ICT) 「講義・演習」	F(4)	ICT に関する講義と演習を行う。	中村 郁子
11	障がい疑似体験 (不自由体験) 「実習」	F(1)	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて、障がい者理解につなげる。	早坂 正孝 伊藤 鍛
12	障がい疑似体験 (不自由体験) 「実習」	F(1)	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて、障がい者理解につなげる。	早坂 正孝 伊藤 鍛
13	障がい疑似体験 (不自由体験) 「実習」	F(1)	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて、障がい者理解につなげる。	早坂 正孝 伊藤 鍛
14	体験学習 (1) 介護施設等 「体験」	F(1)	社会福祉施設における介護等を体験する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
15	体験学習 (2) 介護施設等 「体験」	F(1)	社会福祉施設における介護等を体験する。	早坂 正孝 伊藤 鍛
16	体験学習 (3) 介護施設等 「体験」	F(1)	社会福祉施設における介護等を体験する。	早坂 正孝 伊藤 鍛

授業科目名	健康科学入門		1 年
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1 単位
担当教員	教授：押尾 茂		

1. 科目の概要

健康や医療に関する情報は世の中に溢れていますそして、それらの情報の信頼性には大きな違いがあることは何となくおわかりでしょう。あなたは、信頼性を判断をどこにおいていますか。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスコミに取り上げられてものは信頼できますか。本講座では、医療人である前に、市民の一人として身に付けておきたい情報リテラシー（情報活用能力）を学びます。

2. 一般目標

市民としての基本的な素養として、健康や医療に関する情報を適確に判断することができる健康に関するリテラシーを身に付ける。

3. 行動目標

1) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。2) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。3) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。4) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。5) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。6) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。7) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。8) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明できる。9) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。10) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。11) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。12) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。13) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。14) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。15) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。16) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。17) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。18) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解している。19) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。20) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。21) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。

4. 準備学習

初回は掲示により、2回目以降は講義時間内に準備学習の内容について指示する。

5. 評価

毎回の講義終了時（または終了後）に講義に関するレポート等の提出を求め、その内容をもとにして評価する（100%）。

6. 教科書・参考書

教科書：なし（毎回、講義資料を配付します）

参考書：「医学的根拠とは何か」津田敏秀著 岩波新書 岩波書店、「予防接種は「効く」のか？ワクチン嫌いを考える」岩田健太郎著 光文社新書 光文社

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	健康科学入門 (1) 講義	A-(5)-① -2,3,5	健康情報に対するリテラシー	押尾 茂
2	健康科学入門 (2) 講義	A-(1)-④-2	プラセボ効果と薬効	押尾 茂
3	健康科学入門 (3) 講義	A-(5)-① -2,3,5	健康科学を理解するための科学的考え方とは	押尾 茂
4	健康科学入門 (4) 講義	D1-(1)-③ -1～4	健康科学を理解するための疫学的考え方とは	押尾 茂
5	健康科学入門 (5) 講義	A-(2)-① -1,2,4,②1,～ 3,③1～4,④ 1,2	生命倫理と研究倫理	押尾 茂
6	健康科学入門 (6) 講義	A-(5)-① -2,3,5,②1	薬剤師として必要な科学的思考法とは	押尾 茂
7	健康科学入門 (7) 講義	B-(4)-②-2	公務員薬剤師は公衆衛生を实践する職業である	押尾 茂

授業科目名	生化学 I		1 年
授業区分	専門教育科目（薬学）	必修	1 単位
担当教員	教授：大島光宏		

1. 科目の概要

生命システムを理解するために必要な、最初の科目のひとつである。ダーウィンが予測したように、全ての生物は共通の祖先から進化したと考えられており、生命の最小単位といわれる「細胞」の構造や機能は、微生物から高等動物まで驚くほど似通っている。本講義では、生命システムを構築するために最低限必要な、細胞を構成する物質、すなわちタンパク質、糖質、脂質、核酸などについて、その構造と機能を理解する。さらに、生命システムが成り立つために不可欠である、タンパク質の立体構造認識能力についても理解する。

2. 一般目標

細胞を構成している物質を細かく分けていくと、タンパク質、糖質、脂質、核酸などになる。しかしながら、これらの物質を混ぜたスープに生命は宿らない。これらの物質の構造と機能を学ぶとともに、混ぜただけでは生命とならない理由を皆で考え、さらに生命がなぜタンパク質を選んだかを考えることが、本講義の目標である。また、還元主義と複雑系も併せて理解して欲しい。

3. 行動目標

- ・生命システム概念、すなわち「動的平衡」とは何かを説明できる。
- ・生体を構成する物質の構造と機能を説明できる。
- ・タンパク質の立体構造認識能力について説明できる。
- ・生命現象に関して、ほとんど理解が進んでいない理由を説明できる。

4. 準備学習

自分で物事を考える習慣を身に付けておくこと。答えをすぐに求めないこと。

5. 評価

定期試験 90%, 提出物（コメントシート）10% で評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：マッキー著 市川厚監修「マッキー生化学」第4版 化学同人

参考書：平澤栄次著「はじめての生化学」化学同人、ほか多数。授業で紹介します。

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	序論 生命とは何か「講義」 C6-(1)-①, ②, ③	生命とは何か, 生物界, 生命の進化, 生体分子, 生細胞は化学工場か, システム生物学	大島 光宏
2	細胞「講義」 C6-(1)-①, ②, ③	基本概念, 原核細胞の構造, 真核細胞の構造	大島 光宏
3	糖質1「講義」 C6-(2)-②-1	単糖, 二糖,	大島 光宏
4	糖質2「講義」 C6-(2)-②-2	多糖, 複合糖質	大島 光宏
5	脂質と膜1「講義」 C6-(2)-①-1	脂質の分類	大島 光宏
6	脂質と膜2「講義」 C6-(2)-①-1	膜	大島 光宏
7	アミノ酸・ペプチド・タンパク質1「講義」 C6-(2)-③-1	アミノ酸, ペプチド	大島 光宏
8	アミノ酸・ペプチド・タンパク質2「講義」 C6-(2)-④-1	タンパク質	大島 光宏
9	アミノ酸・ペプチド・タンパク質3「講義」 C6-(2)-④-1	タンパク質の立体構造認識能力	大島 光宏
10	核酸「講義」 C6-(2)-⑤-1	ヌクレオチド, DNA, RNA	大島 光宏
11	ビタミン「講義」 C6-(2)-⑥-1	ビタミンの構造と機能	大島 光宏
12	水・無機質「講義」 C6-(2)-⑦-1	水, 生体に含まれる無機質の種類と機能	大島 光宏
13	定期試験		大島 光宏

授業科目名	機能形態学Ⅰ		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：野島浩史		

1. 科目の概要

機能形態学は、ヒトの身体を理解するための生理、解剖・組織学であり、正常な生命体の組織・構造と機能、さらには、個々の器官を構成する細胞の機能について学ぶ科目である。正常な身体の働きを理解することは、異常（病態）を理解することにつながる。したがって、本科目は薬理・病態系などの医療系科目を学ぶための基礎科目として位置づけられる。

2. 一般目標

生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能に関する基本的な知識を修得する。

3. 行動目標

- 1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態および体内での位置およびを説明できる。
- 2) 中枢神経系、体性神経系、自律神経系の構成と機能を説明できる。
- 3) 主な骨と関節、および主な骨格筋の名称を挙げ、位置を説明できる。
- 4) 皮膚の構成と機能を説明できる。
- 5) 心臓、血管系、リンパ系の構造と機能を説明できる。
- 6) 肺、気管支の構造と機能を説明できる。
- 7) 消化管（口腔、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能を説明できる。
- 8) 消化器付属器官である肝臓、膵臓、胆嚢の構造と機能を説明できる。
- 9) 腎臓、膀胱、精巣、卵巣、子宮の構造と機能を説明できる。
- 10) 性周期の調節機構を説明できる。
- 11) 脳下垂体、甲状腺、副腎、眼、耳、鼻の構造と機能を説明できる。
- 12) 骨髄、脾臓、胸腺の構造と機能を説明できる。
- 13) 血球の構造と機能を説明できる。

4. 準備学習

予習：前期に開講された生物学ⅠとⅡの復習をしっかりと行い、教科書（トートラの人体解剖生理学）を一読してから、初回の授業に出席する。第1回目の授業の際に、次回以降の講義プリントを配付するので、必ず予習（30分）をしてきたうえで授業に臨む（30分）。

復習：この授業では、2回目以降から毎回確認テスト（国家試験の過去問を含む）を実施するが、これらは宿題として配付するので、教科書と講義プリントを見直して知識を定着させるように努める。

5. 評価

定期試験の成績のみで評価し、判定する。

6. 教科書・参考書

教科書：トートラ人体解剖生理学 原書10版 佐伯由香ほか編訳 丸善、およびプリント

参考書：スタンダード薬学シリーズⅡの4「生物系薬学Ⅱ－人体の成り立ちと生体機能の調節」 日本薬学会編 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	器官系概論 概要－1「講義」	C7-(1)-③-1 人体を構成する器官，器官系の名称，形態，体内での位置および機能	野島 浩史
2	神経系 中枢神経系「講義」	C7-(1)-④-1 中枢神経系の構成と機能	野島 浩史
3	神経系 末梢神経系「講義」	C7-(1)-④-2 末梢神経系の構成と機能	野島 浩史
4	骨格系・筋肉系，皮膚 「講義」	C7-(1)-⑤-1,2,⑥-1 骨・筋肉，皮膚の構造と機能	野島 浩史
5	循環器系 心臓「講義」	C7-(1)-⑦-1 心臓の構造と機能	野島 浩史
6	循環器系 血管とリンパ系「講義」	C7-(1)-⑦-2,3 血管系とリンパ系の構造と機能	野島 浩史
7	呼吸器系「講義」	C7-(1)-⑧-1 肺，気管支の構造と機能	野島 浩史
8	消化器系 消化管「講義」	C7-(1)-⑨-1 食道，胃，小腸，大腸の構造と機能	野島 浩史
9	消化器系 消化器付属器官「講義」	C7-(1)-⑨-2 肝臓，膵臓，胆のうの構造と機能	野島 浩史
10	泌尿器系と生殖器系「講義」	C7-(1)-⑩-1,⑪-1 C7-(2)-⑩-1 腎臓，尿管，膀胱および生殖器の構造と機能 性周期の調節	野島 浩史
11	内分泌系「講義」	C7-(1)-⑫-1 内分泌器官の構造と分泌されるホルモンの作用	野島 浩史
12	感覚器系，血液・造血器系 「講義」	C7-(1)-⑬-1,⑭-1 眼，耳，鼻および血液・造血器系の構造と機能	野島 浩史
13	定期試験		野島 浩史

授業科目名	有機化学 I		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：山岸丈洋 助教：金原 淳		

1. 科目の概要

有機化学を学ぶ基礎として有機化合物の性質を概説するとともに各論としてアルカン，シクロアルカンの命名法・性質について講義する。また，酸・塩基の概念と反応，分子の三次元構造（立体化学），化学反応における反応機構について理解する。

2. 一般目標

有機化合物の構造とその性質を理解するために，化学結合の種類と形成される化学構造の性質について学ぶ。また，化合物の三次元構造を理解するために，位置異性，立体異性，光学異性などの異性体をはじめ，立体配座を含めて立体化学の基礎を修得する。さらに，反応の基礎を把握するために，酸・塩基の概念と求核置換・脱離反応について理解を深め，医薬品類の化学的性質を理解する基礎を養う。

3. 行動目標

アルカン，シクロアルカンの構造式を正しく書け，命名することができる。有機化合物の構造式から化合物の性質と三次元構造を理解できる。また，ハロゲン化アルキルの求核置換・脱離反応における反応機構が理解でき，生成物を予測できる。

4. 準備学習

講義終了の際に，次回の内容を案内するので，その範囲の教科書を熟読して臨むこと（15 分）。
教科書，ノート，課題を用いてよく復習すること（45 分）。

5. 評価

学期末試験により評価する（100％）。

6. 教科書・参考書

教科書：「ソロモンの新有機化学（上）（第 11 版）」廣川書店，「基礎有機化学問題集」廣川書店，「分子模型 BAS-1 基本 A セット」モル・タロウ

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	炭素化合物と化学結合 「講義」	C1-(1)-①-1,2,3 メタンの構造: sp^3 混成 エテンの構造: sp^2 混成, エチンの構造: sp 混成	山岸 丈洋
2	炭素化合物と化学結合 「講義」	C3-(1)-①-2 分子の形: 原子価殻電子対反発モデル 構造式の表示法	山岸 丈洋
3	代表的な炭素化合物 「講義」	C3-(1)-①-2 C3-(2)-①-1 炭素 - 炭素共有結合 アルカン, アルケン, アルキン, 芳香族化合物	山岸 丈洋
4	代表的な炭素化合物 「講義」	C3-(3)-①-1 極性共有結合, 官能基, 物理的性質と分子構造	山岸 丈洋
5	有機化学反応序論: 酸と塩基 「講義」	C3-(1)-①-5,9 C3-(3)-⑦-1 反応とその機構, 酸 - 塩基反応, 酸と塩基の強さ 構造と酸性度の関係	山岸 丈洋
6	有機化学反応序論: 酸と塩基 「講義」	C3-(1)-①-5,9 C3-(3)-⑦-2 有機化合物の塩基としての役割 有機反応の機構	山岸 丈洋
7	アルカン: 命名法と配座解析 「講義」	C3-(1)-①-1,-②-8 C3-(2)-①-1,2 アルカンなどの IUPAC 命名法 アルカン, シクロアルカンの立体化学と配座解析	山岸 丈洋
8	アルカン: 命名法と配座解析 「講義」	C3-(2)-①-3,4,5 シクロアルカンの相対的安定性 二置換シクロヘキサンの立体配座	山岸 丈洋
9	立体化学: キラル分子 「講義」	C3-(1)-②-1,2,5 エナンチオマーとキラル分子 エナンチオマー命名法: (R-S) 規則	金原 淳
10	立体化学: キラル分子 「講義」	C3-(1)-②-3,4,7 キラル中心を 2 個以上もつ分子 環式化合物の立体異性	金原 淳
11	イオン反応: 求核置換反応 I 「講義」	C3-(3)-②-1,2 求核置換反応, 求核試薬, 脱離基	金原 淳
12	イオン反応: 求核置換反応 II 「講義」	C3-(1)-①-6,7,8,9 C3-(3)-②-1,2 SN2 反応と SN1 反応の機構	金原 淳
13	定期試験		山岸 丈洋 金原 淳

授業科目名	基礎分析化学		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	准教授：鈴木康裕 助教：大樂武範		

1. 科目の概要

「分析化学」とは、何が（定性）、どれだけ（定量）、どのような状態（状態）で存在しているかを明らかにする学問である。薬学において、医薬品を含む化学物質の定量分析法は日本薬局方の一般試験法、TDM（血中薬物濃度測定）をはじめ生化学、薬理学、薬物動態学など様々な分野で使用されている。本講義では、化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、物質の定量に関する基本的事項を修得することを目的とする。また、水溶液中での物質の性質を理解するために、各種の化学平衡に関する基本的知識を修得し、分析法バリデーション等定量の基礎を学ぶと共に、各種化学平衡を利用した容量分析法についても学ぶ。なお、2年次の実習において、技能として学ぶ。

2. 一般目標

日本薬局方に定められた各種医薬品を含む化学物質の品質管理における定量法を修得することを目的とする。主成分を正確な定量分析できるようになるために、物理化学的分析法の基準ともなる各種化学平衡を利用した化学的分析法の原理、操作法および応用例を学ぶ。また、化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を学ぶ。

3. 行動目標

- 1) 薬学分野における分析化学の意義および物質の基礎概念と分析化学との関連を説明できる。
- 2) 分析に用いる器具を正しく使用できる。
- 3) 測定値を適切に取り扱うことができる。
- 4) 分析法のバリデーションについて説明できる。
- 5) 化学平衡に基づいて各種溶液中での化学種の濃度を計算できる。
- 6) 酸・塩基の定義、pH 測定法や pH 緩衝液について説明でき、計算ができる。
- 7) 各種化学平衡を酸・塩基、沈殿、錯体・キレート生成、酸化還元反応、分配から説明できる。
- 8) 各種化学平衡に基づく容量分析法の原理、操作法および応用例が説明できる。
- 9) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析および重量分析法を列挙し、その内容を説明できる。

4. 準備学習

本講義では、薬品分析に必要な定性および定量分析を科学的に理解するために、酸・塩基平衡を中心とした化学平衡をもとに、中和、非水、キレート、沈殿、酸化還元滴定に関する基本的知識を修得することを一般目標としている。講義は、教科書を中心に板書とパワーポイントによって進める。したがって、講義内容をよく聞いて、ノートをとること。また、講義開始後には、講義内容を予習・復習させる目的で、小テストを課す。

予習：掲示システムなどで事前に小テスト問題を掲示するので、教科書の該当箇所をよく読んで予習して来ること。（60 分）

復習：毎回の講義終了後に、自分のノートを読み直し、不完全と思われる部分があれば教科書等で補って整理する。（45 分）

5. 評価

単位認定試験は、担当教官がそれぞれ行い、教科書および授業で行った範囲から出題する。適語選択・補充、および記述形式として実施する。成績評価は、単位認定試験の結果を重視する（100%）。必要に応じて小テストおよび授業態度などを加算対象とする。

6. 教科書・参考書

教科書：「パートナー分析化学I改訂第3版」萩中 淳・山口政俊・千熊正彦編，南江堂

坂本正徳著「ポイント薬学計算 考え方から解き方まで（第3版）」廣川書店

参考書：「第17改正日本薬局方解説書」廣川書店，日本薬学会編，スタンダード薬学シリーズ2 物理系薬学 II. 化学物質の分析第3版 東京化学同人，楠 文代，洪澤庸一編，なるほど分析化学—数字となかよくする本，廣川書店

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	序論「講義」	C2-(1)-①	①分析科学とは，②分析方法の分類，③ 試薬と水，④分析用器具の材質，⑤濃度の表示 ⑥容量分析総論	大樂 鈴木
2	酸・塩基の電離平衡 (1)「講義」	C2-(2)-①-1	①酸・塩基平衡の基礎概念	大樂 鈴木
3	酸・塩基の電離平衡 (2)「講義」	C2-(2)-①-2	①酸・塩基水溶液の pH	大樂 鈴木
4	酸・塩基の電離平衡 (3)「講義」	C2-(2)-①-4, ②-4	①緩衝作用，②分子形とイオン形の存在比， ③分配平衡	大樂 鈴木
5	中和滴定 (1)「講義」	C2-(3)-②-1	①中和滴定とは，②酸・塩基平衡と中和滴定， ③酸・塩基指示薬，④中和滴定曲線，⑤多塩基酸の滴定曲線	大樂 鈴木
6	中和滴定 (2)「講義」	C2-(3)-②-1	①加水分解する塩の滴定（追い出し滴定）， ②中和滴定各論，③電気的終点検出法	大樂 鈴木
7	定量分析総論「講義」	C2-(1)-①-2, 3, (3)-②-5, 7	①定量分析とは，②定量分析の種類，③ 分析データの取り扱い，④分析法バリデーション⑤重量分析法⑥化学平衡	鈴木 大樂
8	非水滴定「講義」	C2-(3)-②-1	①非水滴定，②カールフィッシャー法による水分測定法	鈴木 大樂
9	キレート滴定「講義」	C2-(2)-②-1, (3)-②-2	①金属錯体とは，②キレート滴定	鈴木 大樂
10	沈殿滴定「講義」	C2-(2)-②-2, (3)-②-3	①沈殿の生成と溶解，②沈殿滴定，③酸素フラスコ燃焼法によるハロゲン，イオウの定量	鈴木 大樂
11	酸化還元滴定 (1)「講義」	C2-(2)-②-3, (3)-②-4	①酸化還元反応，②電極電位，③過マンガン酸滴定	鈴木 大樂
12	酸化還元滴定 (2)「講義」	C2-(3)-②-4	①ヨウ素滴定，②ヨウ素酸塩滴定，③ジアゾ滴定	鈴木 大樂
13	定期試験			鈴木 大樂

授業科目名	物理化学 I		1 年
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：柏木良友 講師：小野哲也 助教：大樂武範		

1. 科目の概要

物理化学は数少ない法則をもとに、自然現象を体系的に捉えようとする学問である。自然科学的な考え方の基礎であり、「科学的」という場合は物理化学を抜きに語れない。ここでは、物理学で学んだことをもとにして原子・分子の構造と、分子間相互作用などの物理化学的性質の発現に関する基礎について学ぶ。

2. 一般目標

物質を構成する原子・分子の構造に関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標

1. ファンデルワールス力について説明できる。
2. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。
3. 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。
4. 分散力について例を挙げて説明できる。
5. 水素結合について例を挙げて説明できる。
6. 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。
7. 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。
8. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。
9. 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。
10. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
11. 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。
12. 光の散乱および干渉について説明できる。
13. 結晶構造と回折現象について概説できる。
14. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
15. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
16. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。
17. 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。
18. 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。

4. 準備学習

予習：講義終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと（その際に高校時代に使用した物理、化学の教科書・参考書等を見直すとよい）。（30 分）

復習：毎回の講義終了後に、自分のノートを読み直し、不完全と思われる部分があれば教科書等で補って整理する。（60 分）

5. 評価

学期末試験 100%

6. 教科書・参考書

教科書：「物理化学テキスト」葛谷 編 廣川書店

参考書：「薬学物理化学（第4版）」小野 編 廣川書店、「薬学物理化学演習（第2版）」小野 編 廣川書店、
「アトキンス物理化学（第8版）上・下巻」P. W. Atkins 著 / 千原・稲葉 訳 東京化学同人、「スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学 I . 物質の物理的性質」日本薬学会 編 東京化学同人

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	分子間相互作用Ⅰ 「講義」	C1-(1)-②-2	極性分子, 無極性分子, 静電相互作用	小野 哲也
2	分子間相互作用Ⅱ 「講義」	C1-(1)-②-1,3,4	ファンデルワールス力, 双極子間相互作用	小野 哲也
3	分子間相互作用Ⅲ 「講義」	C1-(1)-②-5,6,7	水素結合, 電荷移動, 疎水性相互作用	小野 哲也
4	分子間相互作用Ⅳ 「講義」	C1-(1)-②	化合物の沸点, 融点	小野 哲也
5	原子・分子の挙動Ⅰ 「講義」	C1-(1)-③-1	電磁波の性質および物質との相互作用	大樂 武範
6	原子・分子の挙動Ⅱ 「講義」	C1-(1)-③-2,3	分子の振動, 回転, 電子遷移 電子や核のスピンとその磁気共鳴	大樂 武範
7	原子・分子の挙動Ⅲ 「講義」	C1-(1)-③-4,5,6	光の屈折, 偏光, および旋光性 光の散乱および干渉, 結晶構造と回折現象	大樂 武範
8	気体の微視的状態と巨視的 状態Ⅰ「講義」	C1-(2)-①-1	ファンデルワールスの状態方程式	柏木 良友
9	気体の微視的状態と巨視的 状態Ⅱ「講義」	C1-(2)-①-2	気体の分子運動とエネルギー	柏木 良友
10	気体の微視的状態と巨視的 状態Ⅲ「講義」	C1-(2)-①-3	エネルギーの量子化とボルツマン分布	柏木 良友
11	電気化学Ⅰ 「講義」	C1-(2)-⑦-1,2	化学電池, 電極電位, 起電力とネルンスト式, 濃淡電池	柏木 良友
12	電気化学Ⅱ 「講義」	C1-(2)-⑦-1,2	化学電池, 電極電位, 起電力とネルンスト式, 濃淡電池	柏木 良友
13	定期試験			柏木 良友 小野 哲也 大樂 武範

授業科目名	薬学と法		1 年
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1 単位
担当教員	准教授：多根井 重晴		

1. 科目の概要

近代国家において、医薬品の取扱は厳しい法律規制のもとに行われている。その取り扱いの責任者としての任に当たるのが薬の専門家である薬剤師である。薬剤師は法律上種々の権限が与えられると共に重い責任を負っている。薬学生は薬学と法の関係について学び、将来の薬剤師としての重要な使命を認識することが必要である。

本科目においては、薬に関する法律の歴史に始まり、薬害事件、医薬品副作用被害救済制度、医薬品医療機器等法による医薬品等の規制事項や、薬を取り巻く薬事行政一般について学び、薬学生として知っておかなければならない法との関係についての基礎的事項を修得する。

2. 一般目標

薬に関する法律の歴史的背景、医薬品等を規制する法律、医薬品副作用被害救済制度、薬剤師業務や製薬企業の仕事に係る法律を学び、法との関係についての基本的知識を修得する。

3. 行動目標

①薬に関する法律の歴史について概説できる。②薬を取り巻く法律について概説できる。③薬害事件とその対処、医薬品副作用被害救済制度について概説できる。④薬事に関する行政一般について概説できる。

4. 準備学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと。

なお、予習及び復習に際しては、概ね各々2時間程度の勉強時間を要するものとする。個々の進捗状況にもよるが、場合によっては演習問題等を積極的に取り入れることにより、早期の段階で知識の定着化を図る等、効率的で効果的な学習方法を確立し、実施すべきであるとする。

5. 評価

授業への出席並びにレポートの提出を必須条件とし、定期試験（50％）に授業態度（25％）、課題への取り組み（25％）を加味するが、本学の成績評価基準に準拠して最終判定し、総合評価する。

6. 教科書・参考書

教科書：わかりやすい薬事関係・法規（廣川書店）

薬学ドリル 得点源にする法規（メディセレ教育出版）

参考書：2017 ポケット医薬品集（白文舎）

これからの社会薬学（南江堂）

判例六法（有斐閣）

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	はじめに 「講義」	B	薬学と法とは	多根井重晴
2	法・倫理・責任 「講義」	B-(2)-①	法規・倫理・責任	多根井重晴
3	制度(1) 「講義」	B-(3)-① B-(4)-①	医療制度	多根井重晴
4	制度(2) 「講義」	B-(3)-②	医療と経済	多根井重晴
5	制度(3) 「講義」	B-(2)-②	医薬品開発・血液供給体制	多根井重晴
6	小括 「講義」	B-(2)	薬事紛争	多根井重晴
7	総括 「講義」	B	まとめ	多根井重晴
8	定期試験		定期試験	多根井重晴

授業科目名	薬学演習 I		1 年
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1 単位
担当教員	学年主任， 1 年次科目担当教員		

1. 科目の概要

上級学年で受講する薬学専門領域を修得するためには，各学年で学習する薬学基礎科目や薬学専門科目に関する知識を整理し，かつ確実なものとして理解しておく必要がある。本演習では，1 年次で学んだ薬学基礎科目および薬学専門科目について，演習中心の講義を行い，練習問題を通して解答を導くまでの客観的かつ論理的思考能力を養うと共に，2 年時以降で行われる薬学専門科目の受講に備える。

2. 一般目標

2 年次で学ぶ薬学基礎科目および薬学専門科目について，演習を通して知識の整理を行い，同時に基本事項に関する問題を解くための論理的思考能力向上を目標とする。

3. 行動目標

1 年次に履修する薬学基礎・専門科目の総復習なので，学習者は演習を通して自分の弱点を見つけ，速やかにそれを克服するよう自己研鑽に励む。

4. 準備学習

予習：当日の講義範囲については，予め担当教員名とともに掲示するので，その範囲の予習を必ず行うこと（30 分）。

復習：講義では，教員による重要事項の説明と一定時間内での問題の解答およびその解説が行われる。学力養成のため，講義で分からなかったところを教科書や参考書，ノートなどで理解するように努め，それでも理解できなかったところについて教員に質問するなどし，その日のうちに理解することに努めること（60 分）。

5. 評価

薬学演習 I 一次試験または二次試験において，得点率 65% 以上を合格とする。

6. 教科書・参考書

教科書：各教科で使用した教科書，プリント等

参考書：コアカリマスター改訂第 5 版 Vol.1（3 冊）薬学ゼミナール

7. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 ～ 15	演習講義	1 年次に開講された薬学基礎科目と薬学専門科目の演習を実施する。	学年主任 科目担当教員
16	平成 30 年 1 月 24 日 薬学演習 I 試験(一次試験)		学年主任 科目担当教員
17	平成 30 年 2 月 9 日 薬学演習 I 試験(二次試験)		学年主任 科目担当教員